

조선총독부 조사일보(1921~1939)

283

2006. 12.

통제청도서실



B0055930

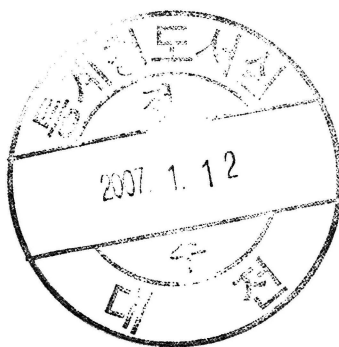
사회통계국 인구동향과

312.1
5.142

인구통계 자료집-1

조선총독부 조사일보(1921~1939)

2006. 12.



B55930

사회통계국 인구동향과

人口動態

昭和十年
大正十年
(1921~1929)

통계청 도서실



B0045768

昭. 2
2540

人口動態

昭和五年 出生、死亡、死産、婚姻、離婚、既偶数
(大正10年 ~ 昭和5年)

昭和六年 出生、死産、出生、異比較表
(大正12年 ~ 昭和7年)

昭和八年 出生、出生、死産、死亡数
(大正13年 ~ 昭和8年)

昭和九年 出生、出生、死産、死亡總数
(大正14年 ~ 昭和9年)

昭和十年 出生、出生、死産、婚姻、離婚、
(昭和1年 ~ 昭和10年)

" 人口動態の対比 南總督聲明
" " 井坂口勢調査課長人事

昭和十一年 出生、出生、死産。
(昭和2年 ~ 昭和11年)

昭和十二年 婚姻、離婚、既偶数
(昭和8年 ~ 昭和12年)

昭和十三年 出生、死亡 (4月 ~ 9月)

昭和十四年 出生、死亡 (1月 ~ 3月)

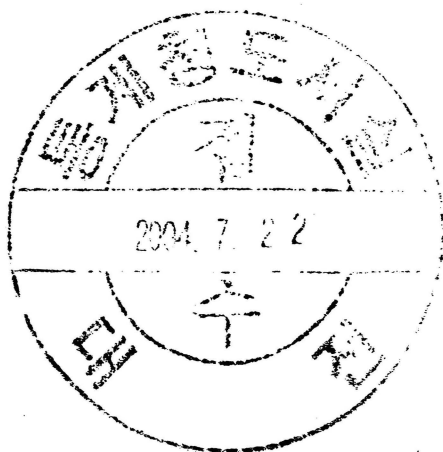
B 45168

人口動態 昭和五年

出生、死亡、死産、婚姻、離婚、
配偶数、(大正10年～昭和5年)

出生と死産月別表

出生比較表(大正10年～昭和5年)



昭和五年の死亡

昭和五年中朝鮮に於ける、死亡者は三十八萬一千八百七十七人（内地人七千六百八十一人朝鮮人三十七萬）にして、一日平均一千四十六人、人口千に付一八・九人なり、之を前年に比するに、七萬九千八百五十二人、人口千に付五・〇人を減少せり。

死亡率を既往十箇年に遡つて見るに左表の如く、最高は昭和四年の人口千に付二三・九人、最低は昭和五年の一八・九人にして、平均二一・二人なり。

年次	實數	人口千に付	年次	實數	人口千に付
大正十年 (1921)	三四五、二六二	一九・八	昭和元年 (1926)	三八七、七四三	二〇・三
同 十一年 (1922)	三七七、七五〇	二一・四	同 二年 (1927)	四一一、〇一五	二一・五
同 十二年 (1923)	三六七、一二〇	二〇・五	同 三年 (1928)	四三三、三七五	二三・一
同 十三年 (1924)	三八七、五八六	二一・五	同 四年 (1929)	四六一、七二九	二三・九
同 十四年 (1925)	三九二、四九七	二〇・六	同 五年 (1930)	三八一、八七七	一八・九

昭和五年に於ける死亡率を道別に見るに、最高は平北の人口千に付二五・五人、最低は全南の一三・〇人にして、其の差一二・五人、即ち平北は全南に殆んど二倍する死亡率を有す、死亡率は、平南・平北・咸南・咸北等の北鮮及京畿・黄海・江原等の中鮮に高く、忠北・忠南・全北・全南・慶北・慶南等南鮮に低し、即ち次表の如し。

	實數	人口千ニ付		實數	人口千ニ付
京畿道	四四、四三七	二一・八	忠清南道	二〇、二五二	一五・〇
忠清北道	一五、二三二	一七・四	全羅北道	一九、二八三	一三・二
全羅南道	二九、〇九一	一三・〇	平安北道	三八、一五八	二五・五
慶尙北道	三八、三九九	一六・四	江原道	三二、四三三	二三・〇
慶尙南道	三五、六〇三	一七・三	咸鏡南道	三二、二〇七	二一・七
黃海道	三二、七七〇	二二・〇	咸鏡北道	一四、五三七	二〇・三
平安南道	二九、四七五	二二・七	總計	三八一、八七七	一八・九

死亡の月は一月乃至三月及十二月に最も多く、四月乃至八月之に次ぎ、九月乃至十一月に於て最も少し、即ち冬期に最も多く、春期及夏期之に次ぎ、秋期に於て最も少し。

	實數	千分比例		實數	千分比例
一月	三六、五四九	九五・七	八月	三〇、九三七	八一・一
二月	三六、四四一	九五・四	九月	二八、三二三	七四・二
三月	三九、四二四	一〇三・二	十月	二五、四三四	六六・六
四月	三二、三二〇	八四・六	十一月	二六、八七五	七〇・三
五月	三一、四六九	八二・四	十二月	三三、五六一	八七・九
六月	二九、六九七	七七・八	總計	三八一、八七七	一〇〇〇・〇
七月	三〇、八四七	八〇・八			

死亡者の年齢別は五歳未満の小兒最も多く、死亡全體の三割四分を占め、五歳—九歳は急激に減少して六分

五厘となり「十歳—十四歳」及「十五歳—十九歳」は最も少く、三分七厘を示す。二十歳より三十九歳は著しき増減なく。四分強の状態を示し、「四十歳—四十九歳」の六分二厘より漸次増加して、五十歳—五十九歳は六分八厘、六十歳—六十九歳は九分五厘となるも、七十歳—七十九歳は稍低下して八分四厘、八十歳以上は三分六厘に減少す、即ち次表の如し。

	實 數	千 分 比 例		實 數	千 分 比 例
一 年 未 滿	四六、二三九	一二・一	三十五年以上	一五、五〇一	四〇・六
一 年 以 上	四〇、九六八	一〇七・三	四十年以上	二三、七五〇	六二・二
二 年 以 上	四四、六五九	一一・九	五十年以上	二五、八八〇	六七・八
五 年 以 上	二四、九四八	六五・三	六十年以上	三六、〇八七	九四・五
十 年 以 上	一四、二一六	三七・二	七十年以上	三一、九〇八	八三・五
十五生以上	一四、四七二	三七・九	八十年以上	一三、六二四	三五・七
二十年以上	一六、三〇〇	四二・七	年 齡 不 詳	一、四〇七	三・七
二十五年以上	一五、三〇八	四〇・一	總 計	三八一、八七七	一〇〇〇・〇
三十年以上	一六、六一〇	四三・五			

死亡の原因たる疾病別を見るに左表の如く、神経系病の二割、消化器病の一割八分、呼吸器病の一割四分感冒の九分及傳染性病の八分等最も著しく、之に次ぐは老衰病の六分五厘、循環器病の四分八厘、全身病及泌尿生殖器病の二分七厘なり。

	實數	千分比例		實數	千分比例
全身病	一〇、三六三	二七・一	消化器病	六九、七一九	一八二・六
精神病	六、五八六	一七・二	齒牙病	六九三	一・八
神經系病	七四、六九三	一九五・六	運動器病	四、四二七	一一・六
循環器病	一八、四九五	四八・四	皮膚病	六、八六〇	一八・〇
眼及其の附屬器病	七七三	二・〇	泌尿生殖器病	一〇、四七五	二七・四
耳病	七二二	一・九	外傷	二、九六一	七・八
鼻咽喉病	六、七四一	一七・六	溺死及縊死	四、六〇〇	一二・一
呼吸器病	五四、三五五	一四二・三	畸形及幼年	三、二六七	八・六
老衰	二四、六六九	六四・六	脚氣	一、〇九一	二・九
妊娠及産	三、三九八	八・九	感冒	三四、九〇三	九一・四
中毒	三、六〇四	九・四	傳染性病	二九、六〇三	七七・五
新生物	七四〇	一・九	不明の診斷原因	四、一五〇	一〇・九
寄生蟲病	三、九八九	一〇・五	總計	三八一、八七七	一〇〇〇・〇

死亡者の性別は男二十萬五千百六十四人、女十七萬六千七百十三人、女百に付男一一六・一にして、前年に比し男の割合三・二を増加せり。

	男	女	女百に付男
大 正 十 年	一八二、〇五六	一六三、二〇六	一一五・四
大 正 十 一 年	二〇〇、〇〇〇	一七七、七五〇	一一二・一
大 正 十 二 年	一九四、四九三	一七三、六二七	一一二・七

大正十三年	二〇五、八六四	一八一、七二二	一一二・七
大正十四年	二〇九、六一五	一八二、八八二	一一四・六
昭和元年	二〇六、〇九〇	一八一、六五三	一一三・五
昭和二年	二一八、七二五	一九二、二九〇	一一三・七
昭和三年	二三〇、二一九	二〇三、一五六	一一三・三
昭和四年	二四四、八〇八	二一六、九二一	一一二・九
昭和五年	二〇五、一六四	一七六、七一三	一一六・一

次に死亡者の體性を年齢別に見るに、女に對する男の割合は、「五歳未満」及「五十歳—五十九歳」を山とし、「十五歳—二十四歳」及「八十歳以上」を谷とせる波狀を形成す。即ち「五歳未満」に於ては、女百に付男、一・九・六を占むるも、それより年齢の長するに従ひ、男の割合を遞減し、「十五歳—十九歳」に於ては、男は女より少く、女百に付男九・九を示し、「二十歳—二十四歳」は更に減少して九・九・〇を有す、二十五歳以上は漸次男の割合を増加し、「五十歳—五十九歳」は一四〇・六の高率を示すも、六十歳以上は再び遞減し、八十歳以上は九四・二に減少す、即ち次表の如し。

	男	女	女百 = 付男
一年未満	二五、四八二	二〇、七五七	一一二・八
一年以上	二二、四三六	一八、五三二	一一二・九
二年以上	二三、九一〇	二〇、七四九	一一五・二
(五年未満計)	七一、八二八	六〇、〇三八	一一九・六
五年以上	一三、一九五	一一、七五三	一一二・三

十年以上	七、四九九	六、七一七	一一六・四
十五年以上	七、二三一	七、二四一	九九・九
二十年以上	八、一〇八	八、一九二	九九・〇
二十五年以上	八、〇四八	七、二六〇	一一〇・九
三十年以上	八、五五四	八、〇五六	一〇六・二
三十五年以上	八、三一九	七、一八二	一一五・八
四十年以上	一三、四一六	一〇、三三四	一二九・八
五十年以上	一五、一二四	一〇、七五六	一四〇・六
六十年以上	一九、九四一	一六、一四六	一二三・五
七十年以上	一六、五三三	一五、三七五	一〇七・五
八十年以上	六、六〇七	七、〇一七	九四・二
年齢不詳	七六一	六四六	一一八・三
總計	二〇五、一六四	一七六、七一三	一一六・一

尙詳細は以下四表の通りなり。

現住内地人朝鮮人外國人死亡者道別表 (昭和五年)

道	内地人		朝鮮人		外國人		合	
	男	女	男	女	男	女	男	女
京畿道	一、〇六三	九五	三、四一九	一九、九五一	四五	三四	三三、五七	二〇、九一〇
忠清北道	五九	六	七、九〇〇	七、一五	一	一	七、九六〇	七、二七二
忠清南道	一八	一四	一〇、八六六	九、〇七八	五	一	一一、〇三九	九、三三三
計								

全羅北道	二四八	一八八	一〇、四〇三	八、四三六	八	一	一〇、六五八	八、六二五	一九、二八三
全羅南道	二五二	二二六	一五、六四六	一二、九五〇	一四	三	一五、九一二	一三、一七九	二九、〇九一
慶尙北道	二四五	二三四	二〇、三八八	一七、五二六	四	二	二〇、六三七	一七、七六二	三八、三九九
慶尙南道	八七九	七三四	一八、四九一	一五、四九六	一	二	一九、三七一	一六、三三二	二五、六〇三
黃海道	二一七	一三三	一七、二六九	一五、二一〇	三〇	一三	一七、四一六	一五、三五四	三二、七〇〇
平安南道	二九三	三二四	一五、四一四	一三、三八一	五十一	三三	一五、七五八	一三、七七七	二九、四七五
平安北道	一三六	一二一	九、九九四	一七、七八六	八〇	四一	二〇、二一〇	一七、九四八	三八、一五八
江原道	七二	四八	一七、三六五	一四、九四五	二	一	一七、四三九	一四、九九四	三二、四三三
咸鏡南道	三五九	二三七	一六、九三八	一四、六二五	四二	六	一七、三三九	一四、八六八	三三、二〇七
咸鏡北道	三三三	二〇〇	七、六三八	六、四三三	四八	一六	七、九〇八	六、六二九	一四、五三七
總計	四、一〇三	三、五七八	二〇〇、七三〇	一七二、九九一	三三二	一四三	二〇五、一六四	一七六、七二三	三八一、八七七

(昭和五年)

內地人		朝鮮人		外國人		合		計
男	女	男	女	男	女	男	女	
三八四	三三六	一九、二五五	一六、五三四	二六	一四	一九、六六五	一六、八八四	三六、五四九
二九三	二五二	一九、〇三一	一六、八三八	二七	一一	一九、三四〇	一七、一〇一	三六、四四一
四〇一	三三一	三〇、八八五	一七、七七一	二九	六	二一、三一五	一八、一〇九	三九、四三四
三二八	二五〇	一七、〇八五	一四、六八	二九	一〇	一七、四三三	一四、八八八	三三、三二〇
三二九	二五九	一六、五九八	一四、二五二	二六	一五	一六、九四三	一四、五二六	三二、四六九
二八五	三三〇	一五、六〇九	一三、四五〇	二七	一六	一五、九二二	一三、七七六	二九、六九七

七 月
八 月
九 月
十 月
十 月
十 月
總 計

現住內地人朝鮮人外國人死亡者年齡別表

(昭和五年)

	內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		合		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
一年未滿	五九〇	五三〇	二四、八五六	二〇、一九五	三六	四三	二五、四八二	二〇、七五七	四六、二三九
一年以上	二九七	二六三	三三、一二七	一八、二五四	三三	一六	三三、四三六	一八、五三三	四〇、九六八
二年以上	三三六	三七〇	三三、五六〇	二〇、三六九	二四	一〇	三三、九一〇	二〇、七四九	四四、六五九
五年以上	三三六	二九	二二、九五五	一一、五二七	一四	一七	一三、一九五	一一、七五三	二四、九四八
十年以上	一四四	一六七	七、三四九	六、五四七	六	三	七、四九九	六、七七七	一四、二六六
十五年以上	二六	二四	七、〇〇八	七、〇四四	七	三	七、三三一	七、三四一	一四、四七二
二十年以上	二六二	二五二	七、八二九	七、九三八	一八	三	八、一〇八	八、一九二	一六、三〇〇
二十五年以上	二二七	二三四	七、八〇〇	七、〇二〇	三	六	八、〇四八	七、二六〇	一五、三〇八
三十年以上	一九二	三三七	八、三三七	七、八二六	二六	三	八、五五四	八、〇五六	一六、六一〇
三十五年以上	一六三	一六三	八、二八	七、〇一〇	二六	一〇	八、三三九	七、一二二	一五、五〇一
總 計	四、〇三三	三、五七八	二〇〇、七三〇	一七三、九六一	三三二	一四三	二〇五、一六四	一七六、七三三	三八八、八七七

四十一年以上
五十年以上
六十年以上
七十年以上
八十年以上
年齡不詳
總計

四〇三	二七	一二、六〇	一〇、〇四八	五三	一三、四二六	一〇、三三四	二三、七五〇
四八二	三三四	一四、六〇九	一〇、五一	三三	一五、一二四	一〇、七五六	二五、八八〇
三五五	一九一	一九、五六八	一五、九四九	一八	一九、九四一	一六、一四六	三六、〇八七
一七五	一六九	一六、三五二	一五、二〇三	七	一六、五三三	一五、三七五	三二、九〇八
五三	七六	六、五五一	六、九三八	三	六、六〇七	七、〇一七	一三、六三四
四	三	七五一	六四三	五	七六一	六四六	一、四〇七
四、一〇三	三、五七八	二〇〇、七三〇	一七二、九三	三三	二〇五、一六四	一七六、七二三	三八一、八七七

現住內地人朝鮮人外國人死亡者病類別表 (昭和五年)

	內地人		朝鮮人		外國人		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
全身病	二九〇	二六八	五、五三三	四、二六〇	八	四	五、八三一	四、五三三
精神病	三三	一六	三、七四三	二、八〇〇	四	一	三、七四〇	二、八一六
神經系病	四三九	三〇一	四〇、二〇五	三三、七二一	二九	八	四〇、六六三	三四、〇三〇
循環器病	三三二	二三八	九、八六六	八、〇五三	一六	一〇	一〇、一九四	八、〇〇一
眼及其病	二	一	四二	三四八	一	一	四二	三四九
附屬病	四	五	三七九	三三三	一	一	三八四	三三八
耳鼻喉病	二八	一三	三、六五八	三、〇三九	一	二	三、六六七	三、〇五四
呼吸器病	七二	六三二	二八、五六六	二四、三四	七九	三三	二九、三五六	二四、九九九
消化器病	七四七	六四六	三六、九六七	三一、二九	八九	五一	三七、八〇三	三一、九一六
齒牙病	一	二	三八三	三〇七	一	一	三八四	三〇九

運動器病	四	三九	二、五四五	一、七九八	三	—	二、五八九	一、八三八	四、四二七
皮膚及其附屬器病	三三	二四	三、八三四	二、九六五	三	一	三、八七〇	二、九九〇	六、八六〇
泌尿生殖器病	一三九	一八一	五、〇六一	五、〇〇〇	一〇	四	五、二二〇	五、二六五	一〇、四七五
外傷	一二	七五	一、六五九	一、〇九〇	二五	—	一、七九六	一、一六五	二、九六一
溺死及縊死	八四	二九	二、八二八	一、六五三	六	—	二、九一八	一、六八二	四、六〇〇
畸形及幼年	一一五	九三	一、六六〇	一、三九七	二	一	一、七七七	一、四九〇	三、二六七
老衰	一〇五	一一七	二、五三七	一、九三五	三	二	二、六三五	二、〇三四	二四、六六九
妊娠及產	—	六八	—	三、三七	—	三	—	三、三九八	三、三九八
中毒	五三	四〇	一、九五九	一、五四二	七	三	二、〇一九	一、五八五	三、六〇四
新生物	六五	四四	三三一	三〇〇	—	—	三九六	三、四四	七四〇
寄生蟲病	四	九	二、〇四六	一、九三〇	—	—	二、〇五〇	一、九三九	三、九八九
腳氣	二五	三四	七二	三三〇	—	—	七三七	三、五四	一、〇九一
感冒	六二	六四	一八、四五四	一六、〇四四	一三	六	一八、五二九	一六、三七四	三四、九〇三
傳染性病	六九六	六二四	一五、一四	一三、二八	二七	一四	一五、八三七	一三、七六六	二九、六〇三
不明診斷及不詳原因	三三	一六	二、二九	一、八八八	三	一	二、三〇五	一、八四五	四、一五〇
總計	四、一〇三	三、五七八	二〇〇、七三〇	一七二、九九二	三三二	一四三	二〇五、一六四	一七六、七三	三八一、八七七

新島縣志

昭和五年の出産

昭和五年中朝鮮に於ける出産、即ち出生と死産との合計は七十七萬六千七百八十一人にして、内出生七十七萬二千二百七十人、死産四千四百一十人にして、出産百に付出生九十九・四、死産〇・六なり。

而して過去十箇年間に於ける、出生と死産との割合を示せば、次の如く著しき變動なきも、漸次死産減少の傾向あり。

年次	實數			出產百に付	
	出產總數	出生數	死產數	出生	死產
大正十年	五二二、一四四	五一八、〇六三	四、〇八一	九九・二	〇・八
大正十一年	五九九、五一八	五九五、〇〇五	四、五一三	九九・二	〇・八
大正十二年	七二三、〇三一	七一九、一六一	三、八七〇	九九・五	〇・五
大正十三年	六九四、八五一	六九〇、六二二	四、二二九	九九・三	〇・七
大正十四年	七二五、九四三	七二二、四九三	三、四五〇	九九・五	〇・五
昭和元年	六八〇、〇〇二	六七六、一七六	三、八二六	九九・四	〇・六
昭和二年	七〇一、八五三	六九八、一八九	三、六六四	九九・五	〇・五
昭和三年	七二五、二一四	七二一、五九四	三、六二〇	九九・五	〇・五
昭和四年	七三三、七七六	七三〇、一七九	三、五九七	九九・五	〇・五
昭和五年	七七六、七〇〇	七七二、二七〇	四、四三〇	九九・四	〇・六

2、今出生及死産に付、各別に見れば左の如し。

一 出生

出生總數

昭和五年中朝鮮に於ける出生は、七十七萬二千三百七十人（内地人一萬一千四百三十二人、朝鮮人七十六萬六千三百三十八人）に

して一日平均二千百十六人、人口に對比するに千に付三八・一に當り、内地に於ける三三・〇（昭和四年）に比し五・一

高し、之を前年に比較するに、實數に於て四萬二千九十一人を増加せるも、率に於ては増減なし。

出生累年比較

出生率を既往十箇年に遡つて見るに、最高は人口千に付、大正十二年の四〇・二、最低は大

正十年の二九・七にして、平均三六・六なり、

年 次	實 數	人口千に付	年 次	實 數	人口千に付
大正十年	五一八、〇六三	二九・七	昭和元年	六七六、一七六	三五・四
大正十一年	五九五、〇〇五	三三・八	昭和二年	六九八、一八九	三六・五
大正十二年	七一九、一六一	四〇・二	昭和三年	七二一、五九四	三七・六
大正十三年	六九〇、六二二	三八・二	昭和四年	七三〇、一七九	三八・一
大正十四年	七二二、四九三	三八・〇	昭和五年	七七二、二七〇	三八・一

出生率道別

出生率を道別に見るに、最高は人口千に付、平北の四八・八、最低は全北の二五・五にして、

其の差二三・三、即ち平北は全北に殆んど二倍する出生率を有す、出生率高きは平北、平南、咸南、咸北の諸道、低きは全北、忠南、慶南にして大體南鮮に低く、北鮮に高し。

出生兒の體性 昭和五年に於ける出生兒は、男四十萬六千四百三十八人、女三十六萬五千八百三十二人、其の割合は女一〇〇に付、男一一・一にして、前年に比し男の割合一・五を減少せり、之を既往十箇年に遡り比較するに、多少の高低あるも、常に一二以上の割合を示し、内地の女百に付男一〇・四・四（昭和三年）の割合を有するに比し男の數著しく多し。

道 名	實 數	人口千に付	道 名	實 數	人口千に付
京 畿 道	七七、七三二	三八・一	黄 海 道	五四、二八三	三六・四
忠 清 北 道	三二、八四五	三七・五	平 安 南 道	五九、四四三	四五・八
忠 清 南 道	四五、一二四	三三・四	平 安 北 道	七三、〇二五	四八・八
全 羅 北 道	三七、一八九	二五・五	江 原 道	六〇、八四七	四三・一
全 羅 南 道	八八、一六一	三九・四	咸 鏡 南 道	六四、三六〇	四三・三
慶 尙 北 道	八一、八九二	三五・一	咸 鏡 北 道	二八、四二七	三九・七
慶 尙 南 道	六八、九四二	三三・五	總 計	七七二、二七〇	三八・一
年 次	男	女	女百に付 男		
大 正 十 年	二七九、二〇三	二三八、八六〇	一一六・九		
大 正 十 一 年	三一三、八九四	二八一、一一一	一一一・六		
大 正 十 二 年	三七五、三一六	三四三、八四五	一〇九・二		
大 正 十 三 年	三六八、六〇九	三二二、〇一三	一一四・四		
大 正 十 四 年	三八一、九七七	三四〇、五一六	一一二・一		
昭 和 元 年	三六一、一二二	三一五、〇五四	一一四・六		

昭和二年	三七一、六七五	三二六、五一四	一二三・八
昭和三年	三八三、三一五	三三八、二七九	一二三・三
昭和四年	三八六、七〇〇	三四三、四七九	一二二・六
昭和五年	四〇六、四三八	三六五、八三二	一二一・一

出生の季節 昭和五年に於ける出生は一月が最も多く、三月之に次ぎ多く、之に反し六月が最も少く、七月之に次ぎ少なく、大體に於て冬期より初春にかけて多く、夏季及秋季に少し。

月次	實數	一年平均一箇月出生百に付	月次	實數	一年平均一箇月出生百に付
一月	八二、二六七	一二七・八	八月	五九、五一九	九二・五
二月	七四、五〇四	一一五・八	九月	七六、一〇一	一一八・二
三月	七八、五七一	一二二・一	十月	五七、一〇三	八八・七
四月	六五、九五二	一〇二・五	十一月	五四、三五二	八四・五
五月	六〇、四一三	九三・八	十二月	六八、三二七	一〇六・二
六月	四六、二〇六	七一・八	總計	七七二、二七〇	一一二〇〇・〇
七月	四八、九五五	七六・一	一年平均一箇月の出生	六四、三五六	一〇〇・〇

二 死 産

死産總數 昭和五年中朝鮮に於ける死産は四千四百三十人にして、人口に對する割合は千人に付、〇・二二二なり。之を前年に比較するに、實數に於て八三三人、割合に於て〇・〇三を増加せり。

死産累年比較 死産率を既往十箇年に遡つて見るに、人口千に付大正十一年の〇・二六を最高とし、爾後漸次減少して〇・一九を示せるも、昭和五年は再び〇・二二に増加せり。之を内地に於ける死産率減少の傾向あるに不拘、一・九〇（昭和三年）を示すに比し、著しく低率なり。

年次	實數	人口千に付	年次	實數	人口千に付
大正十年	四、〇八一	〇・二三	昭和元年	三、八二六	〇・二〇
大正十一年	四、五一三	〇・二六	昭和二年	三、六六四	〇・二九
大正十二年	三、八七〇	〇・二二	昭和三年	三、六二〇	〇・二九
大正十三年	四、二二九	〇・二三	昭和四年	三、五九七	〇・二九
大正十四年	三、四五〇	〇・一八	昭和五年	四、四三〇	〇・二二

死産道別 死産率を道別に見るに、最高は人口千に付、平南の〇・四七、最低は全南の〇・一一にして、其の差は〇・三六なり。

道名	實數	人口千に付	道名	實數	人口千に付
京畿道	八八九	〇・四四	黃海道	二七四	〇・一八
忠清北道	五九	〇・〇七	平安南道	六〇四	〇・四七
忠清南道	二〇五	〇・一五	平安北道	四〇〇	〇・二七
全羅北道	一七九	〇・一二	江原道	二〇六	〇・一五
全羅南道	二五〇	〇・一一	咸鏡南道	二六〇	〇・一八
慶尙北道	一七三	〇・〇七	咸鏡北道	三三〇	〇・四六
慶尙南道	六〇一	〇・二九	總計	四、四三〇	〇・二二

出生道別表 昭和五年

道名	内地人		朝鮮人		外國人		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	計	計	計	計	計	計	計	計
一月	四八	三三	一七五	一七	二	二	三三	一四三
二月	四二	二四	一五一	一六	一	一	一九三	一六二
三月	四四	二四	一七五	一四	一	一	三九	二八
四月	三六	一九	一四七	一三	一	二	一八三	一四三
五月	六	三	一六八	二九	一	一	一九四	一六二
六月	三六	三	一六七	一四	一	一	二〇三	一六
七月	六	三	一八八	一五〇	一	一	三三七	一八四
八月	四七	三	一九二	一三二	一	一	二九九	一六七
九月	四一	四〇	一五六	一三三	一	二	一九九	一七四
十月	六	六	一七〇	一四二	一	一	二〇八	一八〇
十一月	三〇	三〇	一六二	一八	二	一	一九三	一五〇
十二月	三二	三六	一七〇	一六二	一	二	二〇三	一八八
計	四三三	三四八	二、〇三三	一、五八八	九	二	二、四八五	一、九四五
京畿道	七、六七九	六、八八七	七、五八	五、九三三	五、五四	四、三九一	四、八五六	六、九三二
忠清北道	三、六六七	三、三三七	三、七三二	二、九三〇	二、八七七	一、六六八	一、五三七	二、三五四
忠清南道	四、八六〇	四、四八二	四、七六六	三、八六八	三、八〇一	二、二六七	二、五四〇	三、六四八
全羅北道	四、二七	三、七四六	三、八〇	三、二七六	二、七五	一、九〇九	二、四七〇	二、八二六
全羅南道	一一、七八五	一〇、四三二	一〇、七八一	八、一五四	六、七三三	四、七七六	五、〇七四	五、五九四
慶尙北道	九、〇七五	八、一八九	八、二五	七、五一〇	六、三六二	三、八四六	四、八二七	六、三九〇
慶尙南道	六、三〇〇	六、五一五	六、〇六	五、二八五	五、〇三九	五、六二五	五、五九九	五、三三三
黃海道	五、八四六	四、九三二	五、三六	四、三三八	四、二五	三、三六七	三、四九八	四、二八八

死 產 道 別 表 昭和五年

道 名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
平安南道	六、〇六六	五、三三〇	五、七五一	四、九七八	四、九七一	三、八七五	三、八七七	四、八〇四	五、六三四	四、五一六	四、三六四	五、三七七	五九、四四三
平安北道	七、二〇九	六、三四二	六、八二八	六、六六二	六、二〇六	四、七五四	四、九二四	五、九九〇	六、八六六	五、三三三	五、四四二	六、四八九	七三、〇三五
江 原 道	六、三四八	五、五六五	六、二九三	五、一〇九	四、七九七	三、九六三	三、七九四	四、三七七	六、三六六	四、五七六	四、〇七三	五、六二六	六〇、八四七
咸鏡南道	六、六三八	六、〇四六	六、七三一	五、四〇四	四、八七二	三、九三三	四、三九四	四、八七三	五、八六八	四、七五九	四、九〇二	六、一〇五	六四、三六〇
咸鏡北道	二、五七七	二、六九三	三、四四五	二、六〇五	二、三四一	一、八五二	一、七五〇	一、九二二	二、六二四	二、〇四二	二、三三五	二、六五三	二八、四三七
總 計	八三、二六七	七四、五〇四	七八、五七一	六五、九五二	六〇、四二三	四六、三〇六	四八、九五五	五九、五二九	七六、一〇一	五七、一〇三	五四、三三二	六八、三三七	七七二、二七〇

道 名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
京 畿 道	八〇	七七	六六	六三	六八	六九	七三	八四	八六	七二	六八	七四	八八九
忠清北道	四	三	五	六	六	一	八	三	五	五	一〇	三	五九
忠清南道	二〇	三〇	三二	二八	一四	三二	一五	一八	一〇	一〇	一六	三三	二〇五
全羅北道	一六	一九	二〇	一一	七	三	三三	一六	一一	一八	一二	一五	一七九
全羅南道	三五	一五	一九	一六	二三	一四	二九	二五	三三	二五	一六	二二	二五〇
慶尙北道	五	一一	一五	一四	一二	一七	一九	二二	一四	二〇	九	一六	一七三
慶尙南道	五〇	四一	四三	四三	四六	五一	五一	七一	五五	四八	四六	五七	六〇一
黃 海 道	一七	一八	三三	二二	二二	三三	三二	三三	三一	二四	二八	一六	二七四
平安南道	四八	四九	四八	三六	四五	五五	四三	五四	五四	六九	五二	五一	六〇四
平安北道	三五	三〇	三七	三八	四〇	三二	三一	二九	三〇	四二	二八	四六	四〇〇
江 原 道	二〇	二二	一六	一二	二五	一八	二〇	一五	一五	二〇	一〇	二五	二〇六
咸鏡南道	一四	二二	二八	一九	二三	二三	二九	二〇	一七	二二	二五	二〇	二六〇
咸鏡北道	三三	三八	一八	二九	二八	三〇	四〇	三八	二三	一五	二三	二五	三三〇
總 計	三六七	三五四	三三七	三六	三五六	三六八	四一一	四〇六	三七三	三八八	三四三	三九一	四、四三〇

昭和五年の結婚、離婚及配偶數

一、結 婚

結婚總數 昭和五年中に行はれたる結婚は、十九萬九千二百八十一件（内地人千六百八十三件、朝鮮人十九萬（七千五百六十三件、外國人三十五件））にして一日平均五百四十六件、人口千に付九・八四件なり。之を前年に比較するに、五千十六件を増加せるも、割合に於ては人口千に付〇・二一件を減少せり。

結婚率累年比較 結婚率を既往十箇年に就きて見るに、最高は大正十二年の人口千に付一四・四九件、最低は大正十三年の八・六件にして、平均一〇・〇二件なり。

年 次	實 數	人口千に付	年 次	實 數	人口千に付
大 正 十 年	一五六、三四三	八・九六	昭 和 元 年	一六八、五九八	八・八三
大 正 十 一 年	一九四、七九三	一一・〇五	昭 和 二 年	一七五、九五三	九・一九
大 正 十 二 年	二五九、〇九六	一四・四九	昭 和 三 年	一九三、一六五	一〇・〇七
大 正 十 三 年	一五五、九三五	八・六三	昭 和 四 年	一九四、二六五	一〇・〇五
大 正 十 四 年	一七二、二五九	九・〇六	昭 和 五 年	一九九、二八一	九・八四

結婚率道別 道別に結婚率を見るに、最高は江原の人口千に付一一・八件、最低は慶南の五・七件にして、其

の差六・一件なり、結婚率は概して平南、平北、江原、咸南等北鮮に高く、全北、慶北、慶南等南鮮に低し。

道 別

實 數

人口千ニ付

道 別

實 數

人口千ニ付

京 畿 道

一九、四五七

九・五

黄 海 道

一五、一八一

一〇・二

忠 清 北 道

一〇、七〇二

一二・二

平 安 南 道

一五、〇五六

一一・六

忠 清 南 道

一二、九六一

九・六

平 安 北 道

一六、七七〇

一一・二

全 羅 北 道

一〇、五六六

七・三

江 原 道

一六、六七六

一一・八

全 羅 南 道

二五、二四九

一一・三

咸 鏡 南 道

一六、八五四

一一・四

慶 尙 北 道

二一、一一二

九・〇

咸 鏡 北 道

六、九九〇

九・八

慶 尙 南 道

一一、六七七

五・七

總 計

一九九、二八一

九・八

結婚の年齢

昭和五年に於ける内地人及朝鮮人、結婚者の年齢を先づ夫に就きて見るに、内地人は(満二十五

未滿)最も多く、總數の四・四割を占め、之に次ぐは(満三十歳以上)の二・四割、(満二十歳以上)の一・九割にして、

他は一割に足らず。朝鮮人は(満二十歳未滿)のもの最も多く、總數の三・八割を占め、之に次ぐは(満二十歳以上)の三・

二割及(満二十五歳以上)の一・七割にして、爾余は年齢の長するに従ひ、順次其の割合を減ず。

夫ノ年齢

内地人

朝鮮人

十 七 歳 未 滿

實 數

百分比

實 數

百分比

滿十七歳以上二十歳未滿

一

〇・一

一三、〇五九

六・六

滿二十歳以上二十五歳未滿

一二一

一・三

六一、五三八

三一・一

滿二十五歳以上三十歳未滿

三一九

一八・九

六三、四四三

三二・一

滿三十歳以上三十五歳未滿

七三七

四三・八

三三、一五四

一六・八

四〇二

二三・九

一五、二八五

七・七

滿三十五歲以上四十歲未滿	一三五	八・〇	六、二四五	三・二
滿四十歲以上五十歲未滿	五〇	三・〇	三、六三五	一・九
滿五十歲以上六十歲未滿	一四	〇・八	九六七	〇・五
滿六十歲以上	四	〇・二	二三七	〇・一
總計	一、六八三	一〇〇・〇	一九七、五六三	一〇〇・〇

更に妻に就て見るに、内地人は(滿二十歲以上)が總數の五・二割を占めて最も多く、(二十歲未滿)の二・三割之に次ぎ、(滿二十五歲以上)は一・七割なり。朝鮮人は(二十歲未滿)のもの總數の六割に達し、壓倒的多數を占め、(滿二十五歲以上)の三割、(滿二十五歲未滿)の〇・七割之に次ぎ、之より年齢の長するに従ひ急激に減少す。

妻ノ年齢	内地人		朝鮮人	
	實數	百分比	實數	百分比
十五歲未滿	五	〇・三	一〇、六八三	五・四
滿十五歲以上二十歲未滿	三九〇	二三・二	一〇五、九八〇	五三・七
滿二十歲以上二十五歲未滿	八七〇	五一・七	五八、八八一	二九・八
滿二十五歲以上三十歲未滿	二九二	一七・三	一三、六五五	六・九
滿三十歲以上三十五歲未滿	八三	四・九	五、一二五	二・六
滿三十五歲以上四十歲未滿	二六	一・五	一、九八八	一・〇
滿四十歲以上五十歲未滿	一一	〇・七	九七九	〇・五
滿五十歲以上六十歲未滿	六	〇・四	二二四	〇・一
滿六十歲以上	一	〇・〇	四八	〇・〇

總

計

一、六八三

一〇〇・〇

一九七、五六三

一〇〇・〇

昭和五年の結婚者に就き、平均結婚年齢を見るに、内地人は夫二十九・三歳、妻二十三・一歳にして、内地に於ける平均結婚年齢(昭和四年)夫二十九・〇歳、妻二十四・二歳に略相當せり、朝鮮人は夫二十三・六歳、妻二十・三歳にして、内地人に比し著しく低し。

昭和五年の結婚者に就き男女年齢組合せを見るに、内地人に在りは、夫(満二十五歳以上、妻(満二十歳以上)の二・七割最も多く、夫(満三十歳以上、妻(満二十歳以上)の一・二割、及び夫(満二十五歳以上、妻(満二十歳未滿)の一・一割之に次ぐ、朝鮮人に在りては、夫(満十七歳以上、妻(満十五歳以上)の二・二割最も多く、夫(満二十歳以上、妻(満十五歳以上)の一・七割、及び夫妻共に(満二十歳以上、妻(満二十歳未滿)の一・三割之に次ぎ、他は一割に達せず。

次に朝鮮人に就き、夫妻各年齢級の一方を標準として、相手方の年齢を見るに、各年齢ともに同等年齢級のものと、結婚するもの最も多き定型を有す。之を昭和四年内地婚姻統計に於て、(二十歳)及(満二十歳以上、未滿)の各年齢階級の男は、同等の年齢階級の女と結婚するもの最も多きも、其の他に於ては各年齢階級ともに、男は一階級乃至三階級下の女と、結婚するもの最も多きを示すに比較して、著しき異現象にして、朝鮮人の夫妻の年齢は内地人の其れよりも接近せるを示す、是朝鮮人が内地人に比し、早婚の傾向多きに原因するものと認めらる。

昭和五年朝鮮人結婚者中、法定結婚年齢に達せざるものは、夫一萬三千五十九人即總數の六分六厘にして、妻一萬六百八十三人、即總數の五分四厘に當る。之を前年に比較するに、夫は四厘、妻は八厘、夫々減少せり、既往十箇箇年に遡つて見るに、多少の變動あるも、總數に對する割合の平均は夫七分一厘、妻六分二厘にして、

妻

法定年齢に達せざる結婚者を道別に見るに、夫に於ては全南の一分（總數に對する割合）最も少く、平南の九全六厘最も

妻

實數	總數ニ付	實數	總數ニ付
六一〇	五七・一	四七〇	四四・〇
一、〇一一	七八・二	八六九	六七・二
六七九	六四・八	七〇〇	六六・八

妻			夫			妻			夫			妻			夫			妻			夫			妻			夫		
千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實	千	總	實
付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數	付	數	數
朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方			朝鮮地方		
四、三四九	四、三四九	四、三四九	四、八二三	四、八二三	四、八二三	二、七三九	二、七三九	二、七三九	三、一〇九	三、一〇九	三、一〇九	五、四二二	五、四二二	五、四二二	六、一五五	六、一五五	六、一五五	四、七三五	四、七三五	四、七三五	六、一五五	六、一五五	六、一五五	三、五九五	三、五九五	三、五九五	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇
全、畿南道	全、畿南道	全、畿南道	平安南道	平安南道	平安南道	江原道	江原道	江原道	京畿道	京畿道	京畿道	慶尙南道	慶尙南道	慶尙南道	黃海道	黃海道	黃海道	慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道
二五七	二五七	二五七	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	八五四	八五四	八五四	九八七	九八七	九八七	七二〇	七二〇	七二〇	一、二六八	一、二六八	一、二六八	一、八六〇	一、八六〇	一、八六〇	一、五五二	一、五五二	一、五五二	五七七	五七七	五七七	八三・四	八三・四	八三・四
八・一〇・二	八・一〇・二	八・一〇・二	九六・三	九六・三	九六・三	五一・三	五一・三	五一・三	五二・五	五二・五	五二・五	六三・二	六三・二	六三・二	八三・七	八三・七	八三・七	八八・四	八八・四	八八・四	九二・二	九二・二	九二・二	八三・四	八三・四	八三・四	八三・四	八三・四	八三・四
四八四	四八四	四八四	一、四一三	一、四一三	一、四一三	八七二	八七二	八七二	八一四	八一四	八一四	三七五	三七五	三七五	一、〇五三	一、〇五三	一、〇五三	一、四五一	一、四五一	一、四五一	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一三一	一三一	一三一	一三一	一三一	一三一
一九・二	一九・二	一九・二	九四・五	九四・五	九四・五	五二・三	五二・三	五二・三	四三・三	四三・三	四三・三	三二・九	三二・九	三二・九	六九・五	六九・五	六九・五	六九・〇	六九・〇	六九・〇	六〇・四	六〇・四	六〇・四	一八・九	一八・九	一八・九	一八・九	一八・九	一八・九

二、離

婚

離婚總數 昭和五年中朝鮮に於ける、離婚は九千七十七件、一日平均二十四・九件、人口千に付〇・四五件に當り、前年に比較して實數に於て、八百九十三件、割合に於て〇・〇三件を増加せり。又離婚を結婚に對比するに、結婚千に付、離婚四五・五件にして、前年の同割合に比し〇・三四件を増加せり。

離婚率累年比較 離婚率を既往十箇年に就き見るに、著しき高低なきも、最高は大正十二年の人口千に付〇・五件にして、最低は昭和二年の〇・三七件にして、平均〇・四二件なり。

年次	實數	人口千ニ付	年次	實數	人口千ニ付
大正十年	七、二九一	〇・四二	昭和元年	七、一〇三	〇・三八
大正十一年	七、三八八	〇・四二	昭和二年	七、一一二	〇・三七
大正十二年	八、八八九	〇・五〇	昭和三年	八、三五一	〇・四四
大正十三年	七、一七三	〇・四〇	昭和四年	八、一八四	〇・四二
大正十四年	七、七〇八	〇・四一	昭和五年	九、〇七七	〇・四五

離婚率道別 離婚率を道別に見るに、最高は人口千に付、平南の〇・九五件、最低は咸北の〇・一二件其の差〇・八三件なり。

道別	實數	人口千ニ付	道別	實數	人口千ニ付
京畿道	一、一〇一	〇・五四	黄海道	八三九	〇・五六
忠清北道	二六二	〇・三〇	平安南道	一、二三二	〇・九五
忠清南道	五一八	〇・三八	平安北道	六八三	〇・四六
全羅北道	三三三	〇・二二	江原道	四八四	〇・三四
全羅南道	一、三八三	〇・六二	咸鏡南道	五八二	〇・三九
慶尙北道	七〇六	〇・三〇	咸鏡北道	八九	〇・一二
慶尙南道	八六五	〇・四二	總計	九、〇七七	〇・四五

離婚の年齢 昭和五年中に於ける、離婚者の年齢を先づ夫に就て見るに、内地人は(満二十五歳以上三十歳未満)の三・四割

最も多く、之に次ぐは(満三十歳以上)の二・六割にして、更に(満四十歳以上)の一・六割及(満二十五歳以上)の一・二割等なり。朝鮮人は(満二十五歳以上)の二・九割最も多く、(満二十歳以上)の二・三割之に次ぎ、(満三十歳以上)の二・一割更に之に次げ。

更に妻に就て見るに、内地人は(満二十歳以上)の三・三割最も多く、之に次ぐは(満二十五歳以上)の二・八割、(満三十歳以上)の一・三割及(満十五歳以上)の一・二割なり、朝鮮人は(満二十歳以上)の三・一割最も多く、之に次ぐは(満二十五歳以上)の二・七割、(満三十歳以上)の一・六割及(満十五歳以上)の一・五割なり。

三、配 偶 数

昭和五年末現在に於ける配偶数は、四百八十二萬四千百三組、(内地人十萬九千五百七十六組、朝鮮人四百七十九組、外國人五千三十二組)にして、前年より六萬九千八百六十五組を増加し、人口千に付四百七十六人が、有配偶者たるなり。

現住内地人結婚離婚年齢別表

(離婚數ハ太書トス)

昭和五年

夫ノ年齢	妻ノ年齢	未 滿	滿十七歳以上二十歳未滿	滿二十歳以上二十五歳未滿	滿三十歳以上三十五歳未滿	滿四十歳以上五十歳未滿	滿五十歳以上六十歳未滿	滿六十歳以上	計
十五歳未滿	十五歳未滿	11	11	1	3	1	11	11	51
滿十五歳以上二十歳未滿	滿十五歳以上二十歳未滿	11	51	11	11	11	11	11	33
滿二十歳以上二十五歳未滿	滿二十歳以上二十五歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿二十五歳以上三十歳未滿	滿二十五歳以上三十歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿三十歳以上三十五歳未滿	滿三十歳以上三十五歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿三十五歳以上四十歳未滿	滿三十五歳以上四十歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿四十歳以上四十五歳未滿	滿四十歳以上四十五歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿四十五歳以上五十歳未滿	滿四十五歳以上五十歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿五十歳以上五十五歳未滿	滿五十歳以上五十五歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿五十五歳以上六十歳未滿	滿五十五歳以上六十歳未滿	11	11	11	11	11	11	11	33
滿六十歳以上	滿六十歳以上	11	11	11	11	11	11	11	33
計	計	11	11	11	11	11	11	11	33

夫ノ年齢 妻ノ年齢	計	現住朝鮮人結婚離婚年齢別表 (離婚數ハ太書トシ) (昭和五年)									
		未滿	滿十七歲以上二十歲未滿	滿二十歲以上二十五歲未滿	滿二十五歲以上三十歲未滿	滿三十歲以上三十五歲未滿	滿三十五歲以上四十歲未滿	滿四十歲以上五十歲未滿	滿五十歲以上六十歲未滿	滿六十歲以上	計
滿二十五歲以上三十歲未滿	一、九八	一、〇六七	二、七六四	四、八九〇	二、六三三	一、三三四	七〇四	一〇三	三二	一、三六五	一、三六五
滿二十歲以上二十五歲未滿	八、三〇	二、三五四	二、四九六	二、八五三	五、七〇六	一、八三八	六九六	九七	二	八、八八一	八、八八一
滿十五歲以上二十歲未滿	七、七三	四、八七三	三、三〇四	二、四六六	四、六九〇	一、一八七	三七六	四七	五	一〇、九〇〇	一〇、九〇〇
十五歲未滿	四、七三	三、四一七	一、九〇〇	七〇六	二、三八	四三	三〇	二	一	一〇、六三三	一〇、六三三
計	一	三	三二	七六一	四〇二	二五八	五〇八	一四四	四	一、六八三	一、六八三
滿六十歲以上											
滿五十歲以上六十歲未滿											
滿四十歲以上五十歲未滿											
滿三十歲以上三十五歲未滿											
滿二十五歲以上三十歲未滿											
計	一	三	三二	七六一	四〇二	二五八	五〇八	一四四	四	一、六八三	一、六八三

計	滿三十歲以上 三十五歲未滿	滿三十五歲以上 四十歲未滿	滿四十歲以上 四十五歲未滿	滿四十五歲以上 五十歲未滿	滿五十歲以上 六十歲未滿	滿六十歲以上
九三 一三、〇五九	六三 二〇九	四一 一六三	一〇三 一〇三	三 一〇三	一 一〇三	一 一〇三
六四一 六、五三八	四八 四三五	四一 一三三	四 一六四	一 一六四	一 一六四	一 一六四
一、八三三 六三、四四三	二六五 七七〇	一〇八 二二〇	二〇七 七五六	一六二 四九八	一〇一 四〇	一 五
二、五七五 三三、一五四	一、七五八 九九五	一五二 五四一	二八 一八三	四七 二八二	三九 二三四	一六 四八
一、八三三 一五、二八五	一、七五八 七五五	一〇八 五四一	二〇七 七五六	一六二 四九八	一〇一 四〇	一 五
九二七 六、二四五	三〇三 九九五	二〇七 七五六	一〇七 七五六	三八 一〇五	六一 一〇五	一 一
六四九 三、六三五	一七五 七五五	一五二 五四一	二〇七 七五六	一六二 四九八	一〇一 四〇	一 五
一六九 九六七	一八〇 二七	二八 三三	二八 三三	四七 二八二	三九 二三四	一六 四八
五三 二二七	二六 二七	二八 三三	二八 三三	四七 二八二	三九 二三四	一六 四八
八、八九四 一九七、五六三	一、三九〇 五、二五	一、五五一 九、八八	一、五五一 九、八八	二、八三 九、七九	二、八三 九、七九	一、九一 四、八

現住內地人、朝鮮人、外國人結婚及離婚數表

(昭和五年)

結婚				離婚			
內地人		朝鮮人		外國人		計	
京畿道	六五六	一八、七九六	三	一、九四五七	八二	一、〇一九	一一、〇一
忠清北道	二四	一〇、六七八	一	一〇、七〇二	二	二六〇	二六二
忠清南道	七六	二、九一五	一	二、九六一	四	五二四	五一八
全羅北道	八八	一〇、四七八	一	一〇、五六六	四	三三九	三三三
全羅南道	八〇	二五、二六九	一	二五、三四九	七	一、三七六	一、三八三
慶尙北道	八八	二二、〇二四	一	二二、一二三	五	七〇一	七〇六
慶尙南道	二九三	一一、三八二	二	一一、六七七	三三	八三三	八六五
黃海道	三七	一五、一四一	三	一五、二八一	一	八三八	八三九

京 畿 道
忠 清 北 道
忠 清 南 道
全 羅 北 道
全 羅 南 道
慶 尙 北 道
慶 尙 南 道
黃 海 道
平 安 南 道
平 安 北 道
江 原 道
咸 鏡 南 道
咸 鏡 北 道
總 計

平 安 南 道
平 安 北 道
江 原 道
咸 鏡 南 道
咸 鏡 北 道
總 計

現住內地人朝鮮人外國人配偶數表

(昭和五年)

年 末 現 在 配 偶 數

內 地 人 朝 鮮 人 外 國 人

二六、七四八	四六〇、六三一	九八四	四八八、三六三
一、九六二	二三六、九二〇	九八	二三八、九八〇
五、四五〇	三三八、一〇三	一六四	三四三、七一七
七、三一九	三四一、一八〇	一八四	三四八、六八三
八、四八四	五〇七、四二七	一四〇	五一六、〇五一
九、五二六	五二三、一八七	一八〇	五三二、八九三
一八、一四二	四一九、九四五	一四九	四三八、二三六
三、九四二	三五九、四四五	三八七	三六三、七七四
五、七八六	二九八、八三四	二五九	三〇四、八七九
五、三一〇	三五八、八〇九	一、四〇一	三六五、五二〇
二、六〇四	三六二、一〇七	一〇三	三六四、八一四
八、一三六	三三七、五二一	四四八	三四六、一〇五
六、一六七	一六五、三八六	五三五	一七二、〇八八
一〇九、五七六	四、七〇九、四九五	五、〇三二	四、八二四、一〇三

一一五	一四、九四一	一	一五、〇五六	二三	一二〇九	一	一二、三三一
八四	一六、六六三	二	一六、七七〇	一〇	六六八	五	六八三
五四	一六、六四二	一	一六、六七六	三	四八一	一	四八四
三七	一六、八二七	一	一六、八五四	二	五八〇	一	五八二
七一	六、九一五	四	六、九九〇	三	八六	一	八九
一六、八三	一九七、五六三	五	一九九、二八一	一七八	八、八四九	五	九、〇七七

人口動態

昭和七年.

出生. 出産. 死産. 累年比較表
(大正12年 ~ 昭和7年)

7.63 22.68

6.42 9.38

12.36 36.64

13.55 54.86

11.13 17.82

15.80 57.68

18.56 65.36

12.94 49.74

9.22 26.77

10.09 38.18

8.34 15.17

8.28 14.60

8.69 18.43

7.86 10.75

11.53 12.86

11.95 14.06

11.08 11.56

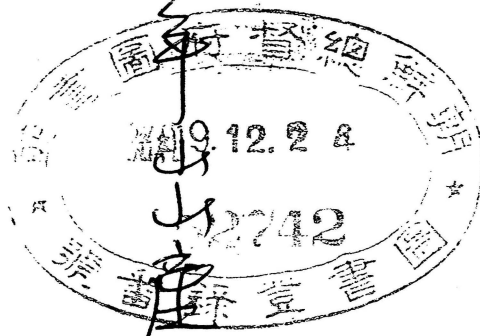
6.48 7.54

6.42 7.76

昭

和

七



昭
和
七

昭和七年の出産

朝鮮總督府寄贈本



朝鮮の昭和七年の出産、即ち出生と死産との合計は六十二萬二千九百十四人、此の中出生は六十一萬七千七百七十七人、死産は四千六百三十七人で、出産百に付出生は九・三、死産は〇・七である。出生と死産の割合を昭和七年に遡つて見ると、甚だ微少であるが、漸次出生は減少し死産は増加の傾向を辿つて居る。

出産累年比較表

年	出 産 数		出 産 百 に 付	
	出 生	死 産	出 生	死 産
大正十三年	七二三、〇三一	三、八七〇	九五・五	〇・五
同 十四年	六九四、八五一	四、二二九	九九・三	〇・七
同 十五年	七二五、九四三	三、四五〇	九九・五	〇・五
昭和元年	六八〇、〇〇二	三、八二六	九九・四	〇・六
同 二年	七〇一、八五三	三、六六四	九九・五	〇・五
同 三年	七二五、二一四	三、六二〇	九九・五	〇・五
同 四年	七三三、七七六	三、五九七	九九・五	〇・五
同 五年	七七六、七〇〇	四、四三〇	九九・四	〇・六
同 六年	七二二、二一〇	四、三二八	九九・四	〇・六
同 七年	六二二、九一四	四、六三七	九九・三	〇・七

一、出生

出生數 朝鮮に於ける昭和七年の出生は六十一萬八千二百七十七人、此の中内地人は一萬三千七百五十二人、朝鮮人は六十萬四千二百七十五人、外國人は二百五十人、一日に平均千六百九十四人、出生率即ち人口千に對する割合は三〇・〇で、内地に於ける昭和五年の三二・四に比し二・四低い。之を前年に較べると、實數に於て九萬九千六百五人、割合に於て五・四を減少して居る。

既往十年間に於ける出生率を見ると、大正十二年より逐年減少し、昭和二年より増加の傾向に轉じたが、最近に至つて再び減少を續け本年は過去十年間の最低率を示して居る。

出生累年比較表

年次	出生數	朝鮮人口千に付	内地人口千に付
大正十二年	七一九、一六一	四〇・二	三四・九
同十三年	六九〇、六二二	三八・二	三三・八
同十四年	七二二、四九三	三八・〇	三四・九
昭和元年	六七六、一七六	三五・四	三四・八
同二年	六九八、一八九	三六・五	三三・六
同三年	七二一、五九四	三七・六	三四・四
同四年	七三〇、一七九	三八・一	三三・〇
同五年	七七二、二七〇	三八・一	三二・四

??

各道の出生率を前年に較べると、増加したもの二道、減少したもの十一道で此の中變動の特に著しいのは平南及咸南である。

道
別

出生數		昭和七年同		千		付	
				年に		前年に比し増減(△)	
六八、四六八	三三・二		三五・八	△		三・六	
二五、二三六	二九・一		三五・一	△		六・〇	
三八、一五四	二七・八		三五・五	△		七・七	
四〇、七四八	二八・二		二五・六			二・六	
五五、八二七	二四・五		三〇・八	△		六・三	
六二、一八九	二六・五		二九・六	△		三・一	
六八、七五〇	三二・七		三二・六			〇・一	
四六、九九三	三一・四		三五・二	△		三・八	
三九、六〇三	三〇・一		四四・〇	△		一三・九	

平 安 北 道	五七、八五八	三七・五	四五・四	△	七・九
江 原 道	四四、五八四	三一・一	三八・七	△	七・六
咸 鏡 南 道	四六、五五五	三〇・三	四一・五	△	一一・二
咸 鏡 北 道	二三、三一二	三一・九	三八・八	△	六・九
計	六一八、二七七	三〇・〇	三五・四	△	五・四

生出兒の體性 昭和七年に於ける出生兒は男三十二萬九千七百八十二人、女二十八萬八千四百九十五人、女百に付男一一四・三で、前年に比し男の割合は一・九を増加して居る。尙既往十年間に於ける出生兒男女の割合を見ると年に依り多少の高低はあるが、男は常に一〇九以上の割合を示し、内地に於ける昭和五年の女百に付男一〇五・三に較べて男の割合が著しく多い。

累年出生兒體性表

年 次	出 生 數		女 百 に 付 男	
	男	女	朝鮮	内地
大 正 十 二 年	三七五、三一六	三四三、八四五	一〇九・二	一〇四・四
同 十 三 年	三六八、六〇九	三二二、〇一三	一一四・四	一〇四・二
同 十 四 年	三八一、九七七	三四〇、五一六	一一二・一	一〇三・五
昭 和 元 年	三六一、一二二	三一五、〇五四	一一四・六	一〇五・八
同 二 年	三七一、六七五	三二六、五一四	一一三・八	一〇三・七
同 三 年	三八三、三一五	三三八、二七九	一一三・三	一〇四・四
同 四 年	三八六、七〇〇	三四三、四七九	一一二・六	一〇四・〇

同	五	年	四〇六、四三八	三六五、八三二	一一一・一	一〇五・三
同	六	年	三七九、八六一	三三八、〇二一	一一二・四	?
同	七	年	三二九、七八二	二八八、四九五	一一四・三	?

出生の季節 昭和七年に於ける出生は十二月が最も多く、十一月、三月及十月が之に次いで多い。之に反し六月が最も少く一月及七月之に次いで少い。出生は大體に冬季に多く、夏季に於て少い。

出生月別表

月別	出生數	一年平均一箇月出生百に付	月別	出生數	一年平均一箇月出生百に付
一 月	四五、一四五	八七・六	七 月	四五、七〇八	八八・七
二 月	五二、一八一	一〇一・三	八 月	五〇、四六一	九七・九
三 月	五六、六五〇	一一〇・〇	九 月	五二、二二七	一〇一・四
四 月	五一、九四六	一〇〇・八	十 月	五五、三八八	一〇七・五
五 月	四六、六四一	九〇・五	十一 月	五八、七二九	一一四・〇
六 月	四二、〇五六	八一・六	十二 月	六一、一四五	一一八・七

二、死 産

死産數 朝鮮に於ける昭和七年の死産は四千六百三十七人で、死産率即ち人口千に對する割合は〇・二三である。之を前年に較べると實數に於て三百九人、割合に於て〇・〇二を増加して居る。

死産率を既往十年間に遡つて見ると、大正十三年より逐年減少したが、昭和五年より再び増加を續け、本年は大正十三年と同様の高率を示して居る。

死産累年比較表

年次	死産數	人口千に付
大正十二年	三八七〇	〇・二二
同十三年	四、二二九	〇・二三
同十四年	三、四五〇	〇・一八
昭和元年	三、八二六	〇・二〇
同二年	三、六六四	〇・一九
同三年	三、六二〇	〇・一九
同四年	三、五九七	〇・一九
同五年	四、四三〇	〇・二二
同六年	四、三二八	〇・二一
同七年	四、六三七	〇・二三

死産率を道別に見ると、最高は京畿、平南の〇・四九、最低は忠北、全南の〇・〇七で兩者の開きは〇・四二である、即ち京畿、平南は忠北、全南の七倍に當つて居る。死産率は概して京畿、平南、平北、咸北等の北鮮に高く、忠北、全南、全北、慶北等の南鮮に低い。

道別死産率表 (昭和七年)

道別	死産數	昭和七年	人口千に付	前年に比し増減(△)
京畿	一、〇三六	〇・四九	同	〇・四七
道				

死産兒の體性 昭和七年に於ける死産兒は男二千五百五十七人、女二千八十人で女百に付男は一二二・九である。之を出生兒の場合に較べると、男超過の度が甚しい。尙既往十年間に就いて見ても全く同様の現象を呈して居る。

累年死産兒體性表

年次	死産數		女百に付男	
	男	女	產	出生
大正十二年	二、一三四	一、七三六	一二二・九	一〇九・二
忠清北道	五八	〇・〇七	〇・一〇	〇・〇三
忠清南道	一二四	〇・〇九	〇・〇八	〇・〇一
全羅北道	一四〇	〇・一〇	〇・〇七	〇・〇三
全羅南道	一五九	〇・〇七	〇・〇九	〇・〇二
慶尙北道	三三一	〇・一四	〇・〇九	〇・〇五
慶尙南道	四九七	〇・二四	〇・三〇	〇・〇六
黄海道	二三九	〇・一六	〇・一七	〇・〇一
平安南道	六四八	〇・四九	〇・五一	〇・〇二
平安北道	六四五	〇・四二	〇・二七	〇・一五
江原道	二八一	〇・二〇	〇・一六	〇・〇四
咸鏡南道	二九七	〇・一九	〇・二〇	〇・〇一
咸鏡北道	一八二	〇・二五	〇・二三	〇・〇二
計	四、六三七	〇・二三	〇・二一	〇・〇二

少いのは六月で、十一月、五月及七月等亦少い月である。

同 十三年	同 十四年	昭 和 元 年	同 二 年	同 三 年	同 四 年	同 五 年	同 六 年	同 七 年
二、三二四	一、九三五	二、一四二	二、〇五七	一、九九七	一、九九七	二、四八五	二、四六三	二、五五七
一、九〇五	一、五一五	一、六八四	一、六〇七	一、六二三	一、六〇〇	一、九四五	一、八六五	二、〇八〇
一二二・〇	一二七・七	一二七・二	一二八・〇	一二三・〇	一二四・八	一二七・八	一三二・一	一二二・九
一一四・四	一一二・一	一一四・六	一一三・八	一一三・三	一一二・六	一一一・一	一一二・四	一一四・三

死産の季節 昭和七年に於ける死産 三月が最も多く、八月、十二月、七月及一月等之に次いで多い。最も

月 別 死 産 表 (昭和七年)

月 別	死 産 数	一年平均一箇月死産百に付	月 別	死 産 数	一年平均一箇月死産百に付
一 月	三九八	一〇三・一	七 月	四〇二	一〇四・〇
二 月	三八四	九九・四	八 月	四一三	一〇六・九
三 月	四三九	一一三・六	九 月	三七七	九七・六
四 月	三七九	九八・一	十 月	三八九	一〇〇・七
五 月	三七八	九七・八	十一 月	三五一	九〇・八
六 月	三二〇	八二・八	十二 月	四〇七	一〇五・三

内地人と朝鮮人との婚姻

朝鮮に於ける昭和七年末の内地人と朝鮮人との婚姻数は九五四組で、此の中五五組は本年中に婚姻したものである。之を種類別に見ると、内地人で朝鮮婦人を妻とするものが五三三組、朝鮮人で内地婦人を妻とするものが三六四組、朝鮮人で内地人の家に入婿したものが四八組、内地人で朝鮮人の家に入婿したものが九組である。内地人と朝鮮人との婚姻数は逐年増加の傾向を辿つて居る。今既往十年間に就いて見ると、大正十二年末の二四五組は昭和二年末には二倍となり、五年末には三倍に上り、本年末は更に四倍に迄増加して居る。

累年比較表

年次	總數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地人の家に入婿したもの	内地人で朝鮮人の家に入婿したもの
大正十二年末	二四五	一〇二	一三一	一一	一
同十三年末	三六〇	一二五	二〇三	二三	九
同十四年末	四〇四	一八七	一九七	一九	一
昭和元年末	四五九	二二二	二一九	一八	一
同二年末	四九九	二四五	二三八	一四	二
同三年末	五二七	二六六	二三八	二一	二
同四年末	六一五	三一〇	二七七	二七	一
同五年末	七八六	三八五	三五〇	四六	五

人口動態

昭和八年.

出生、死亡、出生、死亡数

(大正13年~昭和8年)

11.70 14.43

11.09 15.61

12.36 13.16

8.31 11.69

8.42 13.70

8.20 9.63

9.60 31.29

9.45 40.74

9.74 22.10

16.67 62.51

18.06 67.88

15.25 57.02

17.08 58.79

17.20 60.86

16.96 56.71

11.11 39.77

11.70 46.46

10.48 32.71

11.80 46.27

昭和八年の出生

朝鮮に於ける昭和八年の出生、即ち出生と死産との合計は六〇八、三五九人、中出生は六〇三、四〇七人、死産は四、九五二人で、出生百に付出生は九九・二、死産は〇・八である。

出生と死産との割合を既往十年間に就いて見ると、甚だ微少であるが漸次出生は減少し、死産は増加の傾向を辿つてゐる。

年次	出生數			出生百に付		
	出生	死産	合計	出生	死産	合計
大正十三年	六九〇、六三三	四、二二九	六九四、八六一	九九・三	〇・七	
同十四年	七三二、四九三	三、四五〇	七三五、九四三	九九・五	〇・五	
昭和元年	六七六、一七六	三、八二六	六八〇、〇〇二	九九・四	〇・六	
同二年	六九八、一八九	三、六六四	七〇一、八五三	九九・五	〇・五	
同三年	七二一、五九四	三、六二〇	七二五、二一四	九九・五	〇・五	
同四年	七三〇、一七九	三、五九七	七三三、七七六	九九・五	〇・五	
同五年	七三二、一七〇	四、四三〇	七三六、六〇〇	九九・四	〇・六	

同	六	年	七七八八二	四三三八	七三、二一〇	九九四	〇六
同	七	年	六八二七七	四六三七	六三、九一四	九九三	〇七
同	八	年	六〇三四〇七	四、九五二	六〇八、三五九	九九二	〇八

一、出生

出生數 朝鮮に於ける昭和八年の出生は六〇三、四〇七人、中内地人は一三、〇九一人、朝鮮人は五九〇、〇三五人、外國人は二八一人、一日に平均一、六五三人で、出生率は人口千人に付二九・〇二である。

之を前年に比較すると實數に於て一四、八七〇人、割合に於て〇・九九の減少で、尙内地に於ける昭和七年の三二・九二に對比すると、朝鮮は三・九〇低い。出生率を既往十年間に就いて見ると、大正十三年より昭和元年迄は逐年減少し、昭和二年より増加の傾向に轉じたが、昭和六年より再び漸減を續け本年の如きは過去十年間の最低率を示してゐる。

年次	出生數		實數		人口千人に付	
	内地人	朝鮮人	外國人	計	朝鮮	内地
大正十三年	九、七五五	六八〇、八二八	三九	六九〇、六三三	三六、三三	三三、七九
同十四年	一〇、一八九	七二二、二七八	二六	七二三、四九三	三七、九九	三四、九二
昭和元年	一〇、五二一	六六五、六〇四	五一	六七六、一七六	三五、三九	三四、七七
同二年	一〇、九五〇	六八七、一四二	九七	六九八、一八九	三八、四八	三五、六一
同三年	一〇、八九七	七二〇、五五八	一三九	七二一、五九四	三七、六〇	三四、三八

同	四	年	一〇八五五	七一九三五	一八九	七三〇、一七九	三七、七七	三三〇〇
同	五	年	一二、四三二	七六〇、六〇一	二三六	七三二、二七〇	三八、二二	三三、二六
同	六	年	一一、八五五	七〇五、九〇六	一五一	七二七、八八二	三五、四三	三三、一七
同	七	年	一三、七五二	六〇四、二七五	二五〇	六二八、二七七	三〇、〇一	三三、九二
同	八	年	一三、〇九一	五九〇、〇三五	二八一	六〇三、四〇七	二九、〇二	?

出生率を道別に見ると、最高は平安北道の人口千人に付三五・五四、最低は全羅南道の二三・四七で、其の差は一二・〇七である。出生率の高いのは平安北道、黄海道、江原道、京畿道、平安南道等の中鮮及北鮮で、何れも三一・〇〇以上を示し、之に反して低いのは全羅南道を首位に、慶尙北道、全羅北道等の南鮮で二七・〇〇にすら達しない。

各道の出生率を前年に比較すると黄海道、平安南道、江原道、咸鏡南道等の増加したのを除き他の九道は悉く減少を示してゐるが、特に其の顯著なるものは慶尙北道の二・四八、慶尙南道の二・四四、全羅北道の二・一〇等の減少である。

道 別 出 生

道

別

出生實數

人 口 千 人 に 付

昭和八年

同 七 年

前年に比し増(△減)

京 畿 道	六八、二四二	三三、四三	三三、二四	△	〇、八一
忠 清 北 道	二三、九五七	二七、三七	二九、二三	△	一、七六
忠 清 南 道	三七、九八〇	二七、二九	二七、七五	△	〇、四六

全	羅	北	道	三、七、八五八	二六、〇九	二六、二九	△	二、二〇
全	羅	南	道	五、三、五九七	二二、四七	二四、四六	△	〇、九九
慶	尙	北	道	五、六、三五九	二四、〇一	二六、四九	△	二、四八
慶	尙	南	道	六、四、二五四	三〇、二六	三三、七〇	△	二、四四
黃	海	道	道	四、八、五三八	三三、九六	三三、四三		〇、五三
平	安	南	道	四、一、九四九	三二、二一	三〇、二二		一、〇九
平	安	北	道	五、五、二八九	三五、五四	三七、五一	△	一、九七
江	原	道	道	四、五、四五二	三一、四九	三二、〇九		〇、四〇
咸	鏡	南	道	四、七、〇九三	三〇、五二	三〇、二五		〇、二七
咸	鏡	北	道	二、三、八四九	三〇、七四	三二、九〇	△	一、二六
計				六〇、三、四〇七	二九、〇二	三〇、〇一	△	〇、九九

出生兒の體性 昭和八年に於ける出生兒六〇三、四〇七人の中、男は三三二、〇七九人、女は二八一、三三二人で女百に付男は一一四・五である。之を前年に比較すると〇・二の増加で内地に於ける昭和七年の一〇五・〇に對比すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙出生兒男女の割合を既往十年間に就いて見ると、年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

出生兒の體性

年

次

出生實數

女百に付男

男

女

朝

鮮

内

地

大正十三年

三六八六〇九

三三二〇二三

一一四・四

一〇五・一

[illegible]

出生の季節 昭和八年に於ける出生は十二月に最も多く、一月に最も少い。八月、九月、十月及十一月等は比較的によく、二月、四月、五月及六月等は少い方である。

七	八	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月
四九、四三八	五四、一四六	五五、一六〇	五五、一五二	五二、五二一	五八、二七九
九八・三二	一〇七・六八	一〇九・七〇	一〇九・六八	一〇四・四五	一一五・九〇

二、死 産

死産數 朝鮮に於ける昭和八年の死産は四、九五二人、中内地人は九〇六人、朝鮮人は四、〇三一人、外國人は一五人で、死産率は人口千人に付〇・二四である。之を前年に比較すると、實數に於て三一五人、割合に於て〇・〇一の増加で、尙内地に於ける昭和七年の死産率一、八〇に對比すると、朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。

死産率を既往十年間に就いて見ると、年に依り多少の高低はあるが大體に於て逐年増加の傾向を辿つてゐる。

年 次	内地人	朝鮮人	外國人	計	朝鮮	内地
大正十三年	七五一	三四七三	五	四、三九	〇・三三	二・二三
同 十四年	六五一	二七九六	三	三、四五〇	〇・一八	二・〇八
昭和元年	六六	三一九八	一二	三、八二六	〇・二〇	二・〇五

同	二	年	六六三	二、九九三	八	三、六六四	〇・一九	一九一
同	三	年	六六七	二、九三五	一八	三、六二〇	〇・一九	一九三
同	四	年	七六六	二、八四五	二六	三、五九七	〇・一九	一八六
同	五	年	八〇〇	三、六一〇	二〇	四、四三〇	〇・二三	一八三
同	六	年	八一九	三、四九五	一四	四、三三八	〇・二二	一七八
同	七	年	八九四	三、七三八	五	四、六三七	〇・二三	一八〇
同	八	年	九〇六	四、〇三一	一五	四、九五二	〇・二四	?

死産率を道別に見ると、平安北道の人口千人に付〇・五九を最高とし、平安南道の〇・五四、京畿道の〇・五二等之に次いで高い。最も低いのは忠清北道、全羅南道の〇・〇七で、忠清南道、慶尙北道の〇・〇八、全羅北道の〇・一三、黄海道の〇・一六、江原道の〇・一八等は比較的低い方である、即ち死産率は北鮮に高く中鮮及南鮮に於て低い。

各道の死産率を前年に比較すると、増加したもの六道、減少したもの四道で、其中變動の主なるものは平安北道の〇・一七の増加である。

道	別	死産實數	人口千人に付
京畿道		一、一三一	〇・五二
忠清北道		六二	〇・〇七
昭和八年	同		〇・四九
七年	前年に比し増(△減)		〇・〇三

道	全	全	慶	慶	黄	平	平	江	威	威	計
道	北	北	南	北	南	北	南	原	鏡	鏡	
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	
〇・〇・七	一九五	一六〇	一八〇	四三七	二四七	七二七	九二五	二五七	三二〇	二〇四	四、九五二
〇・〇・八	〇・〇・七	〇・〇・八	〇・〇・二	〇・〇・一	〇・〇・一	〇・五九	〇・一八	〇・二一	〇・二一	〇・二七	〇・二四
〇・〇・九	〇・〇・三	〇・〇・七	〇・〇・一四	〇・二四	〇・一六	〇・四九	〇・四二	〇・二〇	〇・一九	〇・二五	〇・二三
〇・〇・一	〇・〇・三	〇・〇・一	〇・〇・六	〇・〇・三	〇・〇・一	〇・〇・五	〇・一七	〇・〇・二	〇・〇・二	〇・〇・二	〇・〇・一

死産児の體性 昭和八年に於ける死産児四、九五二人の中、男は二、八〇二人、女は二、一五〇人で、女百に付男は一三〇・三に該り、内地に於ける昭和七年の二一九・八に比し一〇・五高い。尙之を出生の女百に付男一一四・五に比較すると、男超過の割合が遙かに高く、既往十年間に就いて見るも亦同様の現象を呈してゐる。

死 産 児 の 體 性

年

次

死 産 實 數

男

死

産

出

生

女 百 に 付 男

大 正 十 三 年

二、三二四

一、九〇五

一、二二・〇

一、一四・四

[illegible]

							十	十	十	九	八	七	六
慶	慶	全	全	忠	忠	京							
尙	尙	羅	羅	清	清	歳							
南	北	南	北	南	北		二	一					
道	道	道	道	道	道	道	月	月	月	月	月	月	月
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男							
							内地人出生月別 (其の一)						
二二 三八	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	二月	三月	四月	五月	六月	七月	
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	三月	四月	五月	六月	七月		
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	四月	五月	六月	七月			
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	五月	六月	七月				
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	六月	七月					
二二 二六	三三 四三	四四 五〇	五五 六一	六六 七七	七七 八九	八八 九三	七月						

全	忠	忠	京	總	威	威	江	平	平	黃
羅	清	清	畿		鏡	鏡	原	安	安	海
北	南	北			北	南		北	南	
道	道	道	道	計	道	道	道	道	道	道
女男	女男	女男	女男	計女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
同										
上										
(其の二)										
四三〇	二〇三	一三〇	一六九	一、四〇四	四二六	三九七	二二三	七七七	四六六	三三三
二四二	三五三	六二	一六八	一、二五〇	四四〇	四五一	六七一	八三三	四三三	二四二
三〇九	一八三	九九	一四八	一、二五〇	四四七	四五五	二一〇	二一八	六四三	一九〇
二六四	三〇六	一一五	一五三	一、〇七五	三五八	三八六	一一八	一六三	二九二	一七三
二六三	二七三	六五	一〇三	九五四	三〇九	四八一	一一二	二〇三	四一〇	二四九
三六〇	二八三	八八	一七五三	四八六	四四〇	四四三	一五二	三三〇	二七〇	三二二
七二四	五六四	一七九	三、三八〇	一、〇三九	四〇〇	四三八	一八九	二一八	三三四	一八七

[illegible]

總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尚南道	慶尚北道	全羅南道	全羅北道	忠清南道
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
三八,一一一	二〇,四六二 一七,六四九 三八,一一一	一,七五八 一,四三三	一,七八〇 一,五四六	二,〇九一 一,八三九	一,一六六 九六八	一,九〇七 一,八三三	二,三五四 二,〇三八	一,五七六 一,二三三	一,四四六 一,二六六	一,五七三 一,三二八	一,一四〇 九三八
二四,二八五 二一,五四八 四五,八三三	九六二 八五八	一,九七七 一,六五九	一,九六〇 一,六七六	二,三三八 二,二六七	一,五八四 一,三三四	二,〇五二 一,八九三	二,六八四 二,四六〇	二,〇七五 一,七三九	一,八五八 一,六一〇	一,六七八 一,四八七	一,五四三 一,四〇九
二六,〇三〇 二三,一四八 四九,一七八	九四二 九二七	二,一九五 一,九六二	二,二〇四 一,九四〇	二,七八〇 二,四四九	一,八四六 一,六四六	二,〇六四 二,〇三一	二,六三二 二,三六三	二,三五五 一,九〇八	二,〇三二 一,六七五	一,六二四 一,四六七	一,六一九 一,四〇一
二四,二九五 二〇,九三三 四五,三七	九三三 八三八	二,〇五六 一,七〇〇	一,九六七 一,五九三	二,四五二 二,二三三	一,八八九 一,五七五	一,八九三 一,七八一	二,四三九 二,一六七	二,〇八一 一,八〇〇	一,九七六 一,六二六	一,六二一 一,三六八	一,四四三 一,二七二
二五,三三八 二二,五九八 四六,九五六	九四三 八四〇	二,一五一 一,七六〇	一,九五五 一,六四六	二,四五〇 二,〇九五	一,八一六 一,五二八	二,〇一〇 一,七九二	二,八八六 二,四七三	二,一五六 一,八〇〇	二,一五 一,七九二	一,六四九 一,三七六	一,六一四 一,三八七
二四,四四五 二一,八八〇 四六,三三五	九〇一 八四五	一,八〇四 一,五〇五	一,八三六 一,六八九	二,一九九 二,〇〇二	一,九七五 一,八七八	一,八二二 一,五七一	二,六三八 二,五三〇	二,三三三 二,〇〇三	二,二四七 二,〇七一	一,三七〇 一,二七三	一,五五四 一,四〇九
三五,六二一 三二,七五八 四八,三七七	八九〇 八一六	一,九一一 一,六四二	一,七六六 一,五三〇	二,一八六 二,〇八八	一,九七三 一,七七〇	一,八四四 一,六六三	二,七一四 二,五〇七	二,五六六 二,三三五	二,五五三 二,二〇三	一,九六七 一,三三一	一,七五五 一,五〇九

昭和八年の死亡

死亡數 朝鮮に於ける昭和八年の死亡は四〇一、三三二人中内地人は八、三五九人、朝鮮人は三九二、六六八人、外國人は二九五五人、一日に平均一、一〇〇人で、死亡率は人口千人に付一九・三〇である。之を前年に比較すると、實數に於て五六、一九六人、割合に於て二・九一の減少である。尙内地に於ける昭和七年の死亡率一七・七三に對比すると、朝鮮は一・五七高い。死亡率を既往十年間に就いて見ると、最高は昭和四年の人口千人に付二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で平均二一・一〇である。

1

年次	死亡數			人口千人に付	
	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
大正十三年	八、六〇六	三七八、七九	二〇二	三八七、五六六	二・四五
同十四年	七、六五	三八四、六三	二〇九	三八三、四九七	二〇・六四
昭和元年	七、一六四	三八〇、三六一	二二八	三八七、七四三	二〇・三〇
同二年	七、八八二	四〇二、八四〇	二九三	四二一、〇一五	二・四八
同三年	八、二九六	四三四、六四二	四三七	四三三、三七五	二・五八
同四年	八、三七	四五一、八五三	五五九	四六一、七二九	二・八九
同五年	七、六八一	三七三、七三	四七四	三八一、八七七	一八・八五
同六年	八、四〇六	四〇一、五四八	四三四	四二〇、三八八	一八・九八

昭和七年	八、七三三	四八、五三三	二六三	四五七、五二八	三三・三	一七・七三
同 八 年	八、五九九	五三、六六八	二五五	四〇〇、三三三	一九・三三	?

死亡率を道別に見ると、最高は平安北道の人口千人に付二六・九二で、咸鏡北道の二三・一〇、江原道の二二・八一、咸鏡南道の二二・六二、平安南道の二二・四七等、之に次いで高い。最も低いのは全羅南道の二三・五八で、全羅北道の二三・七五、忠清南道の二五・四四、慶尙北道の二七・五四、慶尙南道の二七・九九等は比較的低い方である。即ち死亡率は北鮮に高く、南鮮に於て低い。各道の死亡率を前年に比較すると、咸鏡南道の僅かに増加したのを除き他の十二道は悉く減少を示してゐるが、其中變動の主なるものは平安南道の二・二三の減少である。

道 別	死亡實數	人口千人に付		
		昭和八年	同 七 年	前年に比し増(△減)
京畿道	四四、二〇三	二〇・三六	二二・四九	△ 二・一三
忠清北道	一五、八六二	一八・一二	二二・〇五	△ 三・九三
忠清南道	二一、四八八	一五・四四	二〇・一四	△ 四・七〇
全羅北道	一九、九五四	一三・七五	一七・〇三	△ 三・二八
全羅南道	三一、〇一五	一三・五八	一四・八八	△ 一・三〇
慶尙北道	四一、一七四	一七・五四	二一・〇二	△ 三・四八
慶尙南道	三八、二〇七	一七・九九	一九・三一	△ 一・三二

黃	海	道	三二、三四二	二一・三〇	二一・九一	△	〇・六一	
平	安	南	道	三〇、一九九	二二・四七	三三・八〇	△	一一・三三
平	安	北	道	四一、八七九	二六・九二	三二・三七	△	五・四五
江	原	道	三二、九二九	二二・八一	二五・二〇	△	二・三九	
咸	鏡	南	道	三四、九〇〇	二二・六二	二一・七九	△	〇・八三
咸	鏡	北	道	一七、一七〇	二三・一〇	二四・一六	△	一・〇六
總	計		四〇一、三二二	一九・三〇	二二・二一	△	二・九一	

死亡者の體性

昭和八年に於ける死亡者四〇一、三三二人を男女別に見ると、男は二一五、〇九〇人、女は一八六、一三二人で、女百に付男は一一五・五である。之を前年に比較すると一・四の増加で、尙内地に於ける昭和七年の一〇六・九に對比すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い。而して男女の死亡率は各性人口千人に付、男は二〇・三、女は一八・二で男に於て稍高い。

年次	死亡實數		各性人口千人に付		女百に付男	
	男	女	男	女	朝鮮	内地
大正十三年	二〇五、八六四	一八一、七三三	三三・五	三〇・七	一二・七	一〇五・一
同十四年	二〇九、六二五	一八二、八八二	三三・五	一九・七	一四・六	一〇五・四
昭和元年	二〇六、〇九〇	一八一、六五三	三二・七	一九・五	一二・五	一〇六・〇
同二年	二二八、七三五	一九三、三九〇	三三・三	二〇・六	一二・七	一〇五・八
同三年	三三〇、三二九	二〇三、一五六	三三・五	二二・七	一二・三	一〇七・〇

昭和四年	二四、八〇八	三六、九二二	三四・八	三三・九	一二・九	一五・〇
同五年	二五、一六四	一七六、七三三	一九・九	一七・八	一二・六	一六・五
同六年	二九、二五〇	一九、一三六	二二・三	一九・二	一二・七	一七・三
同七年	二四三、八七二	三三、六四六	三三・三	三二・一	一二四・二	一〇六・九
同八年	二五、〇九〇	一八六、三三三	三〇・三	一八・三	一二五・五	?

死亡の季節 昭和八年に於ける死亡は三月に最も多く、二月、一月及四月等之に次いで多い。最も少いののは十一

月で、十月、十二月及九月等は比較的少い方である。即ち死亡は春夏の候に多く、秋冬に於て少い。

死 亡 の 月 別

月 別	死 亡 實 数	一箇月死亡百に付	一 年 平 均
一 月	三六、三六〇	一〇八・七	一一六・九
二 月	三九、〇八二	一一六・九	一三八・六
三 月	四六、三四一	一〇六・七	一〇二・三
四 月	三五、六九六	一〇二・三	一〇二・六
五 月	三四、二二八	一〇四・九	一〇〇・二
六 月	三四、三〇八	一〇〇・二	八六・九
七 月	三五、〇八三	一〇〇・二	七六・二
八 月	三三、五一五	一〇〇・二	七六・二
九 月	二九、〇五五	一〇〇・二	七六・二
十 月	二五、四九五	一〇〇・二	七六・二

十	一	月	二四、九六五	七四・七
十	二	月	二七、一九四	八一・三

死亡者の年齢 昭和八年に於ける死亡者を年齢別に見ると、五歳未満の小児は死亡者全體の三割八分五厘（〇歳の者は一割二分六厘）を占めて最も多く、五——九歳は急激に減少して六分二厘、一〇——一四歳は更に低下して三分一厘となり、一五——一九歳は各年齢級を通じて最も少く三分を示してゐる、二〇——二四歳は稍増加して三分七厘となるも二五歳より三九歳迄の各年齢級には著しい高低なく何れも四分に達せず、四〇歳を越ゆるに至つて再び四分以上に増加し、八〇歳以上になると此の年齢級に屬する人口其のものが少いため當然に減少してゐる。

死亡者の年齢

年 齡 別	死 亡 實 數	千 分 比 例
〇——四 歳	一五四、四〇七	三八四・七
再 〇 歳	五〇、五四二	一二五・九
掲 一 歳	四七、三六一	一一八・〇
二——四 歳	五六、五〇四	一四〇・八
五——九 歳	二四、九八二	六二・三
一〇——一四 歳	一一、二五二	三〇・五
一五——一九 歳	一一、一〇二	三〇・二
二〇——二四 歳	一四、九五七	三七・三

二五——二九歳	一三、六五六	三四・〇
三〇——三四歳	一四、三六〇	三五・八
三五——三九歳	一三、三九九	三三・四
四〇——四九歳	二三、七七四	五九・二
五〇——五九歳	二六、六九三	六六・五
六〇——六九歳	三七、九七〇	九四・六
七〇——七九歳	三六、五四九	九一・一
八〇歳以上	一五、〇三九	三七・五
年 齡 不 詳	一、一八二	二・九

總 計

四〇一、三二二

一、〇〇〇・〇

更に昭和八年に於ける男女の死亡者を年齢別に見ると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇——五九歳を山とし、一五——一九歳及八〇歳以上を谷とする波狀を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女百に付男は一一八・四で、其れより年齢の長するに従ひ、男の割合は遞減し、一五——一九歳に於ては男は女より遙かに少く、九四・九を示すに過ぎない、而して二〇歳以上は男の割合漸次増加し、五〇——五九歳は一四四・五の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上になると八八・七に減少してゐる。

死亡者の男女別年齢

年 齡 別

死 亡 實 數

男

女

女百に付男

〇——四 歳

八三、七一五

七〇、六九二

一一八・四

總計	年齡	再揭		
		一歲	二歲	三歲
二七、九二四	一〇歲	一〇	二	二
二五、九五—	九歲	一〇	二	二
二九、八四〇	八歲	一〇	二	二
一三、〇八四	七歲	一〇	二	二
六、四三〇	六歲	一〇	二	二
五、八九四	五歲	一〇	二	二
七、五二〇	四歲	一〇	二	二
六、九五六	三歲	一〇	二	二
七、五七二	二歲	一〇	二	二
七、一五〇	一歲	一〇	二	二
一三、七三五	四〇歲	一〇	二	二
一五、七七七	三九歲	一〇	二	二
二〇、八〇八	三〇歲	一〇	二	二
一八、八八六	二九歲	一〇	二	二
七、〇六七	一八〇歲以上	一〇	二	二
六九六	總計	一〇	二	二
二二、六一八	一〇歲	一〇	二	二
二一、四一〇	九歲	一〇	二	二
二六、六六四	八歲	一〇	二	二
一一、八九八	七歲	一〇	二	二
五、八二二	六歲	一〇	二	二
六、二〇八	五歲	一〇	二	二
七、四三七	四歲	一〇	二	二
六、七〇〇	三歲	一〇	二	二
六、七八八	二歲	一〇	二	二
六、二四九	一歲	一〇	二	二
一〇、〇三九	四〇歲	一〇	二	二
一〇、九一六	三九歲	一〇	二	二
一七、一六二	三〇歲	一〇	二	二
一七、八六三	二九歲	一〇	二	二
七、九七二	一八〇歲以上	一〇	二	二
四八六	總計	一〇	二	二
一八六、二三二	一〇歲	一〇	二	二
一一、三二五	九歲	一〇	二	二
一四、四四一	八歲	一〇	二	二
一一、一八九	七歲	一〇	二	二
一一、〇〇〇	六歲	一〇	二	二
一一、〇四四	五歲	一〇	二	二
九四、九	四歲	一〇	二	二
一〇、一	三歲	一〇	二	二
一〇、三八	二歲	一〇	二	二
一一、一六	一歲	一〇	二	二
一一、四四	四〇歲	一〇	二	二
一三、六八	三九歲	一〇	二	二
一四、四五	三〇歲	一〇	二	二
一二、一二	二九歲	一〇	二	二
一〇、四六	一八〇歲以上	一〇	二	二
八八、七	總計	一〇	二	二
一四三、二	一〇歲	一〇	二	二
一一、五	九歲	一〇	二	二

次之に次ぎ、循環器病、全身病、泌尿生殖器病等は二分以上を示し、眼及其の附屬器病、耳病、齒牙病等は
何れも僅少で一厘餘に過ぎない。

死亡の原因

死因別	死亡實數	千分比例
全身病	一一、一〇五	二七・七
精神病	七、一三八	一七・八
神經系病	七六、六八六	一九一・一
循環器病	一九、一二〇	四七・六
眼及其の附屬器病	五四三	一・四
耳病	五〇五	一・三
鼻咽喉病	五、四三二	一三・五
呼吸器病	五八、五〇五	一四五・八
消化器病	七九、一七七	一九七・三
齒牙病	四八八	一・二
運動器病	四、五六五	一一・四
皮膚及其の附屬器病	六、二〇八	一五・五
泌尿生殖器病	一〇、一七二	二五・三
外傷	三、〇六八	七・六
溺死及縊死	四、一七六	一〇・四

畸形及幼年	三、〇九四	七・七
老衰	二六、二九一	六五・五
妊娠及產	三、二三九	八・一
中毒	三、四五五	八・六
新生兒	七九一	二・〇
寄生蟲病	四、一八三	一〇・四
脚氣	一、一九一	三・〇
感冒	三四、一六五	八五・一
傳染性病	三一、五四三	七八・六
不明診斷及不詳の原因	六、四八二	一六・一
總計	四〇一、三二二	一、〇〇〇・〇

一、道別表

道別	内地人	朝鮮人	外國人	總計
京畿道	男 一、一三一 女 一、〇三九	男 三、三三〇 女 一九、六五八	男 五〇 女 一五	男 三、四九一 女 二〇、七二二
忠清北道	男 六〇 女 六三	男 八、五八 女 七、三八三	男 — 女 —	男 八、四一八 女 七、四四四
忠清南道	男 一五 女 一八二	男 二、四九八 女 九、六二二	男 二 女 一	男 二、六九五 女 九、七九三
全羅北道	男 二七〇 女 二〇八	男 一〇、八三一 女 八、六五二	男 二 女 一	男 一一、〇九三 女 八、八六一
全羅南道	男 三三〇 女 二七四	男 一六、五三〇 女 一三、八六七	男 四 女 一	男 一六、八五四 女 一四、一六一
總計				男 四四、一〇三 女 三二、〇二五

二、月 別 表

月	別	內地人		朝鮮人		外國人		總計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
一	月	三九三	三三七	一九、三三三	一六、四四四	一七	六	一九、六三三	一六、七三七
二	月	三六三	三四八	三〇、四六五	一七、八七四	二六	六	三〇、八五四	一八、三三八
三	月	四三五	三九九	二四、二七五	二一、二七九	一八	五	二四、七七八	二一、六三三
四	月	三六六	三七五	一八、八四六	一六、一八六	一五	八	一九、二〇七	一六、四八九
五	月	三六一	二四	一八、〇五五	一五、四九九	一八	二	一八、四四四	一五、八〇四
六	月	四四〇	三三三	一七、七七七	一五、七三八	一八	二	一八、三三五	一六、〇七三
七	月	三九三	三六六	一八、四四五	一五、八四〇	一六	一三	一八、八二四	一六、二六九
合 計		四、四四〇	三、九一九	二二〇、四三三	一八二、三三六	二〇八	七	二二五、〇七〇	一八六、三三三
咸鏡北道		三三〇	二六二	八、九九九	七、五三三	四三	一三	九、三七一	七、七九八
咸鏡南道		三六八	三三二	一八、四三三	一五、七七六	三三	九	一八、八〇三	一六、〇九七
江原道		八五	七七	一七、〇三三	一五、四六四	一	一	一七、三六八	一五、五四一
平安北道		一五七	一四八	三二、七七七	一九、七六一	五〇	五	三二、九三四	一九、九四五
平安南道		二九八	三三五	一五、七〇六	一三、九五四	九	七	一六、〇三三	一四、一八六
黃海道		一三〇	一二一	一七、〇一〇	一五、〇七四	二	五	一七、一四一	一五、一〇〇
慶尙南道		八三八	七四四	一九、九五七	一六、六七六	二	一	二〇、七九七	一七、四一〇
慶尙北道		三六	三六	二、八一	一八、八〇七	一	一	二、三〇九〇	一九、〇八四
總計		四、四四〇	三、九一九	二二〇、四三三	一八二、三三六	二〇八	七	二二五、〇七〇	一八六、三三三

三、年 齡 別 表

八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	合 計
四一四	三五九	三五五	三〇七	二八四	四、四四〇
三五三	三六三	三三四	二九三	二八四	三、九一九
一七、五三九	一五、二〇六	一三、一六三	一三、三三〇	一四、一八八	二、〇、四四二
一五、一八四	一三、一〇七	一一、六三七	一一、〇三三	一二、四四五	一八二、三六
二〇	一二	一二	一八	一八	二〇八
六	八	四	五	五	八七
一七、九七三	一五、五七七	一三、五三〇	一三、六四五	一四、四九〇	二五、〇九〇
一五、五四二	一三、四七八	一一、九六五	一一、三三〇	一二、七〇四	一八六、三三二
三三、五一五	二九、〇五五	二五、四九五	二四、九六五	二七、一九四	四〇一、三三二

種 別	內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		總 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
一 年 未 滿	六 一	五 二	二七、二九三	三三、〇八〇	二〇	二六	二七、九三四	三三、六二八
一 年 以 上	四〇五	三四三	二五、五三九	二二、〇五四	七	一四	二五、九五一	二二、四一〇
二 年 以 上	三九七	三七九	二九、四二六	二六、二七二	一七	一三	二九、八四〇	二六、六六四
五 年 以 上	二〇四	二〇〇	一二、八七五	一一、六九二	五	六	一三、〇八四	一一、八九八
十 年 以 上	一一七	一〇九	六、三〇〇	五、七〇〇	三	三	六、四三〇	五、八三三
十 五 年 以 上	二三五	二三一	五、六五五	五、九七三	四	四	五、八九四	六、二〇八
二 十 年 以 上	二九四	三三三	七、二二七	七、一〇三	九	一	七、五二〇	七、四三七
二 十 五 年 以 上	二三四	二六九	六、七〇八	六、四三〇	二四	一	六、九五六	六、七〇〇
三 十 年 以 上	一七六	二六三	七、三七九	六、五三二	一七	三	七、五七二	六、七八八
三 十 五 年 以 上	一八九	一九三	六、九四九	六、〇五四	二三	二	七、一五〇	六、三四九
				</				

四十年以上
五十年以上
六十年以上
七十年以上
八十年以上
年齡不詳
合計

四二九	二九二	一三、二七〇	九、七三八	三六	一〇	一三、七三五	一〇、〇三九	二五、七七四
五〇六	二五五	一五、三四〇	一〇、六七九	三二	二	一五、七七七	一〇、九一六	二六、六九三
三九〇	二六七	二〇、四〇一	一六、八九三	一七	二	二〇、八〇八	一七、一六三	三七、九七〇
二二一	二〇四	一八、四七一	一七、六五九	四	一	一八、六八六	一七、八六三	三六、五四九
四四	八八	七、〇三二	七、八八四	一	一	七、〇六七	七、九七二	一五、〇三九
八	三	六六七	四八三	一	一	六九六	四八六	一、一八二
四、四四〇	三、九一九	二〇、四四三	一八、三六六	二〇八	七	二五、〇九〇	一八、六三三	四〇、三三三

四、死 因 別 表

種 別

內地人

朝鮮人

外國人

總

計

全身病
精神病
神經系病
循環器病
眼及其附屬器病
耳鼻喉病
呼吸器病
消化器病

男	二四六	二二三	六、一〇七	四、五三一	七	一	六、三六〇	四、七四五	一一、一〇五
女	二五	一二	四、一〇二	二、九九八	一	一	四、一三八	三、〇一〇	七、一三八
男	四八〇	三三〇	四〇、八五七	三〇、九九六	一九	四	四一、三五六	三五、三三〇	七六、六六六
女	三五	二八五	一〇、〇五三	八、四五六	三	九	一〇、三九〇	八、七三〇	一九、一二〇
男	一	一	二九七	二四六	一	一	二九七	二四六	五四三
女	一	一	二六〇	二四三	一	一	二六〇	二四三	五四三
男	二七	二二	二、六四四	二、三九八	一	一	三、〇一一	二、四一〇	五、四二一
女	八九	七七四	三、〇〇二	二五、七五八	五一	二	三、九五一	二六、五五三	五八、五〇五
男	八三二	七三七	四一、六八四	三五、八六一	四三	二	四二、五五八	三六、六二九	七九、一七七

齒牙病	1	1	258	230	1	258	230	488
運動器病	59	49	2,610	1,844	3	2,672	1,893	4,565
皮膚及其の附屬器病	28	23	3,403	2,751	1	3,432	2,776	6,208
泌尿生殖器病	139	208	4,831	4,987	5	4,975	5,197	10,172
外傷	80	28	1,897	1,051	2	1,989	1,079	3,068
溺死及縊死	23	40	2,478	1,590	4	2,544	1,632	4,176
畸形及幼年	79	69	1,637	1,309	1	1,726	1,378	3,094
老衰	107	133	1,308	1,294	3	1,393	1,309	2,612
妊娠及產	1	55	1	3,184	1	1	3,239	3,239
中 毒	68	49	1,908	1,418	10	1,986	1,469	3,455
新 生 物	75	64	368	281	1	444	347	791
寄 生 蟲 病	4	9	2,097	2,073	1	2,101	2,082	4,183
脚 氣	68	47	726	349	1	795	396	1,191
感 冒	44	42	18,101	15,977	3	18,148	16,027	34,165
傳 染 性 病	768	692	16,147	13,921	2	16,986	14,617	31,543
不 明 の 診 斷 及 不 詳 の 原 因	36	37	3,553	2,836	10	3,598	2,884	6,482
合 計	4,440	3,919	220,442	183,366	208	225,090	186,332	401,332

[illegible]

平 安 北 道	平 安 南 道	黃 海 道	慶 尙 南 道	慶 尙 北 道	全 羅 南 道	全 羅 北 道	忠 清 南 道	忠 清 北 道	京 畿 道
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
四三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三四	一四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
五五	五一	二一	一一	一一	二一	一一	一一	一一	一一
三二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二四	一四	二一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
七七	三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
五三	二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
八二	一二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
七七	二一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
四三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
五四二	一五四	六四	四四	二二	二八	一三	一六	一	二二
九五	二九	一〇	八	五	一〇	三	七	一	四〇

外國人出生月別

計	計女男
一	二八、四八八
二	二四、四九〇
三	五三、九八八
四	二八、九九五
五	二五、〇二三
六	五四、〇〇七
七	二九、〇六一
八	二四、九二九
九	二七、三三五
十	二四、三二九
十一	五一、五四四
十二	三〇、八三四
合計	二六、六四五
	五七、四七九
	三二、一四九
	二七、四八六
	五九、〇三五

慶 尙 南 道	慶 尙 北 道	全 羅 南 道	全 羅 北 道	忠 清 南 道	忠 清 北 道	京 畿 道	總 計	咸 鏡 北 道	咸 鏡 南 道	江 原 道
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
一 六三	一 四	三 三	四 七	三 一	一 一	二 八	一 月	三 二四	二 四	二 三
六 八	一 一	二 四	一 二	一 二	一 一	七 〇	二 月	三 三三	一 一	四 二
九 一	一 一	一 三	二 四	二 一	一 一	五 九	三 月	三 三三	三 三	四 一
三 四	一 一	五 二	二 二	一 一	一 一	三 九	四 月	四 七七	一 一	一 一
六 六	五 二	一 二	一 四	一 一	一 一	九 三	五 月	三 三九	三 二	三 一
六 七	二 二	四 三	三 一	一 一	二 一	六 三	六 月	七 九八	一 一	三 一
六 〇	二 一	二 四	一 一	一 一	二 一	〇 〇	七 月	三 〇三	一 三	一 二
五 六	二 一	二 五	三 三	一 二	一 一	〇 二	八 月	六 五三	一 一	三 二
五 五	一 三	二 四	一 五	一 二	一 一	七 二	九 月	三 九三	一 二	一 一
九 九	二 一	一 三	四 四	三 一	一 一	三 〇	十 月	六 九七	一 一	二 一
四 三	一 二	一 三	二 四	一 一	一 一	三 七	十一 月	三 五八	一 一	一 二
五 四	二 四	三 二	三 三	一 二	一 一	七 六	十二 月	三 八四	一 一	一 一
七 〇六	二 六二	二 七六	三 六〇	三 三三	八 一	二 三六	合 計	二 八四〇	五 八	一 五
一 六六	三 七	六 五	六 六	二 五	九	二 七		一	三	九

內地人死産月別

全羅北道	忠清南道	忠清北道	京畿道	朝鮮人死産月別		總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道
女男	女男	女男	女男			計女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
五五	四六	一三	五〇	一月	二	九元五	三四	四二	三	一一	一三	一四
二四	三四	一三	五七	二月	三	六三〇	一一	四二	一三	一三	二二	一二
五五	二三	二二	六四	三月	四	六三九	一五	一四	一	五	一一	一一
四五	五三	一一	五六	四月	五	七元八	一二	一六	一二	一三	一六	二一
一六	二四	一二	六四	五月	六	三三四	二三	一四	二	一一	三四	一二
四七	一一	二三	八八	六月	七	七三七	三三	一三	一	二二	五二	一一
一〇二	五六	二四	六〇	七月	八	七三九	二三	三二	二一	一三	四三	一一
八九	三四	二三	八八	八月	九	七三二	一一	五四	一一	一	一四	一二
一〇	三四	三二	六〇	九月	一〇	六八二	一二	三三	一	二	二五	二一
五九	一八	二一	三三	十月	一一	七四四	一一	一六	三	二	四四	一四
四五	五二	四四	一七	十一月	一二	八元三	二二	一五	一一	一	五二	一三
七四	一二	二四	七七	十二月	一三	七三二	四四	六七	一一	五	三二	二二
五七一	四七	三三	五〇	合計		九三三	二〇〇	三〇八	二九	三三	三八	七三
二九	二	三	八七			一	五〇	七	二	五	六	九

忠清北道	京畿道	總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道	外國人死產月別	
女男	女男	計女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男		
11	11	176 153	43	57	93	35	40	59	75	56	47	一月	
11	11	180 142	77	77	88	7	29	20	82	24	46	二月	
11	11	198 144	89	43	93	51	33	46	10	37	33	三月	
11	11	162 143	47	59	79	41	26	22	86	44	32	四月	
11	11	193 136	25	27	108	39	23	70	65	35	44	五月	
11	11	26 157	77	29	108	53	34	87	14	78	18	六月	
11	11	17 147	70	70	107	35	30	17	67	46	73	七月	
11	11	199 159	60	109	96	25	88	10	73	49	35	八月	
11	11	194 141	28	26	82	25	20	53	28	25	32	九月	
11	11	224 150	70	102	93	39	36	53	22	94	47	十月	
11	11	167 133	33	70	28	25	30	47	99	77	13	十一月	
11	11	203 168	78	105	103	70	28	88	20	72	63	十二月	
11	11	279 175	87	103	126	46	37	133	50	76	55	合計	
11	11	403 311	151	241	336	86	66	28	27	43	95		

總 計	咸 鏡 北 道	咸 鏡 南 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 南 道	黃 海 道	慶 尙 南 道	慶 尙 北 道	全 羅 南 道	全 羅 北 道	忠 清 南 道
計女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
— —	—										
— —	—										
— —					—						
— —					—						
— —		—									
二—				—							
二—				—							
— —											
— —				—							
四二二	—			—	—						
一五六九	—二	—		二二	二—						
	三	—		四	三						

人口動態

昭和九年

出生、出生、死産、死亡總數

(文正14年—昭和9年)

15.74 60.98

17.31 63.79

19.32 64.18

16.13 63.38

14.23 50.01

15.47 55.53

12.89 44.00

17.35 69.49

18.42 71.70

16.28 67.27

11.36 23.49

12.79 28.90

10.91 18.00

15.57 62.60

16.98 68.43

14.15 56.74

13.33 45.93

14.32 52.56

12.31 39.13

昭和九年
山山
立座

昭和九年の出産

第一 出 産 總 數

朝鮮に於ける昭和九年の出産は六三四、二四一人、其の内出生は六二九、四七六人、死産は四、七六五人で、
 出産百に付出生は九九・二、死産は〇・八である。出生と死産との割合を既往十年間に就いて観ると、甚だ微
 少であるが出生は漸次減少し、死産は増加の傾向を示してゐる。

年 次	總 數	出 産 實 數	死 産 數	出 産 百 に 付
大 正 十 四 年	七五、九四三	七三、四九三	三、四五〇	〇・五
昭 和 元 年	六八〇、〇〇三	六七六、一七六	三、八二六	〇・六
同 二 年	七〇一、八五三	六九八、一八九	三、六六四	〇・五
同 三 年	七五、二二四	七二、五九四	三、六三〇	〇・五
同 四 年	七三、七六六	七三〇、一七九	三、五九七	〇・五
同 五 年	七六、七〇〇	七三、二七〇	四、四三〇	〇・六
同 六 年	七三、二二〇	七二、八八三	四、三三八	〇・六
同 七 年	六三、九二四	六二八、二七七	四、六三七	〇・七
同 八 年	六〇八、三九九	六〇三、四〇七	四、九五三	〇・八
同 九 年	六三、二四一	六二九、四七六	四、六六五	〇・八

第二 出生

一、出生總數 朝鮮に於ける昭和九年の出生六二九、四七六人中、内地人は一三、四九八人、朝鮮人は六一五、五七九人、外國人は三九九人、一日平均一、七二五人で、出生率は人口千に付二九・八〇である。之を前年に比較すると實數に於て二六、〇六九人、割合に於て〇・七八の増加で尙内地に於ける昭和八年の三一・五五に對比すると朝鮮は一・七五低い。出生率を既往十年間に就いて觀ると、昭和元年迄は漸減し、昭和二年よりは増加の傾向に轉じたが、昭和六年より再び漸減を續け、昭和八年には過去十年間の最低率を示し、本年に到つて僅かの増加を示してゐる。

年次	出生實數			人口千人に付	
	總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮
大正十四年	七三、四九三	一〇、一八九	七三、三七八	六	三七・九
昭和元年	六七六、一七六	一〇、五二	六六五、六〇四	五一	三五・三九
同 二 年	六九八、一八九	一〇、九五〇	六八七、一四二	九七	三五・四八
同 三 年	七二、五九四	一〇、八九七	七二〇、五五八	一九	三七・六〇
同 四 年	七三〇、一七九	一〇、八五五	七一九、一三三	一八九	三七・七七
同 五 年	七三二、二七〇	一一、三三	七六〇、六〇一	二二六	三八・一二
同 六 年	七二七、八八二	一一、八三五	七〇五、九〇六	一五一	三五・四三
同 七 年	六二八、二七七	一三、七五二	六〇五、二七五	二五〇	三〇・〇一
同 八 年	六〇三、五〇七	一三、〇九	五九〇、〇四五	二八一	二九・〇三
同 九 年	六二九、四七六	一三、四九八	六一五、五七九	三九九	二九・八〇

?

二、道別出生 出生率を道別に観ると、最高は平安北道の人口千に付三五・一二、最低は全羅南道の二四・

九四で、其の差は一〇・一八である。出生率の高いのは平安北道、江原道、黄海道、慶尙南道、平安南道等で何れも三一・〇〇以上を示し之に反して低いのは全羅南道、慶尙北道等で二七・〇〇に達しない。

各道の出生率を前年に比較すると京畿道、平安南道、平安北道、咸鏡北道は減少し、他の九道は増加を示してゐるが、特に増加の顯著なるものは江原道の二・二三、慶尙北道の二・一五の増加である。

道 別	出生實數	昭和九年		同 八 年		前年に比し増(△)減(○)
		人	口 千	人	口 千	
總 數	六二九、四七六	二九・八〇		二九・〇三		〇・七八
京 畿 道	六七、三七七	三〇・二一		三三・四三		△一・三三
忠 清 北 道	二四、三三〇	二七・三八		二七・三七		〇・〇一
忠 清 南 道	三九、〇八〇	二七・五三		二七・二九		〇・二四
全 羅 北 道	三九、九四七	二七・一〇		二六・〇九		一・〇一
全 羅 南 道	五七、八八五	二四・九四		二三・四七		一・四七
慶 尙 北 道	六二、〇三四	二六・一六		二四・〇一		二・一五
慶 尙 南 道	六八、二〇三	三一・九五		三〇・三六		一・六九
黄 海 道	五一、七九七	三三・四三		三一・九六		一・四七
平 安 南 道	四二、五九八	三二・〇四		三一・二一		△〇・八三
平 安 北 道	五五、三七四	三五・二三		三五・五四		△〇・四二
江 原 道	四九、四四四	三三・七二		三一・四九		二・二三

咸鏡南道
咸鏡北道

三八、六六
三三、五九

三八、六六
三三、五九

三八、六六
三三、五九

三八、六六
三三、五九

三、出生兒の體性 昭和九に於ける出生兒六二九、四七六人の中、男は三三三、八九九人、女は二九五、五

七七で女百に付男は一一三・〇である。之を前年に比較すると一・五の減少で、内地に於ける昭和八年の一〇五・二に對比すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙出生兒男女の割合を既往十年間に就いて觀ると、年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

年次

男

出生實數

女

朝鮮

女

百に

付

男

地

大正十四年	三八一、九七七	三四〇、五二六	一一三・三	一〇三・五
昭和元年	三六一、一三三	三二五、〇五四	一一四・六	一〇五・八
同二年	三七一、六七五	三二六、五二四	一一三・八	一〇三・七
同三年	三八三、三二五	三三八、二七九	一一三・三	一〇四・四
同四年	三八六、七〇〇	三四三、四七九	一一三・六	一〇四・〇
同五年	四〇六、四三八	三六五、八三三	一一一・一	一〇五・三
同六年	三七九、八六一	三三八、〇二二	一一三・四	一〇四・三
同七年	三三九、七六二	二八八、四九五	一一三・三	一〇四・〇
同八年	三三三、〇七九	二八八、三三八	一一三・五	一〇三・二
同九年	三三三、八九九	二九五、五七七	一一三・〇	？

四、出生の季節 昭和九年に於ける出生は十二月に最も多く、一月に最も少い。その他三月、八月、九月、十

月、十一月等は比較的多く、五月、六月等は少い方である。

月	別	出生實數	一年平均一箇 月出生百に付	月	別	出生實數	一年平均一箇 月出生百に付
一	月	四四、〇八	八四・三	七	月	五〇、三三	九五・七
二	月	四九、三六	九三・九	八	月	五三、九六	一〇三・八
三	月	五三、七一	一〇三・四	九	月	五五、八六	一〇四・六
四	月	四九、〇八	九三・八	十	月	五七、六九	一〇九・六
五	月	四六、八七	八九・三	十一	月	六〇、五二	一二五・六
六	月	四四、八七	八五・五	十二	月	六四、二六	一二三・五

第三 死 産

一、死産總數 朝鮮に於ける昭和九年の死産四、七六五人中、内地人は八二〇人、朝鮮人は三、九二三人、外國人は二三人で、死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於て一八七人、割合に於て〇・〇一の減少で、尙内地に於ける昭和八年の死産率一・七〇に對比すると朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就いて觀ると、年に依り多少の高低はあるが、大體に於て逐年増加の傾向を辿つてゐる。

年次	總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
大正十四年	三、四五〇	六五二	二、七九八	三	〇・八	二・六
	死産實數	人口千人に付				

昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
三、八二六	三、六四四	三、六二〇	三、五九七	四、四三〇	四、三三八	四、六三七	四、九三二	四、七六五
六二六	六六三	六六七	七二六	八〇〇	八一九	八九四	九〇六	八二〇
三、一九八	二、九三三	二、九三五	二、八四五	三、六一〇	三、四九五	三、七三八	四、〇三二	三、九三三
二二	八	一八	二六	二〇	一四	五	一五	三
〇・三〇	〇・一九	〇・一九	〇・一九	〇・三三	〇・三一	〇・三三	〇・三四	〇・三三
二・〇五	一九二	一九三	一八六	一八三	一七八	一八〇	一七〇	?

二、道別死産 死産率を道別に観ると、平安南道の人口千に付〇・五六を最高とし、京畿道の〇・四八、平安北道の〇・四七等が之に亞いで高い、最も低いのは全羅南道、慶尙北道の〇・〇七で、忠清北道、忠清南道、全羅北道の〇・〇九、黄海道、江原道の〇・一五、江原道の〇・一九等は比較的低い方である。

各道の死産率を前年に比較すると、増加したもの五道、減少したもの六道で、其中變動の主なるものは平安北道の〇・一二の減少である。

道別	死産實數	昭和九年	同八年	前年に比し増(△減)
總數	四、七六五	〇・三三	〇・三四	△〇・〇一
京畿道	一、〇三八	〇・四八	〇・五三	〇・〇五
忠清北道	八二	〇・〇九	〇・一三	△〇・〇四

三、死産兒の體性 昭和九年に於ける死産兒四、七六五人中、男は二、六四七人、女は二、一一八人で、女百に付男一二五・〇に該り、内地に於ける昭和八年の一二〇・五に比し四・五高い。尙之を出生の女百に付男一一三・〇に比較すると男超過の割合が遙かに高く、既往十年間に就いて觀ると亦同様の現象を呈してゐる

年次	男	女	死産實數	女百に付男	出生
大正十四年	一九五	一五五		一二・七	一一・三
昭和元年	二、一四二	一、六八四		一七・二	一四・六
忠清南道	一三	〇・九		〇・八	〇・一
全羅北道	一三〇	〇・九		〇・三	△〇・四
全羅南道	一七四	〇・七		〇・七	—
慶尙北道	一七七	〇・七		〇・八	△〇・二
慶尙南道	四七	〇・二〇		〇・三	△〇・二
黃海道	三六	〇・一五		〇・六	△〇・二
平安南道	七九	〇・五六		〇・四	〇・三
平安北道	七九	〇・四七		〇・五九	△〇・三
江原道	二二	〇・九		〇・八	〇・二
咸鏡南道	三四八	〇・三		〇・三	〇・二
咸鏡北道	二〇	〇・七		〇・七	—

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二	三	四	五	六	七	八	九	同	同
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二、〇五七	一、九九七	一、九九七	二、四八五	二、四六三	二、五五七	二、八〇二	二、六四七	二、二八	二、二八
一、六〇七	一、六三三	一、六〇〇	一、九四五	一、八六五	二、〇八〇	二、一五〇	二、一八	二、一五〇	二、一五〇
一三八・〇	一三三・〇	一二四・八	一二七・八	一三三・一	一三三・九	一三〇・三	一三五・〇	一三〇・三	一三〇・三
一二三・八	一二三・三	一二・六	一一・一	一一・四	一一・三	一一・五	一一・〇	一一・五	一一・五

四、死産の季節 昭和九年に於ける死産は八月に最も多く、十月、十一月、一月等之に亞いで多い。
最も少いのは二月で、四月、六月等は比較的少い方である

一	二	三	四	五	六
月	月	月	月	月	月
死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數
一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付
月	月	月	月	月	月
死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數
一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付
月	月	月	月	月	月
死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數	死産實數
一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付	一年平均一箇 月死産百に付

出生表 (昭和九年)

道 別	總 數		內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		
	總 數	男	女	男	女	男	女		
	總 數	男	女	男	女	男	女		
總 數	六二九、四七六	三三三、八九九	二九五、五七七	六、九九	六、五九九	三六、七七	二八八、八六二	二二三	一八六
京 畿 道	六七、三七	三五、七七〇	三一、五五七	一、六六六	一、六二二	三四、〇七〇	二九、九二二	三四	三四
忠 清 北 道	二四、三三〇	一三、一八六	一一、〇三四	九四	九五	一三、〇九一	一〇、九三八	一	一
忠 清 南 道	三九、〇八〇	二〇、九〇三	一八、一七七	二八八	二九〇	二〇、六二四	一七、八七九	一	八
全 羅 北 道	三九、九四七	二一、六九六	一八、二五一	四七五	四三三	二二、二二九	一七、八二四	二	四
全 羅 南 道	五七、八八五	三〇、八五六	二七、〇三九	五二〇	四五六	三〇、三四四	二六、五六五	二	六
慶 尙 北 道	六二、〇三四	三五、六三三	二八、五九三	四七八	四三三	三三、一四八	二七、九五四	六	六
慶 尙 南 道	六八、二〇三	三五、六四一	三三、五六三	一、三二四	一、一六七	三四、三三三	三一、三九三	四	三
黃 海 道	五一、七九七	二六、八七八	二四、九一九	二四三	二三五	二六、六三〇	二四、六八二	五	二
平 安 南 道	四二、五九八	二三、一八五	二〇、四一三	三九〇	三九三	二二、七七九	二〇、〇一一	一六	一〇
平 安 北 道	五五、三七四	二八、九三七	二六、四四七	二九六	二八六	二八、五四四	二六、〇九五	八七	六六
江 原 道	四九、一四四	二六、一一九	二三、〇二五	一六〇	一四三	二五、九五三	二三、八八二	七	一
咸 鏡 南 道	四八、二八六	二三、六三三	二三、六三三	五三九	五四四	二五、〇九七	二三、〇九八	二七	一一
咸 鏡 北 道	三三、五九一	一一、四四三	一一、一四八	五二六	四九三	一一、九〇六	一〇、六三一	三二	二四

死産表 (昭和九年)

[illegible]

鏡北道	朝鮮人	三、五七	二、九六	一〇、六三	八二四	六八四	九七六	八六〇	九九〇	九三八	九三七	八五二	九二七	八二二
外國人		四	三	二四	三	三	四	一	二	一	一	一	一	四

同上
上
其の二

別		道
男	}	六月
女		
男	}	七月
女		
男	}	八月
女		
男	}	九月
女		
男	}	十月
女		
男	}	十一月
女		
男	}	十二月
女		

總
覽

總數	二三、六三三	二二、四二三	二六、四五	二三、八二七	二八、四四七	二五、五四	二九、二七三	二五、六四〇	三〇、八三〇	二六、八五九	三三、八七三	二八、六四四	三四、二〇〇	三〇、〇六六
內地人	四七五	四三一	五六〇	五三三	五八〇	五五六	六二八	五五二	六二六	五四九	五三八	五七五	五〇三	三九〇
朝鮮人	二三、三四	二〇、七九四	二五、八四一	二三、二七二	二七、八五〇	二四、九三八	二八、六六	二五、〇四八	三〇、一九一	二六、二九〇	三一、三五二	二八、〇五三	三三、六九五	二九、六六六
外國人	二四	一七	一四	三三	一七	二〇	一八	一四	二三	二〇	一九	一六	二二	一〇

京畿道

内地人	三三	一七	一五	一八	一三	一四	一三	一五	一六	一九	一四	一四	
朝鮮人	二四七〇	二一三三	二七九	二四三四	三、一七一	二、七三七	三、〇六四	二、六七七	三、〇五九	二、七〇〇	三、三一一	三、〇二六	三、七〇四
外國人	一	四	一	四	二	四	四	一	六	三	四	四	三

忠清北道

[illegible]

忠清南道

内地人	五	一五	三〇	一五	三三	二五	一九	二六	二四	三四	二九	三五	二三	一九
朝鮮人	一、五〇三	一、三三八	一、六七一	一、五八二	一、九四四	一、六五三	一、八三五	一、七三五	二、一〇六	一、七七五	二、一〇三	一、七五七	二、一八九	一、八六三
外國人	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	三	一	一

全羅北道

朝鮮人	一、四四五	一、二九一	一、六六六	一、四三三	一、七八五	一、四九五	一、八四〇	一、五二五	一、九三七	一、六〇四	一、八四八	一、五五五	二、一七六	一、七五六
内地人	三六	二二	三三	二六	四一	四二	四一	三六	四〇	四一	三七	三六	三八	三三

全羅南道			慶尙北道			慶尙南道			黃海道			平安南道			平安北道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
—	三	—	—	二、二六二	三	—	二、六八三	—	—	一、七三九	—	—	一、五二二	—	—	二、〇四四	—
—	三三	—	—	二、一八	—	—	二、四七五	—	—	一、六七	—	—	一、五三一	—	—	一、八三三	—
—	四四	—	—	二、六〇七	—	—	二、八四一	—	—	二、〇〇四	—	—	一、八四〇	—	—	二、〇八一	—
—	四六	—	—	二、〇三二	—	—	二、五九九	—	—	一、七三三	—	—	一、七七八	—	—	二、〇三九	—
—	四八	—	—	二、六六四	—	—	二、八九三	—	—	二、一五	—	—	一、九二一	—	—	二、三五四	—
—	三二	—	—	二、三六七	—	—	二、六六七	—	—	二、〇五九	—	—	一、八八九	—	—	二、一六一	—
—	四四	—	—	二、八二二	—	—	二、八八三	—	—	二、三三三	—	—	二、〇二二	—	—	二、〇〇〇	—
—	三〇	—	—	二、三八三	—	—	二、六二六	—	—	二、一三三	—	—	一、八二九	—	—	二、一三四	—
—	四八	—	—	二、八五六	—	—	三、〇八四	—	—	二、三三三	—	—	二、一五五	—	—	二、五〇〇	—
—	四五	—	—	二、四八〇	—	—	二、七七七	—	—	二、一五六	—	—	一、九〇五	—	—	二、二七四	—
—	四〇	—	—	三、三〇七	—	—	二、七三三	—	—	二、四〇四	—	—	二、三三一	—	—	二、六五七	—
—	五〇	—	—	二、八三三	—	—	二、五四一	—	—	二、三六六	—	—	二、〇九九	—	—	二、五〇四	—
—	二八	—	—	二、七五七	—	—	三、二〇三	—	—	二、八八五	—	—	二、〇九四	—	—	三、〇三三	—
—	三七	—	—	二、四八三	—	—	三、〇八九	—	—	二、七四七	—	—	一、八八八	—	—	二、七六六	—

黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清南道			外國人
内地人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	
六	一	二八	二	二六	一五	一	一四	四	一	一四	三	一	九	三	一	六	三	一
七	一	二三	一	一五	九	一	七	三	一	七	一五	一	六	二	一	六	一	一
九	一	九	二	二三	六	一	六	三	一	九	七	一	六	三	一	四	九	一
五	一	二	一	七	八	一	六	一	一	八	一	一	三	三	一	四	三	一
三	一	二	一	二	九	一	三	一	一	七	二	一	一	一	一	四	一	一
二	一	二	一	九	七	一	六	一	一	三	二	一	三	一	一	三	三	一
二	一	七	一	一八	六	一	三	一	一	七	一	一	三	一	一	一	三	一
一	一	二	一	九	七	一	六	一	一	八	一	一	五	二	一	四	二	一
四	一	二	一	九	二	一	二	一	一	三	一	一	五	一	一	一	一	一
三	一	八	一	一	六	一	七	二	一	五	一	一	四	二	一	五	一	一
二	一	六	一	五	七	一	三	二	一	三	一	一	五	二	一	五	一	一
三	一	七	一	一	七	一	七	四	一	三	一	一	九	二	一	四	一	一
二	一	八	一	九	四	一	八	四	一	七	三	一	二	一	一	四	一	一

道別	總數	内地人	朝鮮人	咸鏡北道		咸鏡南道		江原道		平安北道		平安南道	
				外国人	朝鮮人	外国人	朝鮮人	外国人	朝鮮人	外国人	朝鮮人	外国人	朝鮮人
同	男	六月	二〇三	一七四	一五〇	一	二六	一	二五	五	七三	二	七二
	女	六月	一七六	一五〇	一五〇	一	一五八	一	一五	一	六七	二	六八
上	男	七月	三八	一八二	一五〇	一	一〇三	一	一八	四	三六	一	三三
	女	七月	一七九	一五〇	一五〇	一	一三	一	一〇	二	六	一	元
其の二	男	八月	二五一	二〇四	一六〇	一	一〇	一	一五	二	三	一	二五
	女	八月	一九三	一六〇	一六〇	一	六	一	二	一	〇	一	三
	男	九月	二二七	一九四	一四	一	五	一	二	一	七	一	二七
	女	九月	一五	一三	一三	一	六	一	一	一	六	一	二
	男	十月	二四六	一九三	一五	一	八	一	一七	一	二四	一	四
	女	十月	一八七	一五	一五	一	二	一	一六	一	三	一	三
	男	十一月	三三	一八六	一六	一	二	一	一六	一	三	一	三
	女	十一月	一九七	一六四	一六四	一	七	一	九	一	五	一	〇
	男	十二月	三〇	一八六	一四	一	七	一	八	一	〇	一	六
	女	十二月	一七五	一四	一四	一	三	一	二	一	七	一	三

慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清南道			忠清北道			京畿道			
内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人		
二	一	四	一	二	二	一	五	一	四	一	四	一	四	一	四	二	二	
三	七	三	八	一	五	一	五	一	二	一	三	一	三	一	三	五	一	
九	六	一	五	二	三	一	三	一	八	二	一	一	一	一	四	八	一	
四	三	一	八	一	二	二	二	二	四	一	一	一	一	一	三	二	二	
一四	九	二	一〇	一	一四	二	一四	二	一	一	六	一	一	一	三	二	二	
四	八	二	九	三	四	一	四	一	六	四	五	一	一	一	七	一〇	一	
八	八	一	四	一	一五	一	一	一	一	一	二	一	二	二	四	九	三	
六	四	一	七	二	一	二	四	三	四	三	五	一	一	一	二	九	二	
九	八	一	四	四	一	三	五	二	五	二	三	一	一	一	二	一六	二	
七	五	二	三	一	四	一	三	三	三	三	三	一	一	一	二	八	一	
一〇	五	一	四	二	六	二	五	一	五	一	九	一	一	一	三	九	一	
二	七	一	五	一	二	一	二	三	二	三	一	一	一	一	七	二	一	
四	六	五	八	一	三	一	四	一	四	一	三	一	一	一	四	七	一	
六	三	五	二	一	二	一	五	一	五	一	一	一	一	一	七	一〇	一	

咸鏡北道			咸鏡南道			江原道			平安北道			平安南道			黃海道			慶尙南道	
外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人
一	四	四		一四	四		三	二		三		一	二五	三		七			八
	四	四		七	三		六			二四	二		三	三		九			二
	六	三		二	三		一四	一		三			三〇	四		二	一		八
	三			一〇	五		二		一	二六	一		三九	二		七	一		一三
	六	三		一九	四		一八			三〇	二		三六	四		一〇			一六
	五	三		六	一		一三			三			二六	三		九	一		九
	八	三		一五	八		三	一		三	三		三	四		一三			一六
一	四	四	一	二	一		七	一		一九	一		二	三		九			六
一	六	一		三	六		九	一		三八	三		三	四		一四	一		一九
	二	四		二	四		八			八	二		三			〇			三
一	八	四		一五	一		一〇	一		四	一		三	二		〇			一三
	七	三		一三	二		一〇	三		八	二		六	三		二	一		三
	六	八		一八	四		一〇			四三			二	二		三	二		二
	四	二		三	一		七	一		三五	二		一九	二		七	三		七

新 義 州 府
元 山 府
咸 興 府
清 津 府
總 計

一一、六七三
一二、六六〇
一〇、六二七
一一、七九七
三二三、三八四

五八、四五五
六〇、一八五
五六、五七五
五五、五三〇
一、六〇六、一六七

三三、一四二
三一、〇四二
二九、二二八
三一、一三六
八三一、一二一

二五、三一三
二九、一四三
二七、三四七
二四、三九四
七七五、〇四六

昭和九年死七(一)

昭和九年の死亡

一、死亡總數 朝鮮に於ける昭和九年の死亡は四〇七、二六三人(内地人は八、四四八人、朝鮮人は三三、三三人)で、一日平均一、一一六人に當り、死亡率は人口千に付一九・二八である。之を前年に比較すると實數に於て五、九四一人を増加したが、率に於ては〇・〇二を減少した。尙内地に於ける死亡率は一八・四八であるから朝鮮は〇・八〇高率である。死亡率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和四年の二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で、平均二〇・八八である。

年次	總數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千に付	地
大正十四年	三九三、四九七	七、六一五	三八四、六七三	二〇九	三〇・六四	三〇・二七
昭和元年	三八七、七四三	七、一六四	三八〇、三六一	二二八	三〇・三〇	一九・一八
同二年	四二一、〇一五	七、八八二	四〇三、八四〇	二九三	三二・四八	一九・八一
同三年	四三三、七五五	八、二六六	四三〇、六四二	四三七	三三・五八	一九・九二
同四年	四六一、七二九	八、三二七	四五二、八五三	五五九	三三・八九	二〇・〇四
同五年	三八一、八七七	七、六八一	三七三、七三三	四七四	一八・八五	一八・一七
同六年	四二〇、三六八	八、四〇六	四〇一、五四八	四三四	二〇・二五	一八・九六
同七年	四三七、五二八	八、七三二	四四八、五二三	二六三	三三・三二	一七・七三
同八年	四〇一、三三三	八、三九九	三九二、六六八	二九五	一九・三〇	一七・七六
同九年	四〇七、二六三	八、四四八	三九八、四八二	三三三	一九・二八	一八・四八

二、道別死亡

昭和九年に於ける死亡を道別に觀ると、最も多いのは京畿道の四九、〇九二人で、慶尙北道の四四、二六三人之に亞ぎ、最も少いのは忠清北道の一六、一九九人で、咸鏡北道の一六、三九二人之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を見ると、最高は江原道の二四・〇四で、咸鏡南道の二二・六六、平安北道の二・四九等之に亞ぎ、最低は全羅南道の一二・三九で、之に亞いで全羅北道の一五・〇一、忠清南道の一五・九八等比較的低い方である。各道の死亡率を前年に比較すると、増加したものの八箇道、減少したものの五箇道で、増加の最も著しいのは京畿道の一・六六、減少の最も著しいものは平安北道の四・四三である。

道 別	實 數	人 口 千 に 付			比較 増(△)減(○)
		昭和九年	同 八 年		
總 數	四〇七、二六三	一九・三六	一九・三〇	△	〇・〇三
京 畿 道	四九、〇九二	三三・〇三	二〇・三六		一・六六
忠 清 北 道	一六、一九九	一八・三三	一八・二二		〇・一一
忠 清 南 道	三三、六八二	一五・九八	一五・四四		〇・五四
全 羅 北 道	二二、一三三	一五・〇一	二三・七五		一・二六
全 羅 南 道	二八、七四五	一二・三九	一三・五八	△	一・一九
慶 尙 北 道	四四、二六三	一八・六七	一七・五四		一・一三
慶 尙 南 道	四一、〇八七	一九・三五	一七・九九		一・二六
黃 海 道	三三、二五三	二〇・八三	二二・三〇	△	〇・四八
平 安 南 道	二八、四四三	二〇・七三	二三・四七	△	一・七五
平 安 北 道	三三、四六八	二三・四九	二六・九三	△	四・四三

江 原 道	三五、〇三七	三四、〇四〇	三三、八	一、三三
咸 鏡 南 道	三五、四七〇	三三、六六	三三、三二	〇、〇四
咸 鏡 北 道	一六、三九三	三三、二四	三三、一〇	一、八六

三、死亡者の體性 昭和九年に於ける死亡者四〇七、二六三人中男は二一九、〇六二人、女は一八八、二〇一人

で女百に付男は一一六・四に當り前年に比し〇・九を増加した。尙内地於ける此の割合は一〇七・九であるから、朝鮮では男の死亡者が女に比し著しく多いことが窺はれる。而して男女各性人口千に付男の死亡者は二〇・四 女の死亡者は一八・一であつて、死亡率に於ても男は女より高いことが判る。

年 次	實 數		女 百 に 付 男		各 性 人 口 千 に 付	
	男	女	朝 鮮 内 地	地	男	女
大 正 十 四 年	二〇九、六二五	一八三、八八二	一二四・六	一〇五・四	二・五	一九七
昭 和 元 年	二〇六、〇九〇	一八一、六五三	一二三・五	一〇六・〇	二・七	一九五
同 二 年	二二八、七三五	一九三、二九〇	一二三・七	一〇五・八	三・三	二〇六
同 三 年	二三〇、二二九	二〇三、一五六	一二三・三	一〇七・〇	三・五	二二七
同 四 年	二四四、八〇八	二六、九三二	一二三・九	一〇五・〇	三・八	三三九
同 五 年	二〇五、一六四	一七六、七二三	一二六・一	一〇六・五	一九九	二七・八
同 六 年	二一九、二五〇	一九一、一三八	一二四・七	一〇七・二	二・二	一九三
同 七 年	二四三、八七二	二三、六四六	一二四・一	一〇六・九	三・三	二二・一
同 八 年	二五、〇九〇	一八、二三三	一二五・五	一〇七・五	三・三	一八・二
同 九 年	二九、〇六二	一八、二〇一	一二六・四	一〇七・九	三・四	一八・一

四、死亡の季節 昭和九年に於ける各月平均一日の死亡は、三月に最も多く四月、二月、一月、五月之に亞ぎ、各月共に一年平均以上とし、之に反し最も少いのは十月で、十一月、十二月、九月之に亞いでゐる。即ち死亡は一月より漸次増加し三月に最も多く、四月より減少を續けて十月に最も少く、十一月、十二月は再び増加してゐる。

月 別	實 數	一年平均一日の死亡百に付各月平均一日の死亡	月 別	實 數	一年平均一日の死亡百に付各月平均一日の死亡
一 月	三九、三六四	一一三・八〇	七 月	三四、二七五	九九・〇九
二 月	三五、五九〇	一一三・九二	八 月	三一、九二九	九二・三一
三 月	四七、三九〇	一三七・〇一	九 月	二九、〇八五	八六・八九
四 月	四〇、〇二九	一一九・五八	十 月	二六、一〇一	七五・四六
五 月	三四、七〇五	一〇〇・三三	十一 月	二五、六七六	七六・七一
六 月	三三、四〇三	九九・七九	十二 月	二九、七一六	八五・九一

五、死亡者の年齢

昭和九年に於ける死亡者を年齢階級別に觀ると、五歳未満の小兒は死亡總數の三割九分

七厘(〇歳の者は一割二分八厘)

を占めて最も多く、五―九歳は急激に減少して六分四厘、一〇―一四歳は更に低下して三分

分となり、一五―一九歳は各年齢級を通じて最も少く二分九厘を示してゐる。二〇―二四歳は稍増加して三

分六厘となるが、二五歳よりは再び漸次減少して二五―二九歳は三分三厘、三〇―三四歳は三分四厘、三五

―三九歳は三分二厘となつてゐる。而して四〇―四九歳は五分九厘を示し、五〇―五九歳は稍増加して六分

六厘、六〇―六九歳は更に増加して九分二厘となるが、七〇歳以上は此の年齢級に屬する人口の少いため漸

次減少して七〇—七九歳は八分八厘、八〇歳以上は三分八厘になつてゐる。

年 齢	總 數	實 數		千 分 比	
		男	女	男	女
總 數		四〇七、三六三	二九〇、六三二	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
〇—四 歳		一六二、四九九	八八、三四三	七三、一五六	三九六・五四
再 掲		五三、二八〇	二九、一三五	三三、一四五	一八・三七
〇 歳		四八、九〇六	二六、九七三	二二、九三四	一三〇・〇八
再 掲		六〇、三三三	三三、二六六	二八、〇七七	一四八・〇九
二—四 歳		二六、三二一	一三、七三四	一二、四九七	六四・三八
五 歳		一一、七三五	五、七六四	五、九七一	二八・八一
一〇—一四 歳		一四、六四九	七、〇八九	七、五六〇	三五・九七
一五—一九 歳		一三、五八四	六、九八八	六、五七六	三三・三二
二〇—二四 歳		一三、九九五	七、四七二	六、五三三	三四・五六
二五—二九 歳		一三、一八四	六、九九八	六、一八六	三三・三七
三〇—三四 歳		一三、八三二	一三、八八六	九、九四六	五八・五二
三五—三九 歳		二六、七五七	一五、九三七	一〇、八二〇	六五・七〇
四〇—四四 歳		三七、三〇五	二〇、四九二	一六、八一三	九一・六〇
四五—四九 歳		三五、六二一	一八、一四九	一七、五〇二	八七・五四
五〇—五四 歳					
五五—五九 歳					
六〇—六四 歳					
六五—六九 歳					
七〇—七四 歳					
七五—七九 歳					
八〇—八四 歳					
八五—八九 歳					
九〇—九四 歳					
九五—九九 歳					
總 數		四〇七、三六三	二九〇、六三二	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
〇—四 歳		一六二、四九九	八八、三四三	七三、一五六	三九六・五四
再 掲		五三、二八〇	二九、一三五	三三、一四五	一八・三七
〇 歳		四八、九〇六	二六、九七三	二二、九三四	一三〇・〇八
再 掲		六〇、三三三	三三、二六六	二八、〇七七	一四八・〇九
二—四 歳		二六、三二一	一三、七三四	一二、四九七	六四・三八
五 歳		一一、七三五	五、七六四	五、九七一	二八・八一
一〇—一四 歳		一四、六四九	七、〇八九	七、五六〇	三五・九七
一五—一九 歳		一三、五八四	六、九八八	六、五七六	三三・三二
二〇—二四 歳		一三、九九五	七、四七二	六、五三三	三四・五六
二五—二九 歳		一三、一八四	六、九九八	六、一八六	三三・三七
三〇—三四 歳		一三、八三二	一三、八八六	九、九四六	五八・五二
三五—三九 歳		二六、七五七	一五、九三七	一〇、八二〇	六五・七〇
四〇—四四 歳		三七、三〇五	二〇、四九二	一六、八一三	九一・六〇
四五—四九 歳		三五、六二一	一八、一四九	一七、五〇二	八七・五四
五〇—五四 歳					
五五—五九 歳					
六〇—六四 歳					
六五—六九 歳					
七〇—七四 歳					
七五—七九 歳					
八〇—八四 歳					
八五—八九 歳					
九〇—九四 歳					
九五—九九 歳					

八〇歳以上	一五、五六九	七、四九九	八、三〇〇	三、六二三	三、〇九	四、〇三
年齢不詳	九八	五五	四三七	二、四三	二、三三	三、三三

更に昭和九年に於ける男女の死亡者を年齢別に比較して観ると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇―五九歳を山とし、二〇―二四歳及八〇歳以上を谷とする波状を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女百に付男一二〇・七六で、其れより年齢の長するに従ひ男の割合は遞減し、二〇―二四歳に於ては男は女より遙かに少く九三・七七を示してゐる。而して二五歳以上は男の割合漸次増加し五〇―五九歳は一四七・二九の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上は八七・一三に減少してゐる。

年齢	總數	男百に付女	年齢	男百に付女
〇―四歳	四歳	一二六・四〇	二五―二九歳	一〇六・二七
再掲	〇	一二〇・七六	三〇―三四歳	一一四・五五
一―四歳	四歳	一二五・八八	三五―三九歳	一一三・一三
再掲	一	一二二・九七	四〇―四九歳	一三九・六一
二―四歳	四歳	一一四・八一	五〇―五九歳	一四七・二九
五―九歳	九歳	一〇九・八〇	六〇―六九歳	一二一・八一
一〇―一四歳	四歳	一〇八・九二	七〇―七九歳	一〇三・七〇
一五―一九歳	四歳	九六・五三	八〇歳以上	八七・一三
二〇―二四歳	四歳	九三・七七	年齢不詳	一二六・〇九

六、死亡の原因

昭和八年に於ける死亡を死因二十五分類別に見ると、消化器病が最も多く一割九分四厘を

占め、神経系病一割八分八厘、呼吸器病の一割五分三厘、感冒の八分六厘、傳染性病の八分二厘、老衰の六

分之に亞ぎ、以上を以て死亡總數の七割六分餘を占めてゐる。

死 因		實 數	千 分 比 例
總 數		四〇七、二六三	一、〇〇〇・〇〇
全 身 病		一一、二〇八	二七・五二
精 神 病		六、九九六	一七・一八
神 經 系 病		七六、五八〇	一八八・〇四
循 環 器 病		一八、九八〇	四六・六〇
眼 及 其 附 屬 器 病		五八三	一・四三
耳 病		四七〇	一・一五
鼻 咽 喉 病		五、六八五	一三・九六
呼 吸 器 病		六二、三五〇	一五三・一〇
消 化 器 病		七八、八一四	一九三・五二
齒 牙 病		五一五	一・二六
運 動 器 病		四、四七七	一〇・九九
皮膚及其の附屬器病		六、八〇四	一六・七二
死 因		實 數	千 分 比 例
泌 尿 生 殖 器 病		一〇、〇八一	二四・七五
外 傷		二、八八五	七・〇八
溺 死 及 縊 死		四、一二三	一〇・一二
畸 形 及 幼 年 衰		三、〇七九	七・五六
老 衰		二四、六〇九	六〇・四三
妊 娠 及 產		三、二七〇	八・〇三
中 毒		三、六五五	八・九七
新 生 物		七八二	一・九二
寄 生 蟲 病		四、三三二	一〇・六四
脚 氣		一、一九〇	二・九二
感 冒		三四、九四八	八五・八一
傳 染 性 病		三三、四六〇	八二・一六
不明診斷及不詳の原因		七、三八七	一八・一四

人口動態

昭和十年.

出生、出生、死産、死、婚姻、離婚
(昭和1年～昭和10年)

昭和10年人口動態の対比

南次郎總督の聲明.

井坂國勢調査課長人事

10.30 43.25

9.32 17.59

4.96 13.16

5.52 19.58

4.38 6.48

3.67 8.68

4.83 13.82

2.81 4.85

9.32 19.81

9.70 26.77

8.94 12.60

7.52 20.97

8.56 30.04

6.45 11.70

7.60 28.00

8.16 37.20

7.02 18.43

8.46 22.60

8.52 28.98

朝鮮統計時報

第八號

特 輯 の 辭

去る十月二十七日朝鮮人口動態調査規則が制定せられ、從來地方分査の方法により調査され來つた朝鮮の人口動態統計が昭和十三年以降、中央集査の方法に依つて調査せられることに改正せられた。

抑々統計の調査方法には中央集査と地方分査の二通りあるのであるが、今日最も進歩せる科學的調査方法は中央集査であつて、之に依らずして統計の整備を圖することは到底不可能であるとせられてゐる。

此の意味に於て今回の改正は極めて根本的な大改正と申すべきであつて、朝鮮の人口動態統計は之に依つて餘すところなく整備せられることになつたのである。

もとより此の調査が完全に遂行せられるか否かは直接統計資料蒐集の衝にあたる府邑面職員諸氏の雙肩に懸ることが最も大なるは申すまでもないことである。

此故に本府に於ては十一月十一日、十二日の兩日に亘り各道統計主任を會同して十分なる打合せを爲すと共に、引續き各道に於ては夫々管内府郡島邑面關係職員を總動員して調査の圓滑なる遂行に萬遺憾なきを期することになつてゐる。

人口動態調査規則の制定と共に、十一月十九日訓令第七十七號を以て一般統計事務の根幹をなす朝鮮總督府報告例中改正せられ、就中、別冊甲號及乙號は庶政刷新の根本趣旨に則り形式内容の兩方面に亘り調期的の大改正が行はれた。人口動態調査規則の制定と報告例の改正とは兩々相俟つて朝鮮に於ける統計の向上、事務の刷新に更に拍車をかけるものと信じてゐる。願くは朝鮮統計に關心を寄せらるる誌友會員諸賢に於かれては、これらの點を充分諒解せられ、朝鮮統計の使命達成に萬幅の協力を與へられむことを。

聲 明

予曩ニ大命ヲ拜シテ朝鮮ニ蒞ムヤ施政ノ方針ヲ宣ブルニ先ヅ國體ヲ明徴ニシ肇國ノ理想ヲ顯揚シ國民精神ノ振作ヲ圖ルヲ以テ至願トシ之ガ必成ヲ上下協戮官民一致ノ努力ニ俟テリ爾來趨向益定マリ效果具ニ著ハレ以テ日進會通ノ運ニ乗ジ日新更張ノ期ヲ啓キ人心ハ益實ニ赴キ民風ハ愈剛健ヲ加ヘタリ今ヤ帝國ハ東洋平和確立ノ國是ニ隨ヒ異常ノ決意ヲ以テ膺懲ノ師ヲ深ク支那ニ進ム時局眞ニ重大國民ハ克ク事態ノ歸趨ヲ明察シ堅忍持久長期ノ試鍊ニ耐フルノ覺悟ヲ固クセザルベカラズ是レ曩ニ予ガ諭告ヲ發シテ一般官民ノ奮勵ヲ促シ各種施設ヲ強化スルト共ニ今復茲ニ國民精神作興週間ヲ設定シテ平素涵養シ來レル强健ナル精神ヲ收束シ更ニ之ヲ今後日常ノ實生活ニ具顯セシメンコトヲ庶幾スル所以ナリ而モ我ガ國民ハ古來艱難ニ遭遇スルヤ必ズ舉國一心鐵石ノ意思ヲ以テ之ヲ克服シ國家興隆ノ成果ヲ收メザルナシ是レ即チ皇國精神ノ發露ニシテ萬邦無比ノ國體ニ基スル所幸ニ刻下重大ノ時局ニ當ツテ國民共有ノ矜持ニ依リ予ガ聲明ノ意ヲ體シ内鮮一體協力私ヲ忘レ公ニ奉ジテ怠ルナクンバ時艱ノ克服ハ期シテ待ツベク國體ノ精華ハ自ラ發揚セラレン

強内官民宜シク深沈心ヲ練リ旦夕之ヲ弔メヨ

昭和十二年十一月十日

朝鮮總督

南

次

郎

人口動態調查事務 打合會ニ於ケル 大野政務總監訓示

本日茲ニ道統計主任會同人口動態調查事務ノ打合ヲ爲スニ當リ一言訓示スル所アラムトス

抑人口ハ國家社會ニ於ケル政治的經濟的將又軍事的活動ノ原動力ニシテ國勢ノ推移消長ハ一ニ懸ツテ人口狀態ノ如何ニ存スト謂フモ過言ニ非ズ仍テ之ヲ明確ニシテ理想ノ型態ニ誘導スルハ國家ノ興隆國民ノ康福ヲ企圖スル百般ノ國策遂行上最モ重要ナル先決條件ノ一ナリト謂ハザルベカラズ茲ニ於テ人口統計ヲ整備シテ其ノ效用ヲ十分ニ發揮セシメ以テ人口狀態ノ究明ニ遺憾ナカラシムル方途ヲ購ズルハ蓋シ刻下ノ最緊要事ニ屬スルモノナリト信ズ

人口動態調查ハ國勢調查ト相俟ツテ人口統計ヲ完備シ以テ人口狀態ヲ明確ニシ施政ノ基本資料ヲ提供スルコトヲ其ノ根本的使命トス

然ルニ朝鮮ニ於ケル人口動態調查ハ從來報告例ヲ定ムル所ニ基キ地方分査ノ方法ニ依リ調査セラレ道統計主任各位ノ努力ニ依テ近時改善ノ跡見ルベキモノアリト雖モ尙其ノ内容ヲ仔細ニ檢討スルトキハ未ダ十分ナラザル點尠シトセズ仍テ本調査ノ重要性ニ鑑ミ之ガ整備ヲ圖ル爲昭和十三年ヨリ中央集査ノ方法ヲ採用スルコトトナリ今回府令朝鮮人口動態調查規則ヲ以テ之ガ調査方法ヲ規定セラレタリ

國勢調査ニ付テハ各位多年ノ努力ニ依リ既ニ十分其ノ成果ヲ收メツツアル所ナルモ人口動態調査ニ付テモ亦其ノ成績ヲ決定スベキ地方事務ヲ直接指導スルノ地位ニ在ル各位ハ其ノ責任ノ重大ナルニ鑑ミ國勢調査ニ於ケルト同様萬全ノ努力ヲ效スノ要アリ

宜シク當局ノ指示注意ニ基キ腹藏ナキ意見ヲ開陳シテ協議ヲ盡シ以テ本事務ノ目的及方法ヲ了得セムコトヲ望ム

人口動態調査事務 打合會に於ける 井坂國勢調査課長挨拶

本日茲に道統計主任各位參集の席に於て只今の政務總監閣下の御訓示に關聯し些か所見を述べまして各位の御參考に供したいと存じます。

明年一月一日より實施せられる朝鮮の人口動態調査に付ては十月二十七日朝鮮總督府令第六十一號を以て朝鮮人口動態調査規則が制定せられました。

朝鮮に於ては從來人口動態調査を婚姻、離婚、出生、死亡及死産の五種目に付て施行してゐまして、其の調査方法は婚姻、離婚及出生に付ては本府報告例及各道人口調査小票規程の定むる所に依り府尹邑面長が年末に於て管内の現住者に付實地調査して其の年中の事實を申告せしめ、死亡及死産に付ては本府報告例の定むる所に依り墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則に基く人民の届出に依て統計材料を蒐集し、此等の材料を府尹邑面長が集計整理して府邑面統計表を作成し、邑面長は之を郡守島司に、府尹は道知事に提出し、郡守島司は邑面統計表に依り郡島統計表を作成して道知事に提出し、道知事は府郡島統計表に依り道統計表を作成して本府に提出し、本府に於ては各道提出の統計表を取纏めて朝鮮の人口動態統計表として發表して居るのであります。即ち統計材料の蒐集は一半は年々實地調査に依り一半は警察行政上の届出に基いて之を行ひ、其の集計整理は府邑面に於ける地方分査の方法に依て調査し來つたのであります。

處が此の調査方法には色々の方面に缺點があるといふことは既に各位に於かれても十分御承知のこととは存じますが其の缺點の大きな部分は集計整理事務を地方分査に依て行つて來たことに存するのであります。近時各位の努力に依り改善の跡著し

本質的な缺陷でありますが爲調査に携はる者が如何に努力しても地方分査である限りは除去し得られない、所謂勞多くして效少しの結果に終るのでありまして、之を完全にする爲にはどうしても地方分査を廢して中央集査を採用することが必要なのであります。斯様なわけで今回朝鮮人口動態調査規則が定められ從來の地方分査を中央集査に改めることに相成つたのであります。

中央集査となりましたが調査の種類は從來と同じく婚姻、離婚、出生、死亡及死産の五種目であります。調査方法の詳細については「朝鮮人口動態調査規則」及政務總監通牒「調査票及送致目錄作成心得」を後刻係員をして説明致さしますから此處には詳述を省きますが、唯一言申して置きたいことは婚姻、離婚、出生及死亡の調査は朝鮮戶籍令による届出に基いて之を爲すことになつてゐますが故に同令の適用なき内地人及外國人の調査はどうするかといふ點であります。

先づ内地人でありますが之については戶籍法の適用が有しまして、其の調査資料は死産を除いて全部内閣統計局に在るから之に關する調査は同局に依託する豫定であります。次に外國人に付ては其の件數少く重要性も乏しいので從來通りの調査方法を繼續する方針でありますが、此外國人の調査を如何にしたら圓滑に行へるかといふ點に付ては尙後程協議致したいと思ひます。

大體以上の様な趣旨方針でありますが、然らば此人口動態調査は何故に之を行ふのであるか其の使命目的は何處にありや、此點に付て若干申し述べて見たいと思ひます。

先づ婚姻及離婚に付て申しますと、婚姻が個人として人生に於ける重大事であることは申す迄もありませんが、同時に之は國家社會にとりまして重要な意義を有するものであります。何故なれば人は婚姻の結果家庭を構成して別に世帯を構ふる様になるのであります。之等個人的生活の變化は必ず個人の集團たる社會全體に影響して來るものだからであります。婚姻數を年々調査してそこに減少の傾向があれば社會生活に對する經濟的、政治的若は社會的不安、障礙の増加しつゝあることの象徴となり、増加の傾向があれば之を以て社會生活がより幸福安寧となりつゝある象徴と見ることが出来るのであります。又一國一

社會に於ける婚姻數の増減若は早婚又は晚婚の傾向はやがて人口の増加にも影響を及ぼして來るものであります。従つて婚姻數を調べ年々其の狀態を観察して行くことは社會生活の變遷を説明する資料ともなり、將來の人口の研究資料ともなるのであります。離婚は婚姻生活の破綻を意味するものでありますが故に離婚數を年々調査して増加する傾向がありますれば民衆の風習に變化の起りつゝあること若は社會生活に於ける災害不幸等の障礙の多くなつて行くことが想察されると共に、婚姻に對する民衆の觀念、婚姻成立の風習、婚姻後に於ける家庭構成の狀況等結婚制度に對する批判も出來るのであります。之が婚姻及離婚を調査する目的であります。

次に出生及死亡であります。一國一社會の人口は絶えず死亡、出生及來往に因つて増減することは申す迄もありませんが世界を打つて一丸として考へますれば人口を増減せしむる原因は出生及死亡のみであります。統計的見地よりしますれば此の來往は第二の問題であつて、第一の問題は飽迄出生、死亡の研究であります。わけても出生は最も重要な意義を持つものであります。出生を調査し、其の數は幾千ありや、出生率は大きい小さいか、又既往に比して増加しつゝありや、減少しつゝありや又此等の變化は何を原因としてゐるのであらうか等を知ることが國民の發展力を知る上に於て極めて必要なことであります。次に死亡は人間生活に於て出生に亞ぐ重要な現象でありますが出生率の増高は國家繁榮の象徴たり得るに對し、死亡率の大なるは大いに警戒を要する問題であります。死亡率の高いことは常に所謂天壽を全うすることなく夭折する者の多いことを示してゐるものであるからであります。それ故に死亡率は國家の文明度を示す指針とも申されて居り各國は争つて生命の延長、死亡率の遞減を圖つてゐます。然るに死亡率は衛生思想の發達、道德の向上、社會の繁榮平和等に因つて遞減するものでありますから根本的に國民の保健を圖らんとするには必ず死亡の調査の結果に依つて其の狀勢を知り而して後適當の施設を爲さねばなりません。尙出生と死亡とを結びつけて觀察するとき、茲に人口の自然的増加を決定することが出來、諸般の國策遂行上極めて必要な將來の人口豫測といふことが可能になつて來るのであります。之が出生及死亡の調査が重要な所以で

最後に死産でありますが死産は妊娠の失敗を意味し衛生的見地よりして甚だ遺憾なことは申す迄もありません。然るに死産は公衆衛生の發達、道德の進歩に依り漸次減少すべきものであります、朝鮮の状態は如何、之を知ることが本調査の目的であります。

大體以上の様な次第であります、尙之を一言にして申しますならば人口動態調査は一定期間に於ける國家社會の人口が如何なる原因によりて、又如何様の數量に於て變動し行くかを連續的に調査研究することによつて、一定時に於て社會を組織する人口の總數が幾千ありや又如何なる單位により如何様に組立てられてゐるかを觀察する人口靜態調査即ち國勢調査と相俟つて一國一社會の人口狀態を明らかにすることを其の使命目的としてゐるのであるといふことが出来るのであります。

凡そ人口現象に限らず、あらゆる社會現象は之を靜態と動態との兩方面から觀察しなければ其の本體を明らかにするに十分でないのであります。例へば米の問題を取り擧げて見ましても、昭和十二年末に米が朝鮮内に何百萬石あるといふ米の靜態的調査ばかりでは朝鮮に於ける米の狀態は十分に明らかにすることは出来ません。昭和十二年末に米がそれだけあるといふことは何の原因として生じたか即ち朝鮮内で米がどれだけ生産されどれだけ消費され、又何程輸入され何程輸出されてゐるかといふ需給狀態即ち動態的調査をも十分に行ひ、其の結果幾千の年末現在高があるのであるといふこと迄調査されて始めて米の狀態が十分に明らかになるのであります。又會社銀行等の營業狀態を示す簿記會計に於きましても貸借對照表とか資産表とかいふ靜態的方面と仕譯帳とか賣上、買入帳とかいふ動態的方面と兩方面から記帳して行くことが其の營業狀態を明らかにする爲必要となされてゐるのであります。

之等と同様に人口狀態も國勢調査といふ靜態的方面からのみの觀察を以てしては十分に明らかにされ得るものではなく、同時に動態調査をも施行して、此の靜態と動態と兩方面から觀察して始めて十分に明らかになるのであります。此が既に數回に亙つて國勢調査が施行され人口の靜態的方面の觀察には遺憾なき今日、更に人口動態調査をも完全にして行かうとする所以であります。

申す迄もなく人口は國家社會の經濟上は勿論軍事上に於ても其の最大要素を爲してゐるものでありまして如何に文化進み國

富の大なる國家と雖もその抱擁する人口の増加力微弱なるか、又は其の減少を示すに於ては永く國力を維持して發展することの困難なことは古來多くの歴史の證明してゐる所であります。然し乍ら他面、國民生活の安定するが爲には相當の土地資源を必要とすることは申す迄もありません。然るに今日の國際情勢を省みれば人口多く土地資源の貧弱なる國家と人口に比して過大なる土地資源を有する國家即ち持つ國家と持たざる國家との對立抗争甚しく前者は現狀維持に汲々として居るに拘らず後者は現狀を打破し正常なる配分を要求して已まない狀況であります。

翻つて我國の狀態を觀まするに、明治以來國運の大發展と共に人口の増加も著しく今や我國は世界に於ける最も人口稠密なる國家となり而も尙其の増加率も世界有數の地位にあります。然るに國民の給養に必要な天然資源は其の列強に比して相當に遜色あるのみならず其の増加も遽かに期待し難きもの大部分を占むる實情でありまして所謂持たざる國家の代表的存在になつてゐるのであります。朝鮮と雖も帝國の一環として人口過剰に悩みつゝあり朝鮮人勞働者の内地渡航多數に上り内地に於ける失業を一層深刻ならしむる情勢あり一方又過剰人口を北鮮及滿洲國へ移さんとする政策が朝鮮に於ける重要問題となりつゝあるのであります。

内鮮を通じて人口多く而も年々の増加も極めて著しいといふ此の事實は苟も我國の政治經濟に意を留むる者の無關心に看過し得ざる所であります。斯の如く稠密なる又激増する人口を擁する國民が狹小なる國土に住みつゝその生活程度を維持向上して行くことが果して可能なりや、問題の解決は如何にして之を爲すべきかと云ふことは實に我國現下に於けるあらゆる國策の基礎問題をなしてゐるのであります。

由來過剰人口の對策として學者の唱へてゐる所に三つの方策があります。移民、産兒制限及工業立國が之であります。さて然らば此等の三つの對策の何れかによつて我國の人口問題は解決され得るであらうか。先づ移民でありますが之は適當な土地さへあれば頗る簡單な解決策でありますが、問題は其の土地であります。御承知の様に北米に、南米に、濠洲に到る所移民排斥若し制限がありまして移民を爲さんとして爲し得ないのが現狀であります。唯友邦滿洲國は我が移民を歓迎し我當局も滿洲移

民を重要な國策として取上げてゐるのでありますけれども我内地朝鮮を合して年々百數十萬に上る増加人口を之のみによつて全部解決することは到底不可能なりと考へざるを得ないのであります。

次に人口が増加して困るのなら産まぬ様にしたらいではないかといふのが産兒制限であります。誠に簡單明瞭な話であります。此産兒制限が極めて消極的な方法で、國家が之を其の國策として採用することの出来ないのは言を俟たざる所であります。殊に一時的な人口増加の停止を圖ることが出来るならばまだしも、一度斯様な方法を採りまして人口増加が止つた場合には將來殆んど永久的に人口を減少せしめて國家の衰亡を來すといふことは學者の均しく指摘する所でありまして、此のことを考へると産兒制限策を採ることは絕對出來得ないのであります。

其處で第三にとり上げられるのが工業立國であります。工業に於ては農業其の他の原始的産業に於ける様に廣い土地を必要としないから、此工業で國を立てゝ行けば土地が狭くても困ることはないといふのが其の主張する所であります。誠に其の通でありまして人口が多くなれば工業も盛んになるし工業が盛んになれば人口も亦殖えて行つたのが今日迄諸國の歴史の示す所であります。然しながら工業立國の建前をとりますれば勢ひ食糧原料の供給と製品の販路を外國に求めねばならない、即ち有無相通する自由通商が行はなければならないのであります。所が現下の國際關係を觀まするに、政治的不安經濟的不況其の他色々な理由から各國とも自給自足の殻に立て籠り各其の勢力範圍内だけで所謂ブロック經濟政策をとり、ブロック外の他との通商には關稅の障壁を高くするのみならず爲替管理、輸入割當制等あらゆる手段に訴へて之を極力排斥せんとし、自由通商は思ひもよらぬ所でありまして、工業立國の甚だ困難なことを物語つてゐるのであります。

斯様にして見ますれば過剩人口の解決策として學者の考へてゐる所は現下の國際情勢に於ては甚だ實效の少いものと考へなければならぬのであります。然し乍ら解決が困難であるからといつて何等の對策を講ぜずに國民の給養に障礙あらしめてはならないのであります。如何なる手段に訴へても之が打開の途を講じなければならぬのであります。

そこで我國に於ては友邦滿洲國と結び所謂日滿ブロックを形成すると共に隣邦支那に對しても協調の手を差し延べて、東亞

を打つて一丸とし有無相通じ相携へて行くことを國策と致してゐるのであります。これさへ完全に行けば我國は云ふに及ばず滿洲國も支那も皆んなよくなつて東亞の平安興隆は期して待つべきものであるのであります。然るに支那政府に於ては此見易き道理を辨へず、東洋民族の勃興を恐れる歐米資本に躍らされ、ソヴェエツト共產主義の魔手に操られて徒らに抗日侮日をことしてゐるのは誠に遺憾に堪えない所であります。只今我國は支那事變の爲朝野をを擧げて緊張してゐますが、此度の事變は東亞の盟主たる我國が頑迷固陋なる支那を懲戒する涙の答に外なりません。我々は支那が前非を悔い、我日本と共に東洋民族の發展の爲大いに反省する日の一日も早からんことを期待するものであります。斯様に觀じ來りますと重大なる現下の時局の根底に我國の人口問題が横つてゐることを見通すわけには參らないのであります。人口問題こそあらゆる政治國策の根本基調を爲すものであり苟も政策國策を論ずる以上人口問題の研究を閑却することは出來ないのであります。

人口問題を研究する爲には先づ以て人口狀態を明かにせねばなりません。然るに人口統計が人口狀態を明かにすることを其の使命目的としてゐることは先程申しましたが、同時に人口統計に依らずして人口狀態を明かにする手段は他にないのであります。

人口問題を研究するに當つて人口統計が極めて重要な所以は茲にあるのであります。

如斯人口統計の使命目的たるや頗る重大なのであります。固より其の使命を達成する爲に統計が正確でなければなりません。正確でない統計を基礎とする研究ならばそれは砂上の樓閣の如きはかなき存在でしかないのであります。此意味に於て愈明昭和十三年より我朝鮮の人口動態調査が完全になり、國勢調査と相俟つて人口統計を完備し人口問題の研究に遺憾なきを明し得る運びになりましたことは誠に慶びに堪えない所であります。

もとより此の調査が完全に遂行されるか否かは單位調査の術に當る地方職員の雙肩に懸ることが最も大きいことは申す迄もありません。過去三回に亙り施行せられた國勢調査に於きましては、各位の獻身的努力に依つて、豫定の効果を擧げることが出來ましたが、どうか本調査に就きましても直接第一線の人々を指導監督せられる各位に於かれましては本調査の重要な所以を十分に認識せられ、國勢調査同様十分の努力研究を致され、萬遺憾なきを期せられる様お願ひ致す次第であります。

昭和十年の人口動態

總督官房文書課

婚姻及離婚

第一 婚 姻

一 總數 朝鮮に於て昭和十年に行はれた婚姻は内地人二、〇九二件、朝鮮人二二一、二四六件、外國人七八件、計一二三、四一六件で一日平均三三八件に當り人口千人に付五・六四の割合である。之を前年に比數すると實數に於ては三、〇三三件増加したが、割合に於ては〇・一一を減少した。

最近十年間に於ける婚姻率の趨勢を觀ると昭和元年の八・三八より同二年の九・一九、同三年の一〇・〇七と漸次増加したが、同四年は一〇・〇五と稍々減少し、其れより年々減少を續け昭和十年は過去十年間に於ける最低率を示すに至つた。

年 別	總 數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千 人に付
昭和元年	一六八、五九六	一一、八四四	一六七、四〇八	五	八・八三
同 二年	一七五、九五三	一二、八七	一七四、六五三	三	九・一九

昭和三年	一九一、一六五	一、三五五	一九一、八二六	一四	一〇・〇七
同 四年	一九四、二六五	一、五二四	一九二、七三三	一八	一〇・〇五
同 五年	一九九、二八一	一、六八三	一九七、五九八	三五	九・八四
同 六年	一八四、五九八	一、八六四	一八二、七三三	一九	九・〇三
同 七年	一五〇、五五〇	二、二七四	一三八、二七六	一八	六・三四
同 八年	一六六、六四四	二、一四五	一六四、四八〇	一九	六・〇九
同 九年	一三、五六三	二、三五三	一一、〇一四	三六	五・七五
同 十年	一三、四一六	二、〇九二	一一、二四六	七六	五・六四

二 道別 昭和十年に於ける婚姻を道別に觀ると最も多いのは慶北の一二、八五八件で、京畿の一二、五九五件及び黃海の一二、四五七件之に亞ぎ、最も少いのは咸北の四、一六五件で、忠北の五、一四七件及忠南の六、六八五件之に亞いでゐる。

尙人口千人に對する婚姻の割合を觀ると最高は黃海の七・六九で、江原の七・二〇、咸北の六・四二及平北の六・三六之に亞ぎ、最低は全南の三・九三で之に亞いで慶南の五・一七及慶北の五・二二等比較的低い方である。

各道の婚姻率を前年に比較すると増加したもの四箇道、減少したもの八箇道、變動のないもの一箇道で増加の最も著しいのは平南の〇・八、減少の最も著しいのは咸北の一〇・六である。

道 名	實 数			人 口 千 付	比 較 増 減 率
	總 数	内地人	朝鮮人		
全 鮮	二、三、四、一六	二、〇、九、二	二、二、二、四六	七六	五・六四
京 畿	一、二、五、九五	四、六、五	一、二、一、二六	四	五・四〇
忠 清 北 道	五、一、四、七	三、一	五、一、一六	一	五・六五
忠 清 南 道	六、六、五	九、四	六、五、八	二	四・五五
全 羅 北 道	八、七、三六	一、〇、〇	八、六、一五	三	五・八九
全 羅 南 道	九、四、七九	一、四、八	九、三、三〇	一	三・九三
慶 尙 北 道	二、八、八、五八	一、四、八	一、三、七、一〇	一	五・三二
慶 尙 南 道	一、一、五、三〇	四、五、七	一、〇、八、六三	一	五・一七
黃 海 道	一、二、四、五七	五、三	一、二、四、〇〇	五	七・六九
平 安 南 道	八、五、八	七、七	八、二、八六	五	五・九四
平 安 北 道	一、〇、三、九五	七、七	一、〇、一、四七	五	六・三六
江 原 道	一、一、〇、一七	三、三	一、〇、九、八五	一	七・三〇
咸 鏡 南 道	一、〇、三、九四	二、九	一、〇、一、三三	二	六・四二
咸 鏡 北 道	四、一、六五	三、〇、三	三、九、五九	四	五・三七

三年齡別 昭和十年に於ける婚姻當事者の年齢階級別百分比例を

先づ夫に就いて觀ると内地人は二五―二九歳の五六・〇％最も多く、二〇―二四歳の一六・八％及三〇―三四歳の一六・四％之に並いでゐる。朝鮮人は二〇―二四歳の三五・九％最も多く、一七―一九歳の三二・四％及二五―二九歳の一三・三％之に並いでゐる 即ち朝鮮人は

内地人に比し婚姻最盛期が一階級低い。

内地に於ける昭和九年の比例を觀ると二五―二九歳が最も多く四三・六％で、二〇―二四歳の二五・七％及三〇―三四歳の一五・三％が之に並いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける夫れよりは婚姻最盛期たる二五―二九歳の割合が遙かに高く、二〇―二

四歳の割合が少ないのが著しく、朝鮮人に於ては内地に於ける夫れより

婚姻最盛期が一階級低く、二四歳の婚姻が、内地に於ては僅かに二

割七分たるに比し八割を占めてゐて早婚の傾向が著しい。

内 地	人	朝鮮 人		内 地 (昭和九年)	
		實 數	百 分 比	實 數	百 分 比
總 數	二〇・二	三三、二六六	一〇〇・〇	五二、六五四	一〇〇・〇
一七歳未満	五	一、四〇一	二・六	六、一八六	一・二
一七—一九歳	二七	三九、二〇三	三三・四	一五、一五三	二五・七
二〇—二四歳	五五	四三、五二六	三三・九	二二、九九五	四三・六
二五—二九歳	一五	一六、二〇四	二二・三	七、二七四	一三・三
三〇—三四歳	一、一七一	四、四〇六	二・六	三、〇七五	五・九
三五—三九歳	九八	一、九〇七	一・六	二六、九六七	五・三
四〇—四九歳	九	一、三七八	一・一	一、四四一	二・三
五〇—五九歳	二四	四七三	〇・四	一、四四一	二・三
六〇歳以上	三	二九	〇・一	四、四四四	〇・八

此の比例を既往十年間に就て観ると内地人は昭和元年に於て二五—二九歳の四二・五%、三〇—三四歳の二一・〇%、二〇—二四歳の一九・七%、三五—三九歳の九・〇%の順位を示し、以後各年共に、同一順位を續けてゐるが二五—二九歳が漸次増加してゐるのに反し、他は年により多少の高低があるが僅かつつ減少してゐる。朝鮮人は昭和元年に於て一七—一九歳の三七・〇%、二〇—二四歳の二二・二%、二五—二九歳の一五・二%の順位で、以後昭和四年迄は漸次同一順位を續けてゐるが、同五年に至つて二〇—二四歳が三二・一%となつて首位を

占め、一七—一九歳の三一・二%及二五—二九歳の一六・八%が之に次ぎ、以後大體同順位を保つゝ二〇—二四歳は漸増し、一七—一九歳は昭和七年迄漸減したが、同八年よりは増加の傾向に轉じ、二五—二九歳は漸減してゐる。之等を内地の状況と比較して觀ると内地に於ては二五—二九歳及三〇—三四歳の兩階級が逐年増加し漸次結婚へ移動しつつあるに對し、朝鮮に於ては、一七—一九歳に於て漸次増集せんとし、朝鮮人は之より一階級低く、二〇—二四歳に密集せんとしてゐる。

昭 和 年										昭 和 年										
別 年										別 年										
總 數										總 數										
未一七歲										未一七歲										
一七歲										一七歲										
一七歲										一七歲										
二四歲										二四歲										
二五歲										二五歲										
三〇歲										三〇歲										
三九歲										三九歲										
四〇歲										四〇歲										
四九歲										四九歲										
五〇歲										五〇歲										
五九歲										五九歲										
以六〇歲										以六〇歲										
九	八	七	六	五	四	三	二	元	和	十	九	八	七	六	五	四	三	二	元	和
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
11.8	14.0	14.4	6.8	6.6	7.0	7.7	7.7	7.6	7.6	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
33.3	31.7	30.7	31.2	31.3	31.4	31.5	31.5	31.7	31.7	1.3	0.8	0.5	0.9	1.4	1.3	1.0	1.6	2.1	1.7	1.7
34.4	33.1	33.0	33.5	33.1	33.1	33.0	33.1	32.8	32.8	16.8	17.5	17.2	18.9	18.3	19.0	18.7	20.3	19.7	19.7	19.7
33.3	33.1	33.1	16.5	16.8	16.2	16.1	16.1	15.9	15.3	56.0	53.8	50.3	45.6	43.7	43.8	43.8	43.3	42.5	42.5	42.5
33.9	34.2	34.6	7.4	7.7	7.7	7.3	7.3	7.3	6.6	16.4	19.1	20.9	22.4	23.8	23.9	23.3	20.7	21.0	21.0	21.0
1.7	1.9	2.2	3.3	3.3	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	4.7	4.2	6.0	7.1	8.5	8.0	8.5	7.8	9.0	9.0	9.0
1.2	1.4	1.4	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.5	1.5	3.5	3.0	3.7	3.0	3.7	3.0	4.1	4.5	4.1	4.1	4.1
0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	1.2	1.2	1.1	0.9	1.3	0.8	1.5	2.0	1.3	1.3	1.3
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

三〇―三九歳 二・五 一・〇 二七・九七五 五・五
 三五―三九歳 三〇 一・〇 五・六六 二・八六七 二・七
 四〇―四九歳 三三 一・一 四・九 〇・四 二二・九六六 二・五
 五〇―五九歳 一 〇・〇 八・五 〇・一 五・七三三 一・一
 六〇歳以上 一 〇・〇 三三 〇・〇 一・二五五 〇・三
 此の比例を既往十箇年間に就て觀ると内地人は昭和元年に於て二〇―二四歳の四七・八%、一五―一九歳の二六・六%、二五―二九歳の一五・三%の順位で以後各年共大體同順位を續けてゐるが、二〇―二四歳は漸増し一五―一九歳は漸減してゐる。朝鮮人は昭和元年に於て一五―一九歳の五九・七%、二〇―二四歳の二四・一%、一五歳未満の六・七

内地人

昭和元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.6	2.8	1	0.1	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.4
15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1
24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1	24.1
25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1
30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1	30.1
35.1	35.1	35.1	35.1	35.1	35.1	35.1	35.1	35.1	35.1
40.1	40.1	40.1	40.1	40.1	40.1	40.1	40.1	40.1	40.1
45.1	45.1	45.1	45.1	45.1	45.1	45.1	45.1	45.1	45.1
50.1	50.1	50.1	50.1	50.1	50.1	50.1	50.1	50.1	50.1
55.1	55.1	55.1	55.1	55.1	55.1	55.1	55.1	55.1	55.1
60.1	60.1	60.1	60.1	60.1	60.1	60.1	60.1	60.1	60.1
65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1	65.1
70.1	70.1	70.1	70.1	70.1	70.1	70.1	70.1	70.1	70.1
75.1	75.1	75.1	75.1	75.1	75.1	75.1	75.1	75.1	75.1
80.1	80.1	80.1	80.1	80.1	80.1	80.1	80.1	80.1	80.1
85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1	85.1
90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1
95.1	95.1	95.1	95.1	95.1	95.1	95.1	95.1	95.1	95.1
100.1	100.1	100.1	100.1	100.1	100.1	100.1	100.1	100.1	100.1

%の順位で以後大體同順位を保ちつゝ、一五―一九歳は昭和五年迄漸減したが、夫れよりは年々著しく増加し、二〇―二四歳は昭和五年迄は増加したが以後著しく減少し、十五歳未満に著しき變動無き最近漸次増加してゐる。即ち妻は依然として或は益々早婚の傾向がある。之等を内地に於ける状況と比較して觀ると内地に於ては二〇―二四歳及二五―二九歳が漸増し、一五―一九歳が漸減して漸次晩婚へ移動しつゝあるに對し朝鮮に於ては内地人は二〇―二四歳に密集せんとし、朝鮮人は夫れより一階級低く、一五―一九歳に集中せんとする傾向がある。

朝鮮人										内地									
年	別	總數	未一歲	一五歲	一五歲	二四歲	二五歲	三九歲	三九歲	四九歲	五九歲	六〇歲以上	年	別	總數	未一歲	一五歲	一五歲	二四歲
昭和元年	年	100.0	6.7	19.7	20.1	25.8	22.2	39.9	40.5	59.1	60.0		昭和元年	年	100.0	6.7	19.7	20.1	25.8
同二年	年	100.0	6.7	19.7	20.1	25.8	22.2	39.9	40.5	59.1	60.0		同二年	年	100.0	6.7	19.7	20.1	25.8
同三年	年	100.0	6.4	19.6	20.5	26.3	22.4	39.9	40.5	59.1	60.0		同三年	年	100.0	6.4	19.6	20.5	26.3
同四年	年	100.0	6.2	19.1	20.2	26.6	22.5	39.9	40.5	59.1	60.0		同四年	年	100.0	6.2	19.1	20.2	26.6
同五年	年	100.0	5.4	19.7	20.8	26.9	22.6	39.9	40.5	59.1	60.0		同五年	年	100.0	5.4	19.7	20.8	26.9
同六年	年	100.0	4.9	19.8	20.8	26.5	22.5	39.9	40.5	59.1	60.0		同六年	年	100.0	4.9	19.8	20.8	26.5
同七年	年	100.0	4.8	19.0	20.7	26.7	22.4	39.9	40.5	59.1	60.0		同七年	年	100.0	4.8	19.0	20.7	26.7
同八年	年	100.0	4.9	18.4	20.8	26.6	22.5	39.9	40.5	59.1	60.0		同八年	年	100.0	4.9	18.4	20.8	26.6
同九年	年	100.0	4.8	17.7	20.3	26.1	22.1	39.9	40.5	59.1	60.0		同九年	年	100.0	4.8	17.7	20.3	26.1
同十年	年	100.0	4.8	17.3	20.0	26.0	22.0	39.9	40.5	59.1	60.0		同十年	年	100.0	4.8	17.3	20.0	26.0
大正十四年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		大正十四年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
昭和元年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		昭和元年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同二年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同二年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同三年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同三年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同四年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同四年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同五年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同五年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同六年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同六年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同七年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同七年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同八年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同八年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同九年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同九年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4
同十年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4	22.7	39.9	40.5	59.1	60.0		同十年	年	100.0	0.0	17.7	20.7	26.4

內地人

妻の年齢		夫の年齢		妻の年齢		夫の年齢	
總數	未滿	總數	未滿	總數	未滿	總數	未滿
一五歲	一	一五歲	一	一五歲	一	一五歲	一
一五—一九歲	一	一五—一九歲	一	一五—一九歲	一	一五—一九歲	一
二〇—二四歲	一	二〇—二四歲	一	二〇—二四歲	一	二〇—二四歲	一
二五—二九歲	一	二五—二九歲	一	二五—二九歲	一	二五—二九歲	一
三〇—三四歲	一	三〇—三四歲	一	三〇—三四歲	一	三〇—三四歲	一
三五—三九歲	一	三五—三九歲	一	三五—三九歲	一	三五—三九歲	一
四〇—四九歲	一	四〇—四九歲	一	四〇—四九歲	一	四〇—四九歲	一
五〇—五九歲	一	五〇—五九歲	一	五〇—五九歲	一	五〇—五九歲	一
六〇歲以上	一	六〇歲以上	一	六〇歲以上	一	六〇歲以上	一

三〇—三四歳	一、七三三	二	一七	二	二五	三七一	二七六	五〇〇	八三	八
三五—三九歳	五六六	五	二五	二	四五	四〇	一五三	二〇六	七九	一五
四〇—四九歳	四四九	一	三	二	二〇	一七	四二	一七九	一五一	四三
五〇—五九歳	八五	一	一	一	一	一	四	一二	四七	三三
六〇歳以上	三	一	一	一	一	一	一	三	三	二八

四 法定婚姻年齢未満の婚姻 昭和十年に於ける朝鮮人婚姻當事

者の中法定婚姻年齢に達しない者、即ち夫の一七歳未満及妻の一五歳未満の者は夫一四、〇四一人、妻一〇、七二人、計二四、七五三人で婚姻當事者總數の一割に當つてゐる。之を前年に比較すると實數に於て一、〇八三人割合に於て一分の減少である。尙既往十年間に就て觀ると、昭和元年の七分より同六年迄は年々減少したが、昭和七年は遽かに増加して一割二分となり、其後は漸次減少してゐる。而して各年共夫は妻より稍々高率である。

年 別	總 數		夫		妻	
	實 數	婚姻者 百に付	實 數	婚姻者 百に付	實 數	婚姻者 百に付
昭和元年	二五、九四九	七・三	一三、七五一	七・六	二一、一九七	六・七
同 二 年	二四、六七五	七・一	一三、〇一八	七・五	一一、六五九	六・七
同 三 年	二七、〇〇四	七・〇	一四、七七一	七・七	一二、二四二	六・四
同 四 年	二五、四七八	六・六	一三、五六七	七・一	一二、〇一一	六・三
同 五 年	二五、七四二	六・〇	一三、〇九二	六・六	一二、六五三	五・四
同 六 年	二二、四〇三	五・九	一一、四七九	六・八	一一、九二四	四・八
同 七 年	三一、〇四五	一二・一	一八、四七二	一二・四	一二、五七五	九・八
同 八 年	二九、七五一	一二・〇	一七、四四一	一二・〇	一二、三一〇	九・九

次に昭和十年に於ける法定年齢未満の者の總數に對する割合を道別に觀ると、忠北の一割九分を最高とし、平南の一割七分及平北の一割六分之に亞ぎ、其他黃海及江原も全鮮平均以上を示してゐる。之に反して低いのは慶南の四分を首め全南の五分及全北の七分で其他慶北・京畿・咸南・咸北・忠南は何れも平均以下である。

道 別	總 數		夫		妻	
	實 數	婚姻者 百に付	實 數	婚姻者 百に付	實 數	婚姻者 百に付
全 鮮	二四、七五三	一〇・三	一三、〇四一	二・六	一一、七一一	八・八
京 畿 道	二、〇三三	八・七	九五一	七・七	一一、一六三	九・六
忠 清 北 道	一、九六六	一九・〇	一、〇八三	二二・三	八五五	二二・七
忠 清 南 道	一、三三四	一〇・〇	六七五	一〇・三	六四九	九・八
全 羅 北 道	一、一五八	六・七	五五四	六・四	六〇四	七・〇
全 羅 南 道	九四六	五・一	五五九	五・八	四〇七	四・四
慶 尙 北 道	二、一八	八・三	一、五三一	一〇・四	七三七	六・六
慶 尙 南 道	九二〇	四・五	四九九	四・六	四二一	三・八
黃 海 道	二、九四一	一二・〇	一、六五五	一三・四	一、二八六	一〇・五

平安南道	二、七二七	一、六〇六	一、九〇四	一、二二二	一、三三三	同 三年	八、八六一	一、二九	八、二三八	〇・四二
平安北道	三、三三三	一、六〇四	一、九一八	一、四二二	一、三九九	同 四年	八、八八四	一、五八	八、〇〇一	〇・四一
江原道	二、六九九	一、三〇一	一、五五五	一、一五五	一、一〇一	同 五年	九、〇七七	一、七八	八、八八四	〇・四三
咸鏡南道	一、八五五	九・二	一、三六八	一、二七	九・六	同 六年	八、〇九三	一、五五	七、八九六	〇・四〇
咸鏡北道	七、七六	九・八	四、五〇	一、一四	五・六	同 七年	六、七二三	一、六三	六、五八八	〇・三九
						同 八年	五、八七三	一、二五	五、七五七	〇・三八
						同 九年	五、一七七	八五	五、〇五〇	〇・三三
						同 十年	五、三三三	九六	五、三三六	〇・三二

第二 離 婚

一、總數 朝鮮に於て昭和十年に行はれた離婚は内地人九六件、朝鮮人五、三三件、外國人一件、計五、三三三件で、年平均一五件に當り人口千人に付〇・二四の割合である。之を前年に比較すると實數に於ては一八六件増加したが、割合に於ては増減ない、尙婚姻千人に付四三・二で前年に比し〇・八を増加してゐる。

最近十年間に於ける人口千人に對する離婚の割合を觀ると年により多少の高低はあるが漸次減少してゐる。

年 別	總數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千人に付
昭和元年	七、一〇五	一、二五	六、八八	一	〇・六
同 二年	七、一三	一、三	六、九二	一	〇・五七

・〇八で慶北の〇・一八之に亞いてゐる。各道の離婚率を前年に比較すると増加したもの七箇道、減少したもの五箇道、變動ないもの一箇道で増加の最も著しいのは忠北の〇・〇六、減少の最も著しいのは平南で〇・〇五である。

年 別	總數	内地人	朝鮮人	外國人	昭和十年	昭和九年	比較増減の率
全 鮮	五、三三三	九六	五、三三六	一	〇・三三	〇・三三	〇・〇〇
京 畿 道	五、二五	一四	五、〇一	一	〇・三三	〇・三三	〇・〇〇
忠 清 北 道	三、〇九	五	三、〇四	一	〇・三三	〇・三八	〇・〇五

人 口 千 人 に 付

忠清南道	三八	二	五・四	〇・三	〇・一八	〇・〇一
全羅北道	三三	三	五・一	〇・三	〇・二一	〇・〇一
全羅南道	五七	七	五・〇	〇・二	〇・二四	〇・〇三
慶尙北道	四七	七	四・〇	〇・八	〇・一三	〇・〇一
慶尙南道	五三	五	三・二	〇・六	〇・一五	〇・〇一
黃海道	五七	一	五・五	〇・七	〇・一五	〇・〇一
平安南道	四二	一	四・一	〇・元	〇・一四	〇・〇五
平安北道	四九	四	四・六	〇・元	〇・一七	〇・〇一
江原道	四四	一	四・二	〇・元	〇・一五	〇・〇二
咸鏡南道	五八	一	三・七	〇・三	〇・一三	〇・〇一
咸鏡北道	七	一	六・七	〇・八	〇・二	〇・〇四

三年齡別 昭和十年に於ける離婚の年齡階級別百分比例を先づ夫に就て觀ると内地人は二五―二九歳のものが最も多く、三八・五%を占め、三〇―三四歳の二〇・八%及二〇―二四歳の一八・七%之に亞ぎ、朝鮮人は二〇―二四歳の二七・九%最も多く、二五―二九歳の二五・一%及三〇―三四歳の一六・一%之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して觀ると内地人共婚姻の多い歳は離婚も亦多くなつてゐる。

内地人 朝鮮人

線 數	實 數	百分比	實 數	百分比
一七歳未満	一	一〇・〇	二六	二・四
一七―一九歳	一	一	五二	八・六
二〇―二四歳	一八	一八・七	一四五	三七・九

二五―二九歳 三五 三八・五 一・二二 五五・二
三〇―三四歳 二〇 二〇 八・五九 一・六一
三五―三九歳 九 九・四 五・二五 九・八
四〇―四九歳 八 八・三 三・五五 六・八
五〇―五九歳 四 四・三 一・四〇 三・七
六〇歳以上 二 二・一 三・二 〇・六

次に妻に就て觀ると内地人は二五―二九歳最も多く總數の三四・四%を占め、二〇―二四歳の三〇・二%及三〇―三四歳の一六・六%之に亞ぎ、朝鮮人は二〇―二四歳の三〇・五%最も多く、一五―一九歳の二五・九%及二五―二九歳の二〇・三%之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して觀ると、内地人共に離婚の多い年齢は婚姻の多い年齢より一階級上位になつてゐる。

總數	實數	百分比	朝鮮	
			實數	百分比
一五歲未満	九六	100.0	五、三六	100.0
一五—一九歲	四	—	一、八二	五、五
二〇—二四歲	元	—	一、五三	五、九
二五—二九歲	五	—	一、五九	五、五
三〇—三四歲	一六	—	一、〇六	三〇、三
三五—三九歲	五	—	五、六	二〇、一
			三、四	四、五

四〇—四九歲 四 四、三
 五〇—五九歲 三 五、一
 六〇歲以上 二 二〇、一
 更に夫妻相互の年齢を組合せてみると、内地人は夫の二五—二九歳と妻の二〇—二四歳及夫妻共に二五—二九歳のもの最も多く、何れも總數の一割六分を占め、夫妻共に二〇—二四歳の九分之二に過ぎ、朝鮮人は夫妻共に二〇—二四歳の一割六分最も多く、夫の二〇—二四歳と妻の一五—一九歳の一割一分及夫の二五—二九歳と妻の二〇—二四歳の一割六分之二に近いでゐる。

夫の年齢	妻の年齢	總數	内地人	
			實數	百分比
一五歲未満	一五歲未満	九六	—	—
一五—一九歲	一五—一九歲	四	—	—
二〇—二四歲	二〇—二四歲	元	—	—
二五—二九歲	二五—二九歲	五	—	—
三〇—三四歲	三〇—三四歲	一六	—	—
三五—三九歲	三五—三九歲	五	—	—
四〇—四九歲	四〇—四九歲	—	—	—
五〇—五九歲	五〇—五九歲	—	—	—
六〇歲以上	六〇歲以上	—	—	—

朝鮮人

妻の年齢 夫の年齢 總數 一七歳 一九歳 二四歳 二五歳 二九歳 三〇歳 三四歳 三九歳 四〇歳 四九歳 五〇歳 五九歳 六〇歳以上

妻の年齢	夫の年齢	總數	一七歳	一九歳	二四歳	二五歳	二九歳	三〇歳	三四歳	三九歳	四〇歳	四九歳	五〇歳	五九歳	六〇歳以上
一五歳未満	一五歳未満	一、二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一五歳—一九歳	一五歳—一九歳	一、五五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇歳—二四歳	二〇歳—二四歳	一、九六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二五歳—二九歳	二五歳—二九歳	一、〇六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三〇歳—三四歳	三〇歳—三四歳	五、六六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三五歳—三九歳	三五歳—三九歳	三、四四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四〇歳—四四歳	四〇歳—四四歳	一、四八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四五歳—四九歳	四五歳—四九歳	一、四八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五〇歳—五九歳	五〇歳—五九歳	五、五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六〇歳以上	六〇歳以上	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第三 配偶數

一 總數 昭和十年末に於ける配偶數は内地人二二三、一八八組、朝鮮人四、六六八、三三一組、外國人七、六一一組、計四、七九八、七三〇組で人口千人に付有配偶者は四三八人に當る、之を前年末に比

較すると實數に於ては一〇五、八九五組を増加したが、人口千人に對する有配偶者の割合は六人を減少した。

有配偶者の割合を最近十箇年間に就て觀ると概して漸減の傾向があ

る

年 別

總 數

内地人

朝鮮人

外國人

人口千人に
付有配偶者

昭和元年
同 二年
同 三年

四、七六二、三三〇
四、七七八、四四五

九、五五、四八八
九、七三、二八九

四、六六八、三三一
四、六六八、三三一

三、八八九
三、三三九

四、七九八、七三〇
四、七九八、七三〇

四、六六八、三三一
四、六六八、三三一

三、八八九
三、三三九

四、七九八、七三〇
四、七九八、七三〇

第四 内地人と朝鮮人との配偶數

一 總數 朝鮮に於ける昭和十年末現在の内地人と朝鮮人との配偶數は一、〇三八組で此の中一九組は同年中に婚姻したものである。配偶の種類別は「内地人で朝鮮婦人を妻とするもの」六〇一組、「朝鮮人で内地婦人を妻とするもの」三九一組、「朝鮮人で内地人の家に入婿したもの」四〇組、「内地人で朝鮮人の家に入婿したもの」六組である。

最近十年間の趨勢を觀ると昭和元年末以來漸次増加し、同十年末は元年末の二倍餘になつてゐる。

年 別	總數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	内地人で内地人の家に入婿したもの	朝鮮人で朝鮮人の家に入婿したもの
昭和元年	四九九	三三三	二二九	一	一
同 二年	四九九	二四五	二二六	一	二
同 三年	五七〇	二六六	二三八	二	二
同 四年	六二五	三〇〇	二七〇	七	一
同 五年	六六六	三六五	二五〇	四	五
同 六年	八五三	四三八	二六七	四	五
同 七年	八五四	五三三	二六四	六	九
同 八年	一、〇三二	五九六	二七七	四	一五
同 九年	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七

二 道別 昭和十年末に於ける内地人と朝鮮人との配偶數を道別に觀ると京畿の一八三組最も多く、慶南の一四五組、全南及慶北の八組之に次ぎ、忠北の一八組が最も少い。

道 別	總數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	内地人で内地人の家に入婿したもの	朝鮮人で朝鮮人の家に入婿したもの
全 鮮	一、〇三八	六〇一	三九一	四〇	六
京 畿 道	一、〇三二	四〇一	二八五	四	一五
忠 清 北 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
忠 清 南 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
全 羅 北 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
全 羅 南 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
慶 尙 北 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
慶 尙 南 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
黃 海 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
平 安 南 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七
平 安 北 道	一、〇七六	六〇三	二八五	四	一七

江原道	一	五	三	一	一
咸鏡南道	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
咸鏡北道	五	四	三	一	一

備考 括弧内は昭和十年に婚姻せるものである。

三 職業別 昭和十年末に於ける内地人と朝鮮人との配偶数を職業別に別ると、商業及交通業の三三六組最も多く、公務及自由業の二五四組が之に並んでゐる。

職業別	總數	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
總數	一、〇六六	六二二	四四四	一、〇六六	六二二
農林及牧畜業	一五五	(一)	(一)	一五五	(一)
漁業及製鹽業	一六	九	六	一六	九
工業	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
商業及交通業	三六六	二四六	一六六	三六六	二四六
公務及自由業	(三)	(一)	(一)	(三)	(一)
其の他の業者	(四)	(一)	(一)	(四)	(一)

無職及職業を申告せざる者 (一) 一七 (三) 三二

備考 括弧内は昭和十年に婚姻せるものである。

出 産

第一 出産總數

朝鮮に於ける昭和十年の出産即ち出生と死産との合計は六四五、四三七人であつて、其の中出生は六四〇、五六八人(出産總數の九九・二%)、死産は四、八六九人(〇・八%)を占めてゐる。之を既往十年間に付て觀ると、甚だ減少ではあるが、出生の割合は漸次減少し、死産の割合は増加の傾向を示してゐる。

年次	出 産 實 數		出 産 百 に 付	
	總 數	出 生	出 生	死 産
昭和元年	六八、〇三	六六、一七六	三、八二六	九四・四
昭和二年	七〇、八五五	六八、一八九	三、六六四	九九・五
昭和三年	七三、二四	七一、五九四	三、六三〇	九九・五
昭和四年	七五、七六	七三、〇一七	三、九七	九九・五
昭和五年	七六、七〇	七三、二二〇	四、四三〇	九九・四
昭和六年	七三、三二〇	七二、八八二	四、三二八	九九・四
昭和七年	六三、九二四	六二、一七	四、六二七	九九・三
昭和八年	六八、五九	六三、四七	四、九五二	九九・二

昭和九年	六四四、三四一	六三九、四七六	四、七六五	九、二	〇・八
昭和十年	六四五、四三七	六四〇、五六八	四、八六八	九、二	〇・八

第二出生

一 總數 朝鮮に於ける昭和十年の出生は六四〇、五六八人(内地人は一四、一三九人、朝鮮人は六二五、九七九人、外國人は四五〇人)で、一日平均一、七五五人に當り、出生率は人口千に付二九・二六である。之を前年に比較すると實數に於ては一、〇九二人を増加したが、率に於ては〇・五四を減少した。尙内地に於ける出生率は三一・六三であるから、朝鮮は之に比し稍々低率である。出生率を既往十箇年に付て觀ると最高は昭和五年の三八・二二、最低は昭和八年の二九・〇二で平均三三・八九である。

	實數		人口千に付	
	總數	内地人	朝鮮人	外國人
昭和元年	六六六、一七六	一〇、五三二	六六五、六四四	五二
昭和二年	六九八、一八九	一〇、九五〇	六七七、二四三	七九
昭和三年	七三二、五九四	一〇、八七七	七二〇、五五六	一三九
昭和四年	七三〇、一七九	一〇、八五五	七二九、一三三	一八九
昭和五年	七七一、三九〇	一一、四三二	七六〇、六三三	二五六
昭和六年	七二七、八八二	一一、八五五	七一五、九〇六	二五二
昭和七年	六八八、二七七	一二、七五二	六六〇、五二五	二五〇
昭和八年	六〇五、〇〇七	一三、〇九一	五九〇、〇三三	二八一
昭和九年	六二九、四七六	一三、四九八	六二五、五七九	二九九
昭和十年	六四四、三四一	一四、一三九	六三九、四七六	二九九

二 道別 昭和十年の出生を道別に觀ると最も多いのは京畿の七三、九〇二人で、慶尚の六九、八二六人及慶北の六四、七三三人之に亞ぎ、最も少いのは咸北の二二、六五〇人で、忠北の二四、九五〇人が之に亞いである。尙人口千に對する割合を觀ると最高は平北の三四四六で、黄海の三三・三三及江原の三三・九二之に亞ぎ、最低は全南の二四・二五で、之に亞いで全北の二五・五〇及慶北の二六・二二等比較的低い方である。各道の出生率を前年に比較すると京畿の一・五〇及慶北の〇・〇五増加したのを除き他の各道何れも減少して居るが其の最も著しいのは咸南の二・七の減少である。

	實數		人口千に付	
	昭和十年	昭和九年	比較増減	
全 鮮	六四〇、五六八	六三九、四七六	二九・二六	二九・八〇
京 畿 道	七三、九〇二	七三、九〇二	二七・三	二七・三
忠 清 北 道	六九、八二六	六九、八二六	二七・三	二七・三
忠 清 南 道	六九、八二六	六九、八二六	二七・三	二七・三
全 羅 北 道	六四、七三三	六四、七三三	二六・二	二六・二
全 羅 南 道	六四、七三三	六四、七三三	二六・二	二六・二
慶 尙 北 道	六四、七三三	六四、七三三	二六・二	二六・二
慶 尙 南 道	六四、七三三	六四、七三三	二六・二	二六・二
黄 海 道	三三・三三	三三・三三	二五・五	二五・五
平 安 南 道	二二・六五	二二・六五	二四・二五	二四・二五
平 安 北 道	二二・六五	二二・六五	二四・二五	二四・二五
江 原 道	二二・六五	二二・六五	二四・二五	二四・二五
咸 鏡 道	二二・六五	二二・六五	二四・二五	二四・二五

咸鏡北道

三、五五

三八・五九

三〇・七五

△ 一・九八

三 體性別

昭和十年の出生六四〇、五六八人の中男は三四〇、一八七人、女は三〇〇、三八一人で女百に付男一一三・三である。之を前年に比較すると〇・三の増加で、尙内地に於ける一〇五・一に比較すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い、此割合を既往十年間に就て觀ると年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

實 數

女百に付

男

女

朝鮮

内地

昭和元年	三六一・二三	三二五・〇五	二四・六	一〇五・八
昭和二年	三七一・六七	三三六・九四	一一・八	一〇五・七
昭和三年	三八五・三五	三三八・七九	一一・三	一〇四・四
昭和四年	三八六・七〇	三四五・四七	一二・六	一〇四・〇
昭和五年	四〇六・四八	三六八・八三	一一・一	一〇五・三
昭和六年	三九七・六一	三三八・〇二	一二・四	一〇四・三
昭和七年	三九七・七三	三八八・四五	一二・五	一〇五・〇
昭和八年	三三三・〇九	三六一・三六	一二・五	一〇五・三
昭和九年	三三三・八九	三九七・五七	一二・〇	一〇四・三
昭和十年	三四〇・八七	三〇〇・六一	一二・五	一〇五・一

四 月 別 昭和十年に於ける出生を月別に觀ると、各月平均一日の出生は十二月に最も多く十一月、二月、三月順次に亞ぎ、其他九月、十月も比較的多く、何れも一年平均以上を示し、之に反し最も少いのは六月で一月、五月も比較的少い。

實 數

一年平均一日の出生百に付各月平均一日の出生

一月	四六・六五	八五・六八
二月	五三・〇三	一七・八八
三月	五七・四五	一五・六一
四月	五三・六五	九八・九三
五月	四八・一四	八八・四四
六月	四三・九七	八三・五三
七月	四九・〇八	九〇・三三
八月	五三・三四	九七・八七
九月	五四・七二	一〇三・九五
十月	五六・四七	一〇三・七九
十一月	六二・三九	一二六・六一
十二月	六三・八七	一二七・四一

第三 死 産

一 總 數 朝鮮に於ける昭和十年の死産は四、八六九人(内、内地人は九三一人、朝鮮人は三、九三二人、外國人一人)で一日平均一三人に當り、死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於ては一〇四人を増加したが、率に於ては〇・〇一の減少を示した。尙内地に於ける死産率一・六六昭和九年に比較すると、朝鮮は著しく低く、其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和八年の〇・二四、最低は昭和二、三、四各年の〇・一九で平均〇・二一である。

實 數 人口千に付

總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
昭和元年	三、八二六	六六六	三、一六〇	〇・二〇	二、〇五五
昭和二年	三、六六四	六六三	二、九〇一	〇・一九	一九一
昭和三	三、六二〇	六六七	二、九五三	〇・一九	一九三
昭和四年	三、五九七	七二六	二、八七一	〇・一九	一八六
昭和五年	四、四三〇	八〇〇	三、六三〇	〇・二二	一八三
昭和六年	四、三三八	八一九	三、四九〇	〇・二二	一七八
昭和七年	四、六三七	八八四	三、七五三	〇・二二	一八〇
昭和八年	四、九五三	九〇六	四、〇四七	〇・二四	一七〇
昭和九年	四、七六五	八三〇	三、九三五	〇・二二	一六六
昭和十年	四、八六九	九五一	三、九一八	〇・二三	一

二 道 別 昭和十年の死産を道別に觀ると最も多いのは京畿の

一、二六三人で、平北の七三九人及平南の六九二人に次ぎ、最も少いのは忠北の九四人で、全南の一〇〇人及忠南の一〇五人が之に並いでゐる。尙人口千人に對する割合を觀ると、最高は京畿の〇・五四で、黄海の〇・四九及平北の〇・四六に次ぎ、最低は全南の〇・四で、之に並いで慶北及忠南の〇・〇七、忠北及全北の〇・一一等比較的低い方である。各道の死産率を前年に比較すると増加したものは五道、減少したものは六道、變動のないものは二道で、變動の重なるものは京畿に於ける〇・〇六の増加及平南に於ける〇・〇七の減少である。

實 數

人口千に付

昭和十年 昭和九年 比較増減

全 鮮 〇・三三 〇・三三 〇・〇一

京畿道 一三 〇・四四 〇・四八 〇・〇六

忠清北道 九 〇・一〇 〇・〇九 〇・〇一

忠清南道 一五 〇・〇七 〇・〇九 〇・〇二

全羅北道 二五八 〇・一〇 〇・〇九 〇・〇一

全羅南道 一〇〇 〇・〇四 〇・〇七 〇・〇一

慶尙北道 一八二 〇・〇二 〇・〇八 〇・〇一

慶尙南道 四三三 〇・〇二 〇・〇〇 〇・〇一

黄海道 二五五 〇・〇六 〇・〇五 〇・〇一

平安南道 六九 〇・〇四 〇・〇六 〇・〇一

平安北道 九九 〇・〇四 〇・〇七 〇・〇一

江原道 二六五 〇・〇七 〇・〇九 〇・〇一

咸鏡南道 五五七 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇一

咸鏡北道 三九 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇一

三 性別 昭和十年の死産四、八六九人の中男は二、七三四人、

女は二、一三五人で、女百に付男一二・八・一である。尙内地に於ける一二・〇・二（昭和九年）に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙之を出生の安否に付男一一・三・三に比較すると男超過の割合は遙かに高く、既生十箇年を就て觀ると又同様の現象を示してゐる。

實 數

女百に付男

男 女 死産 出生

昭和元年 二、一三三 一、六四四 二七三 一、四六六

昭和二年 二、〇五七 一、六〇七 二二〇 一、二三八

昭和三年 一、九七九 一、五三三 二五〇 一、二六六

昭和四年 一、九七九 一、〇〇九 二四八 一、二六六

死 亡

昭 和 五 年 二、四八五 一、九四五 一七・八 一 一

昭 和 六 年 二、四六五 一、八六五 一五・一 一 二

昭 和 七 年 二、五五七 二、〇八〇 一五・九 一 三

昭 和 八 年 二、八〇三 二、一五〇 一五・三 一 四

昭 和 九 年 二、六四七 二、一八 一五・〇 一 五

昭 和 十 年 二、七三三 二、一五 一六・二 一 六

四 月 別 昭 和 十 年 に 於 け る 死 産 を 月 別 に 観 る と、 各 月 平 均 一 日 の 死 産 は 二 月 に 最 も 多 く、 九 月、 十 二 月、 十 月、 一 月 順 次 に 之 に 次 ぎ、 何 れ も 一 年 平 均 以 上 を 示 し て ゐ る、 之 に 反 し 最 も 少 い の 四 月 で 五 月 が 之 に 近 い で ゐ る。

一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
四三三	四〇五	四〇一	三九七	三八九	三九六	四〇九	四一一	四二八	四三三	四三七	四四四
一〇二・〇	一〇八・四	九七・〇	八六・七	九四・〇	九八・五	九八・四	九八・四	一〇六・九	一〇四・五	九八・一	一〇四・五

一 總 數 朝鮮に於ける昭和十年の死亡は四三〇・六九八人、内地人は八、八八四人、朝鮮人は四二一、四四四人、外國人は三、七〇人、一日平均一、一八〇人に當り、死亡率は人口千に付一九・六七である。之を前年に比較すると實數に於て二三、四三五人、率に於て〇・三九を増加した。内地に於ける死亡率は一六・七八であるから、朝鮮は之に比し稍々高率である。死亡率を既往十箇年に付て觀ると最高は昭和四年の二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で平均二〇・七八である。

昭和元年	昭和二	昭和三	昭和四	昭和五	昭和六	昭和七	昭和八	昭和九	昭和十年	人口千に付			
										總數	内地人	朝鮮人	外國人
二八七、七四三	四二一、〇二五	四三三、七三六	四二一、〇二五	三八一、八七七	四一〇、三八八	四五七、五八八	四〇一、五三三	四〇七、二五五	四三〇、六九八	二八	二〇・五〇	二・四八	一九・一八
七、一六四	七、八八三	八、三六六	八、三三七	七、六八一	八、四〇六	八、七五三	八、三五九	八、四四八	八、八八四	三八	三二・八六	三・五六	一九・八一
三八〇、五八一	四〇一、八四〇	四四八、六四三	四五八、八五三	五七三、七三三	四〇一、五三三	四四八、五三三	三九二、六六八	三九八、四八二	四二一、四四四	二八	二〇・五〇	二・四八	一九・一八
三二八	三九五	四七〇	五五九	三八・八九	四七四	四七四	二九五	三三三	三三七	二八	二〇・五〇	二・四八	一九・一八
一九・一八	一九・八一	一九・九二	二〇・四八	一九・八一	二〇・五〇	二〇・五〇	一九・九二	一九・八一	一九・六七	二八	二〇・五〇	二・四八	一九・一八

二 道別 昭和十年に於ける死亡を道別に觀ると、最も多いのは京畿の四九・三八八人で、慶北の四八、一六八人之に亞ぎ、最も少いは咸北の一八、四六七人で、忠北の一九・三八九人之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を觀ると、最高は平北の二六・九〇で、江原の二三・八九及咸北の二三・三一之に亞ぎ、其の他平南・忠北・京畿及咸南も相亞いで死亡率高く何れも全鮮平均以上である。最低は全南の一三・五六で、之に亞いで全北の一三・八〇、忠南の一七・五三等比較的低い方である。各道の死亡率を前年に比較すると増加したもの七箇道、減少したもの六箇道で、増加の最も著しいのは平北の四・四一、減少の最も著しいのは黃海の二・二五である。

	人口千に付		比較増減 (△減)
	昭和十年	昭和九年	
全 鮮	四九・三八八	一九・六七	一九・二八
京 畿 道	四九・三八八	二一・九	二八・〇三
忠 清 北 道	一九・三八九	二一・二	二八・五三
忠 清 南 道	二五・七五六	一七・五五	一五・九八
全 羅 北 道	二二・一九〇	一五・八〇	一五・〇一
全 羅 南 道	一五・六七四	一五・六六	二二・九
慶 尙 北 道	四八・一六八	一九・五一	一八・六七
慶 尙 南 道	四一・四九	一八・八七	一九・三五
黃 海 道	五〇・〇七八	一八・五七	二〇・八二
平安南道	三二・三二	二二・六	二〇・七三

江 原 道 五六・五四五 二五・八九 二四・〇四 △〇・一五
咸 鏡 南 道 三三・九六四 二〇・五六 二三・六六 △二・一〇
咸 鏡 北 道 一八・四六七 二五・三一 二二・二四 二・〇七
三 體 性 別 昭和十年に於ける死亡者四三〇、六九八人中、男は二三一、七五五人、女は一九八、九四三人で女百に付男は一六・五に當り、前年に比し〇・二を増加した。尙内地に於ける此の割合は一〇・八であるから、朝鮮では男の死亡者が女に比し著しく多いことが窺はれる。而して男女各性人口千に付男の死亡者は二〇・八、女の死亡者は一八・五であつて、死亡率に於ても男は女より高い。

	實 數				各性人口 千に付
	男	女	朝鮮 内地	男 女	
昭和元年	二〇六、〇九〇	一八一、六三三	一一五・五	一〇六・〇	二・七 一九・五
昭和二年	二二八、七二五	一九二、三九〇	一二五・七	一〇五・八	三・三 二〇・六
昭和三年	二五〇、二九	二〇五、一五六	一二三・三	一〇七・〇	三・五 二一・七
昭和四年	二四四、八〇八	二二六、九三二	一二三・九	一〇五・〇	三・四 二二・八
昭和五年	二〇五、一六四	一七六、七二五	一一六・一	一〇六・五	一九・九 一七・八
昭和六年	二二九、二五〇	一九一、一八八	一二四・七	一〇七・二	二二・二 一九・三
昭和七年	二四三、八七二	二二五、六四六	一二四・一	一〇六・九	二五・五 二二・一
昭和八年	二五九、〇九〇	一八六、三三三	一二五・五	一〇七・五	二〇・三 一八・三
昭和九年	二九一、〇六二	一八八、二〇一	一二六・四	一〇七・五	二〇・四 一八・一
昭和十年	三二一、七五五	一九八、九四三	一二六・五	一〇八・一	二〇・八 一八・五

四 月 別 昭和十年の死亡を月別に觀ると、各月平均一日の死亡は三月に最も多く四月、二月、五月、一月、六月順次之に亞ぎ、何れも一

年平均以上を示し、之に反し最も少いのは十月で十一月、九月、十二月が之に近しいである。即ち死亡は一月より漸次増加し三月に最も多く、四月より減少を續けて十月に最も少く、十一月、十二月は再び増加してゐる。

一 月
二 月
三 月
四 月
五 月
六 月
七 月
八 月
九 月

實 數

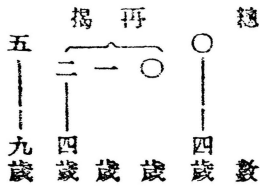
一 月	五七、四七〇
二 月	三七、〇五七
三 月	四四、二三三
四 月	四二、七八四
五 月	四〇、四九二
六 月	三六、〇九五
七 月	三五、二八一
八 月	三六、二六九
九 月	三三、六三二

一年平均一日の
死亡百に付各月
平均一日の死亡

一 月	二〇・三三三
二 月	一二・二六
三 月	二〇・八七
四 月	二〇・八六
五 月	二〇・六九
六 月	一〇・一八三
七 月	九六・四五
八 月	九六・一五
九 月	九二・一八

十 月	二六、六八〇	七三・九四
十一 月	二六、八四〇	七五・八二
十二 月	三四、九三五	九五・五〇

五 年 齡 別 昭和十年の死亡者を年齢階級別に観ると、五歳未満の小兒は死亡總數の四割九厘（内〇歳の者は一割二分二厘）を占めて最も多く五―九歳は急激に減少して六分八厘、一〇―一四歳は更に低下して三分一厘となり、一五―一九歳は各年齢を通じて最も少く二分九厘を示してゐる。二〇―二四歳は稍々増加して三分五厘となるが、二五歳よりは再び減少して、二五―二九歳、三〇―三四歳、三五―三九歳は何れも三分二厘を示してゐる。而して四〇―四九歳は五分六厘を示し、五〇―五九歳は稍々増加して六分三厘、六〇―六九歳は更に増加して八分八厘となるが、七〇歳以上は漸次減少して七〇―七九歳は八分四厘、八〇歳以上は三分八厘となつてゐる。



總 數

總數	四三〇、六九八
再	一七六、三五九
揚	五三、五三八
一 歲	五四、六五二
二 歲	六九、一四九
三 歲	一九、一〇八

實 數

男 女

男	二五二、七五五
女	一七八、九四三
男	九五、五九八
女	三八、八四六
男	二九、九六八
女	三六、七三四
男	一五、四四一
女	一五、六六七

千

分

比

例

總數	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
男	四〇九・四三二	四二・二八	四〇・一〇
女	一三二・九八	二四・四七	二九・〇九
男	一二六・八九	二九・三二	二四・〇七
女	一六〇・五五	一八・五〇	一六・九四
男	六七・五八	六六・六三	六八・七〇

一〇——一四歳	一三、五五五	七、一四四	六、四一一	三〇・八二	三三・三三
一五——一九歳	二二、五二六	六、一三七	六、五七九	二九・〇六	三三・〇六
二〇——二四歳	一四、九六一	七、四四二	七、五三〇	三三・七三	三三・八五
二五——二九歳	一三、八七一	七、〇九三	六、七九	三三・二二	三三・〇八
三〇——三四歳	一三、九七五	七、二九〇	六、六八五	三三・四六	三三・六〇
三五——三九歳	一三、六七九	七、一九四	六、六八五	三三・四七	三三・一〇
四〇——四九歳	一四、一九七	一四、〇七六	一〇、一一一	五六・一八	五〇・八七
五〇——五九歳	二七、二四〇	一六、四六六	一〇、七八三	六二・五五	六四・八七
六〇——六九歳	五七、九四四	二一、〇九	一六、九〇五	八八・一〇	八四・九七
七〇——七九歳	五六、〇八四	一八、五七五	二七、五一一	八三・七八	八八・〇五
八〇歳以上	一六、二四六	七、七七一	八、五七五	五七・七三	四三・一〇
年 齡 不 詳	九八二	五八〇	四三三	二・三八	二・二三

女官に付男

更に昭和十年に於ける男女の死し者を年齢別に比較して観ると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇—五九歳を山とし、一五—一九歳及八〇歳以上を谷とする波狀を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女官に付男一一・八二七で、其れより年齢の長ずるに従ひ男の割合は遞減し、一五—一九歳に於ては男は女より遙かに少く九六・二一を示してゐる。而して二〇歳以上は男の割合漸次増加し、五〇—五九歳は一五二・六四の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上は八九・四六に低下してゐる。

總 數	〇——一四歳	一五——一九歳	二〇——二四歳	二五——二九歳	三〇——三四歳	三五——三九歳	四〇——四九歳	五〇——五九歳	六〇——六九歳	七〇——七九歳	八〇歳以上
再 掲	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
女官に付男	一一・八二七	九六・二一	一五二・六四	一三・八七一	一三・九七五	一四・一九七	二七・二四〇	五七・九四四	五六・〇八四	一六・二四六	九八二

二〇——二四歳
二五——二九歳
三〇——三四歳
三五——三九歳
四〇——四九歳
五〇——五九歳
六〇——六九歳
七〇——七九歳
八〇歳以上
年 齡 不 詳

九・〇・九
二〇・六・三
一〇・〇・五
一四・二・四
一五・〇・八
一五・六・四
一四・四・五
一〇・六・六
八・九・四・八
一三・七・〇

六 原因別 昭和十年に於ける死亡を死因二五分類別に觀ると消化

器病が最も多く總數の一割九分六厘を占め、神経系病の一割七分四厘、呼吸器病の一割五分二厘、傳染性病の一割八厘、感冒の七分五厘、老衰の六分一厘之に過ぎ、以上を以て死亡總數の七割六分餘を占めてゐる。

總 數	實 數	千分比例
全身病	四、五〇、六九八	一、〇〇、〇〇〇
精神病	一、五、三〇六	五〇・九
精神系病	六、八七五	一五・九六
神経系病	七、九五〇	一九・九〇
循環器病	二〇、三六九	五二・三三

眼及 附屬 器病	五・一	一・一・九
耳 病	四・四・五	一・〇・三
鼻 咽 病	五、六六九	一三・一六
呼 吸 器 病	六四、八七七	一五〇・六三
泌 尿 生 殖 器 病	一〇、五二六	二四・四二
外 傷	三、三六三	七・五八
溺 死 及 經 死	四、三三三	一〇・〇七
時 形 及 幼 年	三、一六九	七・三六
老 衰	二六、三三八	六〇・九三
妊 娠 及 産	三、一八一	七・三九
中 毒	四、五八六	七・九八
新 生 物	九・五	二・一六
寄 生 蟲 病	四、五八五	一〇・六五
消 化 器 病	八四、四三九	一九六・〇五
齒 牙 病	五〇八	一・一八
運 動 器 病	四、二二八	九・七九
皮 膚 及 其 の 病	七、二二六	一六・四五
脚 氣	一、一三〇	二・六〇
感 冒	三、二〇〇	七・四七六
傳 染 性 病	四六、六二六	一〇八・二三
不 明 診 斷 及 不 詳 の 原 因	七、七二七	一九・九三

人口動態

昭和十一年

出生、出生、死産

(昭和2年～昭和11年)

5.43	16.28
5.61	22.41
5.25	9.90
10.28	33.38
11.37	47.66
9.14	18.29
10.75	33.79
11.59	44.75
9.38	22.59
18.38	54.50
19.10	67.06
17.63	41.17
17.06	54.85
17.14	77.25
16.98	32.29
25.23	78.79
27.09	101.39
23.33	55.58
342.34	1197.58

昭和十一年の出産

文 書 課

第一 出 産 總 數

朝鮮に於ける昭和十一年の出産即ち出生と死産との合計は六三五、四八八人であつて、其の中出生は六三〇、四九〇人(出産總數の九九・二%)、死産は四、九九八人(〇・八%)となつてゐる。之を既往十年間に付て觀ると、甚だ微少ではあるが出生の割合は漸次減少し死産の割合は増加の傾向を示してゐる。

37

年	出 産 實 數			出 産 百 に 付	
	總 數	出 生	死 産	出 生	死 産
昭和二年	七〇、八五三	六九、八八九	三、六四	九九・五	〇・五
同 三 年	七五、二四	七二、五九四	三、六〇	九九・五	〇・五
同 四 年	七三、七六	七〇、一七九	三、五九七	九九・五	〇・五
同 五 年	七六、七〇〇	七三、二七〇	四、四三〇	九九・四	〇・六
同 六 年	七三、二〇	七二、八八二	四、三二	九九・四	〇・六
同 七 年	六三、九四	六二、二七七	四、六六七	九九・三	〇・七
同 八 年	六〇、三五九	六〇、三、四七	四、九二	九九・二	〇・八
同 九 年	六四、二四二	六二、四七六	四、七六六	九九・二	〇・八

同 十 年	六四五、四三七	六四〇、五六八	四、八六九	九九・二	〇・八
同 十一年	六三五、四八八	六三〇、四九〇	四、九九八	九九・二	〇・八

第二 出 生

一、總數 朝鮮に於ける昭和十一年の出生は六三〇、四九〇人（内、内地人は一四、五六四人、朝鮮人は六一五、三八一人、外國人は五四五人）で一日平均一、七二七人に當り、出生率は人口千に付二八・六〇である。之を前年に比較すると實數に於ては一〇、〇七八人を減少し、率に於ても〇・六六を減少した。

尙内地に於ける出生率は三一・六三であるから朝鮮は之に比し稍々低率である。

出生率を既往十箇年に付て觀ると、最高は昭和五年の三八・一二、最低は昭和十一年の二八・六〇で平均三三・二一である。

昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	實 數			人口千に付		
						總 數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
						六九六、一八九	一〇、九五〇	六七、一四三	九七	三六・四八	三三・六一
						七二、五九四	一〇、八九七	七二、〇五八	一三九	三七・六〇	三四・八
						七三〇、一七九	一〇、八五五	七一九、一三五	一八九	三七・七七	三三・〇〇
						七三三、二七〇	一一、四三三	七六〇、六〇二	二二六	三八・二二	三三・三六
						七二七、八八三	一一、八二五	七〇五、九〇六	一五一	三五・四三	三三・七
						六二八、二七七	一三、七五二	六〇四、二七五	二五〇	三〇・〇一	三三・九二

同	八	年	六〇、三、四七	一三、〇九一	五九、〇、五	二八一	二九、〇三	三二、五五
同	九	年	六三九、四七六	一三、四九八	六五、五七九	三九九	二九、八〇	二九、九七
同	十	年	六四〇、五六八	一四、一三九	六五、九七九	四五〇	二九、三六	三二、六三
同	十一年		六三〇、四九〇	一四、五六四	六五、三六一	五四五	二八、六〇	三二、六三

二、道別

昭和十一年の出生を道別に観ると最も多いのは京畿の七〇、八七二人で、慶南の六九、三二五人及慶北の六五、八〇五人之に亞ぎ、最も少いのは咸北の二三、七九一人で、忠北の二四、四四四人が之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を観ると、最高は平北の三四・二七で江原の三一・八〇及黃海の三一・三六之に亞ぎ、最低は全北の二四・三二で、之に亞いで全南の二四・四八及咸南の二六・三〇等比較的低い方である。各道の出生率を前年に比較すると、咸北の〇・六四及慶北の〇・六〇に全南・忠南の増加したのを除き他の各道は何れも減少してゐるが、其の最も著しいのは京畿の二・〇八及黃海の一・九七の減少である。

人口千に付

人口千に付

道	實數	昭和十一年 昭和十年		比較増減	道	實數	昭和十一年 昭和十年		比較増減
		昭和十一年	昭和十年				昭和十一年	昭和十年	
全 鮮	六三〇、四九〇	二八、六〇	二九、二六	△ 〇・六六	慶 尙 南 道	六九、三三五	三三、一一	三二、八六	△ 〇・五五
京 畿 道	七〇、八七二	二九、六三	三二、七一	△ 二・〇八	黃 海 道	五二、三九九	三三、三六	三三、三三	△ 一・九七
忠 清 北 道	二四、四四四	二六、六五	二七、三三	△ 〇・六七	平 安 南 道	四一、六五五	二九、〇二	二九、七五	△ 〇・七三
忠 清 南 道	四〇、二三三	二七、一三	二七、二二	〇・〇一	平 安 北 道	五五、五五二	三四、二七	三四、四六	△ 〇・二九
全 羅 北 道	三七、四七五	二四、三三	二五、五〇	△ 一・一八	江 原 道	四八、六六〇	三三、八〇	三三、九二	△ 一・一二
全 羅 南 道	五九、一九五	二四、四八	二四、二五	〇・二三	咸 鏡 南 道	四二、一四四	二六、三〇	二八、二一	△ 一・八一
慶 尙 北 道	六五、八〇五	二六、八一	二六、二二	〇・六一	咸 鏡 北 道	二三、七九一	二九、二三	二八、五九	△ 〇・六四

三、體性別

昭和十一年の出生六三〇、四九〇人の中、男は三三五、〇三四人、女は二九五、四五六人で女百に付男一一三・四である。之を前年に比較すると〇・一の増加で尙内地に於ける一〇五・二に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。此の割合を既往十年間に就て觀ると年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

	實 數		女百に付男			實 數		女百に付男	
	男	女	朝鮮	内地		男	女	朝鮮	内地
昭和二年	三七一、六七五	三三六、五二四	一二・八	一〇三・七	昭和七年	三九、六九二	二八八、四五五	一二・三	一〇五・〇
同 三年	三八三、三五	三三六、二七九	一二・三	一〇四・四	同 八年	三三、〇七九	二八一、三八	一二・五	一〇五・二
同 四年	三八六、七〇〇	三四三、四七九	一二・六	一〇四・〇	同 九年	三三、八九九	二九五、五七七	一二・〇	一〇五・二
同 五年	四〇六、四三八	三六五、八三三	一二・一	一〇五・三	同 十年	三四〇、一八七	三〇〇、六八一	一二・三	一〇五・一
同 六年	三七九、八六一	三三八、〇二一	一二・四	一〇四・三	同 十一年	三三五、〇三四	二九五、四五六	一二・四	一〇五・二

四、月別

昭和十一年に於ける出生を月別に觀ると、各月平均一日の出生は四月に最も多く、三月、十二月、十一月順次之に亞ぎ、其他二月、十月、九月も比較的多く、何れも一年平均以上を示し、之に反し最も少いのは一月で六月、五月も比較的少い。

	實 數		一年平均一日の出生百に付各月平均一日の出生			實 數		一年平均一日の出生百に付各月平均一日の出生	
	男	女	朝鮮	内地		男	女	朝鮮	内地
一 月	四三、二九二	七九、〇〇	三	三	一 月	五九、八三三	二二、六	二二・六	二二・六
二 月	五二、〇〇三	一〇五、四七	四	四	二 月	五八、二四八	一二、四三	一二・四三	一二・四三

五	月	四、五一	九	月	五三、四五	一〇三・一六
六	月	四、六六	十	月	五五、六〇	一〇三・八九
七	月	四、七九	十一	月	五五、九〇	一〇七・九二
八	月	五、五五	十二	月	五八、九八	一一〇・五

第三 死 産

一、總數 朝鮮に於ける昭和十一年の死産は四、九九八人(内、内地人は一、〇一八人、朝鮮人は三、九六三人、外國人は一七人)で、一日平均一四人に當り死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於て一二九人を増加し率に於ても〇・〇一の増加を示した。

尙内地に於ける死産率一・六七(昭和十年)に比較すると朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和八年の〇・二四、最低は昭和二三・四各年の〇・一九で平均〇・二二である。

4 1

	昭和二年	同 三 年	同 四 年	同 五 年	實 數			人口千に付		
					總 數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
					三、六四	六三	二、九九三	八	〇・一九	一九二
					三、六三〇	六七	二、九六三	八	〇・一九	一九三
					三、五九七	七三	二、八四五	三六	〇・一九	一八六
					四、四三〇	八〇	三、六二〇	三〇	〇・二三	一八三

同	六	年	四、三三八	八一九	三、四九五	一四	〇・二二	一・六
同	七	年	四、六三七	八九四	三、七六	五	〇・二三	一・八〇
同	八	年	四、九五三	九〇六	四、〇三	一五	〇・二四	一・七〇
同	九	年	四、七六五	八二〇	三、九三	三	〇・二三	一・六六
同	十	年	四、八六九	九三一	三、九三	一六	〇・二三	一・六七
同	十一	年	四、九八	一、〇二八	三、九三	一七	〇・二三	—

二、道別

昭和十一年の死産を道別に観ると最も多いのは京畿道の一、二一三人で平北の七七三人及平南の七六〇人之に次ぎ、最も少いのは忠北の七四人で、忠南の一〇三人及全南の一四二人が之に亞いである。尙人口千人に對する割合を観ると、最高は平南の〇・五三で、京畿の〇・五一及平北の〇・四八之に亞ぎ、最低は全南の〇・〇六で、之に亞いで慶北及忠南の〇・〇七、忠北の〇・〇八と全北の〇・一二等比較的低い方である。各道の死産率を前年に比較すると増加したもの七道、減少したもの四道、變動のないもの二道で、變動の重なるものは平南に於ける〇・〇四の増加及京畿に於ける〇・〇三の減少である。

道	實 數		人 口 千 に 付		道	實 數		人 口 千 に 付	
	昭和十一年	昭和十年 (△減)	昭和十一年	昭和十年 (△減)		昭和十一年	昭和十年 (△減)	昭和十一年	昭和十年 (△減)
全 鮮	四、九八	〇・三三	〇・三三	〇・〇一	全 羅 北 道	一八一	〇・一一	〇・一〇	〇・〇三
京 畿 道	一、二三	〇・五一	〇・五四	△ 〇・〇三	全 羅 南 道	一四三	〇・〇六	〇・〇四	〇・〇一
忠 清 北 道	七四	〇・〇八	〇・一〇	△ 〇・〇二	慶 尙 北 道	一六三	〇・〇七	〇・〇四	—
忠 清 南 道	一〇三	〇・〇七	〇・〇七	—	慶 尙 南 道	四八四	〇・二三	〇・二〇	〇・〇三

黄 海 道	二五三	〇・一五	〇・一六	△	〇・〇一	江 原 道	二三八	〇・一六	〇・一七	△	〇・〇一
平 安 南 道	七六〇	〇・五三	〇・四九	〇・〇四		咸 鏡 南 道	六八八	〇・三三	〇・三三	〇・〇一	
平 安 北 道	七三三	〇・四八	〇・四六	〇・〇三		咸 鏡 北 道	二四七	〇・三〇	〇・二九	〇・〇一	

三、體性別

昭和十一年の死産四、九九八人の中、男は二、七九五、女二、二〇三人で女百に付男は一二六・九人である。尙内地に於ける一一九・三（昭和十年）に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙之を出生の女百に付男一一三・四に比較すると、男超過の割合が遙かに高く既往十箇年に就て觀ると又同様の現象を示してゐる。

	實 數		女百に付			實 數		女百に付	
	男	女	死 産	出 生		男	女	死 産	出 生
昭和二年	二、〇五七	一、六〇七	一八・〇	一二・八	昭和七年	二、五五七	二、〇〇〇	一三・九	一二・三
同 三 年	一、九七七	一、六三三	二三・〇	一二・三	同 八 年	二、八〇三	二、一五〇	一三・三	一二・五
同 四 年	一、九七七	一、六〇〇	二四・八	一二・六	同 九 年	二、六六七	二、二一八	一五・〇	一二・〇
同 五 年	二、四八五	一、九四五	二七・八	一二・一	同 十 年	二、七三四	二、二五五	一八・一	一二・三
同 六 年	二、四六三	一、八六五	二三・一	一二・四	同 十一年	二、七五五	二、二〇三	一六・九	一二・四

四、月別

昭和十一年に於ける死産を月別に見ると、各月平均一日の死産は十月に最も多く、六月、十一月、七月、二月、十二月順次に亞ぎ、何れも一年平均以上を示してゐる、之に反し最も少いのは五月で八月三月が之に亞いでゐる。

六 五 四 三 二 一

月 月 月 月 月 月

實 數

一年平均一日の
死産百に付各月
平均一日の死産

實 數

一年平均一日の
死産百に付各月
平均一日の死産

出 生 月 別

(其の一) 昭和十一年

總 數

一 月

二 月

三 月

四 月

五 月

總 數

男 女

男 女

男 女

男 女

男 女

總 數

總 數

六三〇、四九〇 三三五、〇三四 二九五、四五六
一四、五六四 七、七二七 六、八四七
六二五、三八一 三三七、〇三四 二八八、三五七

三三、七二一 一九、五七一 二六、九九七 二四、〇〇六 三三、〇五八 二七、七七五 三一、〇三三 二七、二二五 二五、五五五 二二、八八六

七三八 六六九 七四四 六六六 六四八 六〇三 五八八 五六一

二一、八〇三 二八、七二六 二六、二四一 二三、三三三 三一、二九一 二七、〇六七 三〇、三四九 二六、五九六 二四、九六八 二三、三七七

九 一四 一八 一四 二三 三三 三六 一七 二九 二八

二、四四六 一、七四〇 二、四四六 二、〇九五 二、六六四 三、三四四 二、九七二 三、三三三 三、〇〇三 二、六四五 二、四〇六

京 畿 道

外 國 人

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

京 畿 道

外 國 人

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

京 畿 道

外 國 人

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

忠 清 北 道

外 國 人

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

外 國 人

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

三八 四五 三 二 一 四 一 五 二 三 六

忠清南道			内地人	六六八	三六五	三〇三	四一	四一	三六	三〇	二八	二七	二〇	二二	二四	二六
			朝鮮人	三九、五〇	二、二〇	一八、三四〇	一、一七五	九四六	一、七三三	一、三九六	二、〇三一	一、七〇九	一、七三三	一、五一六	一、五四九	一、三二
			外國人	一五	一〇	五	一	一	一	一	三	四	一	一	一	一
全羅北道			内地人	八二三	四二〇	三九三	四一	四八	三九	四〇	四三	三一	四四	二七	二二	三〇
			朝鮮人	三六、六四九	一九、六二〇	一七、〇二九	一、三〇七	一、〇九二	一、六五九	一、四三七	一、八二四	一、五九九	一、七三一	一、四九三	一、五一五	一、三三
			外國人	一三	七	六	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一
全羅南道			内地人	九五四	五二二	四四二	六一	四九	四四	四四	五〇	三八	四六	三〇	三三	四〇
			朝鮮人	五八、三四	三、二九八	二六、九三六	一、九八五	一、六二八	二、一八九	一、八八四	二、六五八	二、二〇六	二、六六五	二、二八三	二、三三七	二、〇二九
			外國人	一七	五	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
慶尙北道			内地人	八八四	四七三	四二	六〇	四八	五一	四二	四一	三四	四一	四二	五九	三三
			朝鮮人	六四、九〇九	三四、八六五	三〇、〇四四	二、一五七	一、六九三	二、七六四	二、三三八	三、一九九	二、七六〇	三、二四三	二、九一六	二、五二二	二、三〇八
			外國人	二二	六	六	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一
慶尙南道			内地人	二、九一〇	一、五六一	一、三四九	二〇三	一六四	一三六	一三六	二六	一五六	一三三	一三三	一八	一〇一
			朝鮮人	六六、四〇五	三五、二四六	三一、一五九	二、四三四	二、一八二	二、九一五	二、五七八	三、五三三	二、九九三	三、二五三	二、九〇四	二、八九三	二、六六
			外國人	一〇	七	三	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一
黃海道			内地人	三九三	一九九	一九四	二二	二三	八	一四	二〇	一三	二〇	二二	一一	一七
			朝鮮人	五〇、九八五	二六、五五四	二四、四三一	二、〇元	一、八〇九	二、二四三	二、〇七九	二、四八三	二、二八六	二、四二六	二、一七四	一、九五七	一、八七六
			外國人	二二	一一	一〇	一	一	一	一	一	一	二	一	三	三
平安南道			内地人	八七五	四六七	四〇八	五五	五四	四五	四五	四一	四一	四五	元	三二	三六
			朝鮮人	四〇、七八	二、二三三	一九、四八五	一、一五四	一、一二二	一、四一六	一、三三五	一、八四五	一、七三一	二、〇〇〇	一、九六四	一、八三〇	一、六〇〇
			外國人	四三	二〇	三	一	一	二	一	一	四	三	一	三	一

同 上 (其の二)

		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平安北道		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人	
		五八七	三二七	二七〇	二九	二七	二八	二四	三五	二六	三四	三三	二二	二七	
		五四、七三七	二八、九一九	二五、八〇八	二、三七七	一、九九〇	二、四九九	二、三三五	三、〇六二	二、五一九	二、七七四	二、四八三	三、二五	三、〇八八	
		朝鮮人	二三八	一三一	一〇七	三	四	四	五	九	一〇	一八	七	一一	一一
		外國人	二三八	一三一	一〇七	三	四	四	五	九	一〇	一八	七	一一	一一
江原道		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人	
		三八四	二〇三	一九三	一九	二七	三二	二八	一九	二一	二〇	一九	一六	一二	
		朝鮮人	四八、三六	二五、五五〇	二、六七六	二、〇七五	一、七八六	二、三八	二、一〇三	二、六三七	二、三四四	二、四三八	二、一三七	一、九七	一、七六四
		外國人	一〇	八	二	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一
咸鏡南道		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人	
		一、〇四五	五三四	五一	四七	五七	六三	五四	六三	四三	三九	四七	四二	四八	
		朝鮮人	四一、〇〇〇	三三、〇〇一	一九、〇五九	一、二七五	一、一七七	一、六五四	一、四八八	二、一六六	一、八五五	二、一五六	一、七〇五	一、七三一	一、四四〇
		外國人	三九	三二	一八	一	二	二	一	三	一	二	二	四	二
咸鏡北道		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人		内地人	
		一、二七九	六三八	五四一	七二	六三	五八	四六	六二	六〇	五一	四八	五一	五三	
		朝鮮人	二二、五七二	一三、〇三七	一〇、五三四	七四三	五九四	九七五	八九五	一、二三四	一、〇七四	一、一九六	九八八	九三七	八五六
		外國人	四二	三五	一六	一	二	一	四	一	一	五	二	二	三
總數		三三、四八二	二一、六八	二六、二九四	二三、四四五	二七、六六六	二四、八四九	二八、三七六	二五、〇六九	二九、七五九	二五、八六二	二九、七九五	二六、一五	三、五五二	二七、五六六
内地人		五三三	四五九	六五二	五四七	六五九	五八〇	六五	五二八	六四六	四八五	五八九	四八六	四四六	四〇三
朝鮮人		三三、九〇五	二〇、六六一	三五、六三二	二三、八八一	二六、九七五	二四、五五二	二七、七六六	二四、五三二	二九、〇七四	二五、三四四	二九、一八八	二五、六〇七	三〇、八九三	二七、一四三
外國人		二〇	二八	二二	一七	三三	一八	三五	二〇	三九	三三	一八	二三	一三	二〇

總數

内地人

朝鮮人

外國人

黃海道			平安南道			平安北道			江原道			咸鏡南道			咸鏡北道		
内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
一二	一、七五八	一	三三	一、五九一	三	二三	二、〇〇〇	九	一七	一、七五一	一	四三	一、四九八	一	四四	八八八	一
一二	一、七五三	三	二九	一、三九九	三	二五	一、六九九	一二	八	一、五九五	一	四九	一、三三三	一	三八	七七九	三
一二	二、〇一四	一	五二	一、七三四	一	三四	二、〇九〇	一四	二一	一、八七三	一	四八	一、六六六	一	五〇	九三〇	一
一二	一、九四三	一	二五	一、五八九	一	三三	一、八五六	七	二七	一、六三七	一	四一	一、四六九	二	三八	八二六	一
一九	二、二九九	一	三六	一、八五三	一	三四	二、二五二	九	一五	一、八三三	一	三九	一、七二九	四	五八	九六九	二
一四	二、〇四五	一	三〇	一、七五五	二	一五	二、〇五〇	八	一七	一、七〇一	一	四六	一、五八七	一	四九	八七三	一
二二	二、二〇八	一	四三	一、九〇八	一	一五	二、一九四	一八	一八	一、九八九	二	三五	一、八六〇	三	五〇	一、〇六八	四
一三	一、九七二	一	三八	一、八〇〇	一	二五	一、九九九	九	一四	一、七六〇	一	二九	一、七八	一	三二	八七二	一
一六	二、三〇六	三	三六	二、〇三五	二	三〇	二、三八二	一七	一六	二、一三三	一	三六	二、一七九	一	五四	一、〇二一	四
一九	一、九六一	一	二七	一、八五一	四	一七	二、二七五	一五	九	一、八八六	一	三〇	一、七〇〇	四	三八	九五三	一
二二	二、三四一	一	三八	一、九九六	二	三〇	二、四三九	一一	一七	二、〇九一	一	四四	二、〇〇六	一	五七	一、〇五七	三
一七	二、一四〇	一	三二	一、七五八	三	二二	二、三七七	九	一三	一、八二〇	一	四七	一、七七一	一	四四	九七七	一
一四	二、五四一	一	一四	一、七三三	二	二四	二、七四五	八	一三	二、四九七	一	三六	二、〇五一	一	三一	一、〇四九	一
一九	二、五九三	一	一四	一、五六二	一	二八	二、三九五	一〇	一六	二、一四三	一	三〇	一、七五	一	三四	九二九	一

死 産 月 別 (其の一) 昭和十一年

全羅北道			忠清南道			忠清北道			京畿道			總數		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
二	一〇	四	一	七	二五	一	六	一〇	一	九三	二八	一七	三、六三	四、九八
一	八	元	一	四七	二	一	三	四	一	四八	一四	七	二、二六	二、七五
一	四	二〇	一	三	三	一	三	六	一	四三	一五	一〇	一、七七	二、〇三
一	五	四	一	二	一	一	一	一	一	三	八	一	一五九	二二三
一	八	一	一	四	一	一	三	一	一	元	一三	一	一六三	一九八
一	二	二	一	六	三	一	五	一	一	三	一三	一	一七二	二二三
一	二	二	一	二	一	一	五	一	一	四	二	一	一六	一七二
一	三	二	一	三	一	一	三	一	一	七	一〇	一	一八	二五
一	七	一	一	三	二	一	一	一	一	元	一四	一	一九	一五九
一	六	三	一	四	一	一	四	一	一	四〇	一三	一	一八三	二六
一	一	三	一	二	一	一	二	二	一	二	七	二	一八	一七五
一	四	一	一	五	一	一	二	一	一	四	九	一	一九〇	二三
一	四	一	一	五	一	一	二	一	一	二七	八	一	一二五	一五一

江原道			平安北道			平安南道			黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
一	三〇	一七	三	七八	四三	三	六〇	六七	二	三四	二六	一	三三	二八	一	二七	四	一	八〇	三
一	一三四	九	一	四〇〇	二	三	四九	二九	一	一三〇	二	一	一七三	一〇三	一	五	二八	一	四七	七
一	六	八	二	三六	二	一	二七	六	二	九四	二四	一	一〇	六	一	五九	六	一	三	五
一	六	一	一	六	三	一	六	二	一	三	三	一	三	六	一	四	二	一	一	二
一	六	二	一	三	一	一	九	二	一	九	一	一	四	一	一	七	一	一	一	一
一	二	三	一	二九	三	一	二六	一	一	五	一	一	三	二	一	三	二	一	一	二
一	七	一	一	八	二	一	三	二	一	五	二	一	二	四	一	六	二	一	六	三
一	一三	一	一	四〇	三	一	四三	四	一	七	一	一	二	八	一	七	三	一	一	三
一	七	一	一	三〇	一	一	一九	三	一	九	一	一	三	八	一	三	二	一	二	一
一	一三	一	一	三	三	一	三七	二	一	六	一	一	一五	三	一	四	四	一	六	一
一	九	一	一	六	一	一	二四	一	一	二	一	一	二	五	一	六	三	一	三	二
一	二	一	一	二九	一	一	三九	二	一	四	一	一	一六	七	一	七	二	一	五	三
一	九	一	一	三	三	一	三〇	二	一	九	一	一	六	三	一	四	一	一	四	二

忠清北道			京畿道			總數		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
1	3	1	1	50	2	1	190	40
1	6	1	1	57	2	1	188	40
1	1	1	1	52	2	1	209	50
1	3	1	1	57	8	1	192	40
1	3	1	1	54	9	1	172	40
1	1	1	1	15	13	3	216	43
1	2	1	1	53	15	1	203	40
1	1	2	1	33	0	1	124	3
1	2	2	1	41	15	1	24	3
1	5	1	1	50	14	1	168	44
1	1	1	1	45	14	1	192	41
1	2	1	1	47	15	1	154	5
1	4	1	1	3	6	2	165	45
1	2	1	1	3	9	1	188	57

同

上

(其の二)

咸鏡北道			咸鏡南道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
1	162	85	3	246	29
1	89	49	1	140	64
1	7	5	2	106	55
1	14	6	1	15	6
1	5	4	1	7	8
1	2	3	1	2	7
1	7	2	1	2	3
1	8	6	1	2	6
1	7	3	1	10	4
1	8	5	1	8	7
1	4	4	1	5	7
1	7	4	1	3	4
1	7	1	1	6	3

平安南道			黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清道南		
外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人
1	30	3	1	7	1	1	23	23	1	4	1	1	4	1	1	5	2	1	2	1
1	2	3	1	4	3	1	6	9	1	4	2	1	1	2	1	4	3	1	1	1
1	5	1	1	23	1	1	30	9	1	2	2	1	2	5	1	8	1	1	7	1
1	3	9	1	23	1	1	2	8	1	2	1	1	2	2	1	7	1	1	2	2
1	40	3	1	23	1	1	23	23	1	4	5	1	5	7	1	8	1	1	5	2
1	24	2	1	7	2	1	26	0	1	5	5	1	1	4	1	4	1	1	3	1
1	7	1	1	23	2	1	8	2	1	1	1	1	6	1	1	2	3	1	3	1
1	3	1	1	9	2	1	23	0	1	3	1	1	2	1	1	3	1	1	2	1
1	50	5	1	23	2	1	20	23	1	3	2	1	6	9	1	8	1	1	3	2
1	28	2	1	6	1	1	0	6	1	8	2	1	7	2	1	1	2	1	3	4
1	28	3	1	23	1	1	23	3	1	6	1	1	5	1	1	4	7	1	2	1
1	25	7	1	5	1	1	23	4	1	5	1	1	2	1	1	3	4	1	3	1
1	28	2	1	25	1	1	28	7	1	4	5	1	6	3	1	7	3	1	5	2
1	25	5	1	7	1	1	26	0	1	6	1	1	3	5	1	6	2	1	1	2

咸鏡北道			咸鏡南道			江原道			平安北道		
外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人	外國人	朝鮮人	內地人
	四	三		四	四		五			元	一
	七	二		九	五		八			三〇	二
	八	四		一〇	三		八	一		四	一
	一〇	四		二	四		五			三	一
	六	五		七	四		三			二四	一
	五	一	二	六	四		九			三〇	二
	六	一		八	三		三	一		三	一
	五	二		一〇	二		四	一		二七	
	七	六		三	四		四	一		五	
	四	六		五	四		八	一		三	一
	八	二		一六	六		九	二		四三	一
	二	二		七	四		二	一		二九	
	二	四	一	六	一〇		九	一		二六	三
	九	五		九	七		三	二		三七	七

人口動態

昭和十一年

婚姻. 離婚. 配偶数

(昭和8年 ~ 昭和12年)

4.00 18.96

3.61 7.24

7.35 10.19

7.47 11.76

7.22 8.44

6.49 24.78

6.68 34.76

6.26 13.50

8.99 34.38

9.22 44.90

8.75 23.57

5.23 10.13

5.02 12.43

5.47 7.61

8.35 25.41

8.84 37.80

7.84 12.39

7.23 15.64

8.64 24.58

婚姻及離婚調

(昭和十二年)

文書課

第一 婚姻

一、總數 朝鮮に於ける昭和十二年の婚姻は一二六、九一七件であつて婚姻率は人口千に付五・六八件に當り一日平均三四一件である。之を前年に比較すると婚姻數に於て七四八件を増加せるも婚姻率は〇・〇四件を減少した。

最近五年間に於ける婚姻率の趨勢を観ると昭和八年の六・〇九より翌九年は五・七五、昭和十年は五・六四に漸減し翌十一年は稍恢復して五・七二となつたが本年は再び減少に轉じた。

年次	人口總數	婚姻實數				人口千人に對する婚姻率
		總數	内地人	朝鮮人	外國人	
昭和八年	二〇七九、三二一	二六六四四	二二四五	二四、四八〇	一九	六・〇九
同 九 年	二二、二五、八七	二二、三六三	二二、三三	一九、〇一四	三六	五・七五
同 十 年	二二、八九、一八〇	二二、四一六	二二、〇九二	二二、二四六	七八	五・六四
同 十 一 年	二二、〇四、七八六	二二、一六九	二二、〇〇七	二二、六九三	六九	五・七二
同 十 二 年	二二、三五、四八五	二二、九一七	二二、二八三	二二、六二一	三三	五・六八
前年に比し増(△)減(○)	三〇七、六四九	七四八	△	二二四	九一八	△
					四六	〇・〇四

内鮮外人別に於ける婚姻は内地人二、二八三件、婚姻率は三・六三件、朝鮮人二二四、六一一件、婚姻率五・

七五件、外國人は二三件、婚姻率〇・五三件である。之を前年に比較すると内地人に於ては婚姻數一二四件、婚姻率〇・三二件を各減少し、朝鮮人にありては前者は九一八件を増加せるも後者にありては〇・〇四を減少した。外國人は兩者共に激減を示してゐる。

二、道別

昭和十二年に於ける婚姻を道別に觀ると、慶北の一三、五八八件が最も多く、京畿の一、二、六二九件、黃海の一、九五九件之に亞ぎ、平北・慶南・江原・全南・咸南は何れも一萬を超へ、最も少いは咸北の四、二九二件で、忠北の五、一四九件及忠南の七、八一四件が之に亞いでゐる。

尙人口千人に對する婚姻率は黃海の七・一八件が最も高く、江原の七・一六件及平北の六・九二件が之に亞ぎ、最低は全南の四・二八件、之に亞いで慶南の五・〇六件及咸北の五・一〇件等低い方である。

各道の婚姻率を前年に比較すると増加したもの六箇道、減少したもの七箇道で、増加の最も著しいのは黃海の〇・三四件及平北の〇・三一一件で、減少の最も著しいのは慶南の〇・五二件で咸南の〇・二二件が之に亞いでゐる。

道別	婚姻數			人口千人に對する婚姻率		
	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)
全鮮	二六、九一七	二六、一六九	七四八	五・六八	五・七二	△〇・〇四
京畿道	一二、六二九	一二、五二三	一一六	五・一四	五・二三	△〇・〇九
忠清北道	五、一四九	五、三四一	△一九二	五・九六	五・八九	〇・〇七
忠清南道	七、八一四	七、四七一	三四三	五・一九	五・〇四	〇・一五

全羅北道	八、二六〇	八、三四四	△	八四	五、三三	五、四二	△	〇・一〇
全羅南道	一〇、五二三	一〇、〇六一		四六二	四、二八	四、一六		〇・二二
慶尙北道	一三、五八八	一四、〇四五	△	四五七	五、五五	五、七二	△	〇・一七
慶尙南道	一一、二六一	一二、三四六	△	一、〇八五	五、〇六	五、五八	△	〇・五二
黃海道	一一、九五九	一一、二〇一		七五八	七、一七	六、八三		〇・三四
平安南道	八、七九三	八、四三三		三七〇	五、九八	五、八七		〇・二一
平安北道	一一、三七二	一〇、七二〇		六五二	六、九二	六、六一		〇・三二
江原道	一一、〇五四	一一、〇九六	△	四二	七、一六	七、二六	△	〇・一〇
咸鏡南道	一〇、二三三	一〇、三六六	△	一四三	六、二五	六、四七	△	〇・三二
咸鏡北道	四、二九二	四、二四二		五〇	五、一〇	五、二一	△	〇・二一

三、年齢別

昭和十二年に於ける婚姻者を年齢階級に依り先づ夫に就て觀ると内地人は二十五歳—二十九歳の五七・八%が最も多く三十歳—三十四歳の一九・二%及二十歳—二十四歳の一二・八%が之に亞ぎ、朝鮮人は二十歳—二十四歳の三八・三%が最も多く、十七歳—十九歳の三一・九%及二十五歳—二十九歳の一三・四%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一階級低い。即ち内地人は二十歳—三十四が總婚姻數の九割を占むるに反して朝鮮人は二十九歳迄が九割三分を占めてゐる。

内地に於ける昭和十一年の比例を觀ると二十五歳—二十九歳の四六・六%が最も多く、二十歳—二十四歳の二三・二及三十歳—三十四歳の一五・二%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人夫の婚姻年齢は内地に於ける夫よりは婚姻最盛期たる二十五歳—二十九歳の割合が遙かに高く且つ三十歳—三十四歳

が之に亞ぐも内地にありては二十歳——二十四歳が最盛期に亞いでゐる。朝鮮人に於ては内地に於ける夫より婚姻最盛期が一階級低く、二十四歳迄の婚姻が内地に於ては僅かに二割四分なるに比し八割を占めてゐて、早婚の傾向が極めて著しい。内地人、朝鮮人及内地（昭和十一年）別の夫年齢別百分比を示すと次の如し。

總 數	内地人		朝鮮人		内地(昭和十一年)	
	實 數	百分比	實 數	百分比	實 數	百分比
一七 歲 未 滿	二二八三	一〇〇・〇	二四六二	一〇〇・〇	五四九、一二六	一〇〇・〇
一七—一 歲	二	〇・一	一二、一六三	九・八	五、〇三二	〇・九
一七—一 九 歲	二〇	〇・九	三九、七九八	三三・九		
二〇—二 歲	二九二	一二・八	四七、七二三	三六・三	一二七、三六〇	二三・二
二〇—二 四 歲	一、三三〇	五七・八	一六、六九五	一三四	二五五、八四九	四六・六
二五—二 九 歲	四九	一九・二	四、三五四	三五	八三、三六二	一五・二
三〇—三 四 歲	一〇四	四・六	一、七九三	一・五	三三、四六八	五・九
三五—三 九 歲	七二	三・二	一、四二六	一・一	二八、四三〇	五・二
四〇—四 九 歲	二四	一・〇	五三三	〇・四	一一六、六六	二・一
五〇—五 九 歲	一〇	〇・四	一四六	〇・一	四九、六九	〇・九
六〇 歲 以 上						

此の比例を既往五年間に就て觀ると内地人は昭和八年に於て、二十五歳——二十九歳の五〇・三%、三十歳——三十四歳の二〇・九%、二十歳——二十四歳の一七・二%及三十五歳——三十九歳の六・〇%の順位を示し、以後各年共大體同順位を續けてゐるが二十五歳——二十九歳が漸次増加してゐるが本年は前年に比し

一・一%の減少を示し、三〇歳——三十四歳は昭和十年迄は減少の一途を辿りしも昭和十一年より増加に轉じた。他は年に依り多少の高低はあるも概して稍減少の傾向を示してゐる。朝鮮人は昭和八年に於て二十歳——二十四歳の三三・一%、十七歳——十九歳の三一・七%及十七歳未満の一四・〇%の順位であつたが翌九年より十七歳未満者は激減に轉じ二十五歳——二十九歳が一三・三%で第三位を占め以後同順位を保つてゐる。而して二十歳——二十四歳及二十五歳——二十九歳は漸増し、十七歳——十九歳は一進一退を示し、十七歳未満は減少を續けてゐる。

之等を内地の状況と比較して觀ると内地に於ては二十五歳——二十九歳及三十歳——三十四歳の兩階級は逐年増加し漸次晩婚へ移動しつつあるに對し、朝鮮に於ける内地人は略同傾向を示せるも、朝鮮人は之より低く二十歳——二十四歳に密集せんとしてゐる。内地人朝鮮人及内地に於ける年齢階級別夫の割合を示すと次の如し。

内地人

	總數	十七歳未満	十七歳—十九歳	二十歳—二十四歳	二十五歳—二十九歳	三十歳—三十四歳	三十五歳—三十九歳	四十歳—四十九歳	五十歳—五十九歳	六十歳以上
昭和八年	一〇〇〇	〇・一	〇・五	一七・二	五〇・三	二〇・九	六・〇	三・七	一・二	〇・二
同 九 年	一〇〇〇	〇・一	〇・八	一七・五	五三・八	一九・一	四・二	三・〇	一・二	〇・三
同 十 年	一〇〇〇	〇・二	一・三	一六・八	五六・〇	一六・四	四・七	三・三	一・二	〇・一
同 十 一 年	一〇〇〇	〇・一	〇・五	一三・九	五八・九	一七・七	四・七	二・八	一・二	〇・三

朝鮮人	同	十二	年	二〇〇〇	〇	一	〇	九	二	八	五	七	六	一	九	二	四	六	三	三	一	〇	〇	四
-----	---	----	---	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

昭和八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一四〇	一二八	一二六	一二〇	九八
三二七	三三二	三三四	三三四	三二九
三三一	三四四	三五九	三七三	三八三
一三一	一三三	一三三	一三五	一三四
四二	三九	三六	三五	三五
一九	一七	一六	一五	一五
一四	一二	一二	一二	一一
〇五	〇四	〇四	〇五	〇四
〇二	〇一	〇一	〇一	〇一

内地

昭和八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一・四	一・二	一・〇	〇・九	?
二六・九	二五・七	二四・六	二三・二	?
四三・二	四三・六	四五・〇	四六・六	?
一五・二	一五・三	一五・四	一五・二	?
六・〇	五・九	五・八	五・九	?
五・二	五・三	五・一	五・二	?
二・三	二・二	二・二	二・二	?
〇・九	〇・八	〇・九	〇・九	?

次に妻の方では内地人は二十歳——二十四歳の六一・九%最も多く、二十五歳——二十九歳の一八・〇%及十五歳——十九歳の一四・七%之に亞ぎ、朝鮮人は十五歳——十九歳の七三・〇%最も多く、二十歳——二十四歳の一四・五%及十五歳未満の七・七%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一

階級低く、又内鮮人共妻の婚姻最盛期は夫に比し一階級低く、尙最盛期に於ける妻の婚姻割合は夫に比し著しく高い。内地に於ける昭和十一年の状況を觀ると二十歳——二十四歳の五五・〇%最も多く、二十五歳——二十九歳の一九・九%及十五歳——十九歳の一三・二%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける妻よりも婚姻最盛期たる二十歳——二十四歳の割合が著しく多く、朝鮮人は婚姻最盛期が一階級低く、二十歳未満の婚姻は内地に於ては僅かに一割三分なるに比し朝鮮人は八割一分を占めて早婚の傾向が著しい。

總數	内地人		朝鮮人		内地(昭和十一年)	
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
十五歲 未満	八	〇・四	九五五二	七七	一五	〇・〇
十五—十九歲	三三五	一四・七	九〇,九二七	七三・〇	七三,四九二	一三・二
二十—二十四歲	一,四二三	六二・九	一八,二六六	一四・五	三〇,一九四八	五五・九
二十五—二十九歲	四二二	一八・〇	三七〇二	三〇	一〇,九六二三	一九・九
三十—三十四歲	六七	二・九	一,三三一	一・〇	二九,六六〇	五四
三十五—三十九歲	二五	一・一	五三六	〇・四	一四,七六七	二・七
四十—四十九歲	一六	〇・七	三九八	〇・三	一三,五九六	二・五
五十—五十九歲	五	〇・二	一二二	〇・一	五,五二四	一・〇
六十歲 以上	二	〇・一	二七	〇・〇	一,五〇一	〇・三

又此の比例を既往五年間に就て観ると内地人は昭和八年に於て二十歳——二十四歳の五八・八%、二十五歳——二十九歳の一七・六%十五歳——十九歳の一六・六%の順位で以後各年共大體同順位を續けてゐるが二十歳——二十四歳は昭和十年迄は激増せしも翌年より漸減に移り、二十五歳——二十九歳は漸増せしも本年は減少し、十五歳——十九歳は漸減を續けてゐたが本年は増加に轉じた。

朝鮮人は昭和八年に於て十五歳——十九歳の六八・四%、二十歳——二十四歳の十五・八%、十五歳未満の九・九%の順位で以後同順位を保ち、十五歳——十九歳は増加の割合著しく、二十歳——二十四歳は減少を續けてゐたが昭和十二年は増加に轉じた。十五歳未満は稍減少を續けてゐる。

之等を内地に於ける状況と比較して観ると内地に於ては二十歳——二十四歳及二十五歳——二十九歳は漸増し、十五歳——十九歳が漸減して、漸次晩婚へ移動しつつあるに對し、朝鮮に於ては内地人は二十歳——二十四歳に、朝鮮人は一階級低く十五歳——十九歳に集中せんとする傾向がある。

内地人

	總數	十五歳未満	十五歳—十九歳	二十歳—二十四歳	二十五歳—三十四歳	三十五歳—四十九歳	五十歳—六十歳	六十歳以上
昭和八年	100.0	0.0	16.6	58.8	17.6	4.3	1.4	0.3
同 九 年	100.0	0.4	15.9	62.7	15.0	3.6	0.9	0.2
同 十 年	100.0	0.4	13.1	64.3	17.5	2.5	1.0	0.0
同 十 一 年	100.0	0.7	11.7	62.8	18.8	3.9	1.0	0.2
同 十 二 年	100.0	0.4	14.7	61.9	18.0	2.9	1.1	0.2

朝鮮人

昭 和 八 年	同 九 年	同 十 年	同 十 一 年	同 十 二 年
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
九九	八九	八八	八四	七七
六八四	七〇七	七二二	七二六	七三〇
一五八	一五二	一四〇	一四〇	一四五
三六	三一	三〇	二九	三〇
一二	一一	一〇	一〇	一〇
〇六	〇五	〇五	〇五	〇四
〇四	〇四	〇四	〇四	〇三
〇一	〇一	〇一	〇二	〇一
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

內地

昭和八年	同九年	同十年	同十一年
總數	總數	總數	總數
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
一六・六	一五・二	一四・二	一三・二
五四・三	五四・七	五四・九	五五・〇
一七・一	一八・一	一九・〇	一九・九
五・六	五・五	五・五	五・四
二七	二七	二七	二七
二・五	二・五	二・四	二・五
一〇	一・一	一・〇	一・〇
〇・二	〇・二	〇・三	〇・三

更に夫妻相互の年齢を組合せて觀ると内地人は夫の二十五歳——二十九歳と妻の二十歳——二十四歳との婚姻が最も多く、總數の四割二分を占め夫の三十歳——三十四歳と妻の二十歳——二十四歳の一割及夫妻共二十歳——二十四歳の七分が之に亞ぎ、朝鮮人は夫の二十歳——二十四歳と妻の十五歳——十九歳の二割九分最も多く、夫の十七歳——十九歳と妻の十五歳——十九歳二割七分、夫の二十五歳——二十九歳と妻の十五

歳——十九歳及夫の十七歳未満と妻の十五歳——十九歳の各八分が之に亞いでゐる。

内地に於ける昭和十一年の状況を觀ると二十五歳——二十九歳の夫と二十歳——二十四歳の妻との婚姻が最も多く、總數の三割二分を占め、之に亞いで夫妻共二十歳——二十四歳の一割五分、夫妻共二十五歳——二十九歳の九分の順位となり、朝鮮に於ける内地人に比較すると夫二十五歳——二十九歳と妻二十歳——二十四歳の婚姻の割合が低く、朝鮮に於て第二位を占むる夫三十歳——三十四歳と妻二十歳——二十四歳が内地では五位にあり、夫妻共二十歳——二十四歳が朝鮮に比し非常に高く二位を占めてゐる。

朝鮮人は内地に比し一階級低く且十七歳——十九歳の夫と十五歳——十九歳の妻の婚姻率が非常に高い。

現住内地人婚姻年齢別表

妻の年齢	夫の年齢		總數	夫の年齢									
				十七歳未満	十七歳以上二十歳未満	二十歳以上二十五歳未満	二十五歳以上三十歳未満	三十歳以上三十五歳未満	三十五歳以上四十歳未満	四十歳以上五十歳未満	五十歳以上六十歳未満	六十歳以上	
總數			二二八三	二	二〇	二九二	一三〇〇	四三九	一〇四	七二	二四	一〇	
十 五 歳 未 満			八	—	—	三	五	—	—	—	—	—	
滿十五歳以上二十歳未満			三五	—	一〇	九七	一九三	三三	—	—	—	—	
滿二十歳以上二十五歳未満			一四三	二	七	一六八	九五六	二二七	三〇	九	—	—	
滿二十五歳以上三十歳未満			四二	—	三	二二	一五八	一五〇	五三	二三	—	—	
滿三十歳以上三十五歳未満			六七	—	—	三	八	二〇	—	一六	—	—	
滿三十五歳以上四十歳未満			二五	—	—	—	—	—	四	二四	—	—	
滿四十歳以上五十歳未満			一六	—	—	—	—	—	—	七	—	—	

[illegible]

現住朝鮮人婚姻年齡別表

[illegible]

四、法定婚姻年齡未滿者の婚姻

昭和十二年に於ける朝鮮人婚姻當事者の中、法定婚

即ち夫の十七歳未満及妻の十五歳未満の者は夫一二、一六三人、妻九、五五二人、計一、七一五人で、婚姻當事者總數の九分に當つてゐる。之を前年に比較すると實數に於て二、三四六人、割合に於て一分の減少を示してゐる。尙既往五年間に就て觀ると昭和八年は一割二分で其の後逐年減少を明瞭に示してゐる。而して各年

其夫は妻より稍高率である。

	昭 和 八 年	同 九 年	同 十 年	同 十 一 年	同 十 二 年	總 數			夫			妻		
						實 數	婚姻者百に付	實 數	婚姻者百に付	實 數	婚姻者百に付	實 數	婚姻者百に付	實 數
全 鮮						二九,七五一	一二・〇	一七,四四一	一四・〇	二二,三二〇	九・九			
京 畿 道						二五,八三六	一〇・九	一五,二七三	一三・八	二〇,五六三	八・九			
忠 清 北 道						二四,七五三	一〇・二	一四,〇四一	一二・六	一〇,七一二	八・八			
忠 清 南 道						二四,〇六一	九・七	一三,六五〇	一一・〇	一〇,四一一	八・四			
全 羅 北 道						二二,七一五	八・七	一一,一六三	九・八	九,五五二	七・七			

總 數

數

夫

妻

次に昭和十二年に於ける法定年齢未満者の婚姻總數に對する割合を道別に觀ると忠北の一割六分を最高とし平南の一割五分及平北の一割三分之に亞ぎ、其の他忠南・黄海及江原も全鮮平均以上を示してゐる。之に反して低いのは慶南三分を始めとし、全北は五分で、其の他京畿・全南・慶北・咸南及咸北は何れも全鮮平均以下を示してゐる。

咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道
六三六	一六七八	二〇八六	二九〇三	二七四八	二五五七	七三四	一六二一	一、二六九
八〇	八五	九五	二二九	一五八	一〇八	三三	六〇	六一
三三三	二〇九六	一二七〇	一七四七	一七三〇	一四四五	三六二	一〇四八	四六三
八三	一一一	一一五	一五五	一九九	一二二	三三三	七八	四五
三〇三	五八二	八六	一、二五六	一〇一八	一一二	三七二	五七三	八〇六
七六	五九	七四	一〇二	一一七	九四	三四	四三	七八

第二 離 婚

一、總 數 朝鮮に於て昭和十二年に行はれた離婚は内地人四九件、朝鮮人五、一一〇件、外國人三件、計五、一六二件で一日平均一四件に當り人口千人に付〇・二三件である。之を前年に比較すると實數に於ては二一七件、割合に於ては〇・一件を何れも減少した。尙婚姻千に付四〇・七件で前年に比し一・九件を減少した。

最近五年間に於ける人口千人に對する離婚の割合を觀ると漸次減少してゐる。

昭 和 八 年	總 數	內 地 人	朝 鮮 人	外 國 人	人口千人に付
	五、八七三	一二五	五、七五七	一	〇二八

同	九	年	五、一三七	八五	五、〇五〇	二	〇・一四
同	十	年	五、三三三	九六	五、二六六	一	〇・一四
同	十	一	五、三七九	一〇〇	五、二七八	一	〇・一四
同	十	二	五、一六二	四九	五、二一〇	三	〇・一三
前年に對比し増(△減)			△ 二二七	△ 五一	△ 一六八	二	△ 〇・〇一

二、道別

昭和十二年に於ける離婚を道別に觀ると最も多いのは慶南の六六七件で、全南の六二五件、慶北の五一五件、平北の五〇八件之に亞ぎ、最も少いのは咸北の六三件で忠北の二三二件、全北の二六九件及忠南の二八五件が之に亞いでゐる。尙人口千人に對する離婚の割合を觀ると、最高は平北の〇・三一一件で慶南の〇・三〇件之に亞ぎ、最低は咸北の〇・〇七件で全北の〇・一七件が之に亞いでゐる。各道の離婚率を前年に比較すると増加したもの三箇道、減少したもの十箇道で、増加の最も著しいのは慶北の〇・〇三件で、減少の最も著しいのは咸南の〇・〇五件である。

		離婚数		人口千人に對する離婚率			
		昭和十二年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十一年		
		比較増(△減)		比較増(△減)			
全	鮮	五、一六二	五、三七九	△ 二二七	〇・一三	〇・一四	△ 〇・〇一
京	畿	四、五〇〇	四、八五	△ 三五	〇・一八	〇・二〇	△ 〇・〇一
忠	清	二、三三	二、五一	△ 一九	〇・一六	〇・一七	△ 〇・〇一
忠	清	二、八五	二、九七	△ 一二	〇・一九	〇・二〇	△ 〇・〇一
全	羅	二、六九	三、三八	△ 五九	〇・二七	〇・二二	△ 〇・〇四

咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道
六二	三〇五	四〇五	五〇八	三四九	四八九	六六七	五一五	六二五
七	三七	四五	四八	三八	五二〇	六三八	四四八	六二八
△	△	△	△	△	△	△	△	△
一四	八二	四七	二五	三六	三三	二九	六七	三
〇・〇七	〇・二九	〇・二六	〇・三一	〇・二四	〇・二九	〇・三〇	〇・二二	〇・二五
〇・〇九	〇・二四	〇・三〇	〇・三〇	〇・二七	〇・三三	〇・二九	〇・一八	〇・二六
△	△	△	△	△	△	△	△	△
〇・〇二	〇・〇五	〇・〇四	〇・〇一	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇一	〇・〇三	〇・〇一

三、年齢別

昭和十二年に於ける離婚の年齢階級別百分比例を先づ夫に就て觀ると内地人は二十五歳——二十九歳のものが最も多く、總數の二八・六%を占め、三十歳——三十四歳の二四・五%、四十歳——四十九歳の二二・五%、二十歳——二十四歳の一〇・二%に亞ぎ、朝鮮人は二十五歳——二十九歳及二十歳——二十四歳の二六・七%最も多く、三十歳——三十四歳の一五・四%が之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して觀ると、内鮮人共婚姻の多い年は離婚も亦多くなつてゐる。

總數	內地人		朝鮮人	
	實數	百分比	實數	百分比
十七歲未滿	四九	一〇〇・〇	五、一一〇	一〇〇・〇
十七歲——十九歲	一	一	一一三	二・二
			四一六	八・二

二十歳—二十四歳	五	一〇・二	一、三六五	二六・七
二十五歳—二十九歳	一四	二八・六	一、三六六	二六・七
三十歳—三十四歳	一二	二四・五	七八六	一五・四
三十五歳—三十九歳	三	六・一	四八一	九・四
四十歳—四十九歳	一一	二二・五	四〇五	七・九
五十歳—五十九歳	三	六・一	一二六	二・五
六十歳—以上	一	二・〇	五二	一・〇

次に妻に就て觀ると、内地人は二十歳——二十四歳が最も多く總數の四〇・八%を占め二十五歳——二十九歳の二二・五%、三十歳——三十四歳の一二・三%之に亞ぎ、朝鮮人は二十歳——二十四歳の三一・一%最も多く十五歳——十九歳の二五・四%、二十五歳——二十九歳の二〇・一%が之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して觀ると内鮮人共に離婚の多い年齢は婚姻の多い年齢より稍上位になつてゐる。

總數	内地人		朝鮮人	
	數	百分比	數	百分比
十五歳—未滿	一	一〇〇・〇	一六一	三・二
十五歳—十九歳	三	六・一	一、三〇一	二五・四
二十歳—二十四歳	二〇	四〇・八	一、五九二	三一・一
二十五歳—二十九歳	一一	二二・五	一、〇二六	二〇・一
三十歳—三十四歳	六	一二・三	五〇四	九・九

人五、六七〇組、計四、八六三、三二四組で人口千人に付有配偶者は四三五人で前年末に比し、實數に於ては五二、八二二組を増加したが人口千人に對する有配偶者の割合は一人を減少した。最近五年間に於ける有配偶者の割合を観ると概して漸減の傾向がある。

	配 偶 数				人口千人に付有配偶者
	總 數	内地人	朝鮮人	外國人	
昭和十八年	四、六六三、六六七	一三、九二五	四、五四四、六六三	五、〇七五	四四九
同 九 年	四、六九二、八三五	一二、〇八九	四、五六九、九〇四	五、八四二	四四四
同 十 年	四、七九八、七三〇	一二、一八八	四、六六八、九三二	七、六一一	四三八
同 十 一 年	四、八一〇、五〇二	一二、五七〇	四、六七四、五四六	八、三八六	四三六
同 十 二 年	四、八六三、三三四	一三、五一〇	四、七二六、一四四	五、六七〇	四三五
前年比較増(△減)	五二、八二三	三、九四〇	五一、五九八	△ 二、七二六	△ 一

二、道 別

昭和十二年末に於ける人口千人に對する有配偶者の割合を道別に觀ると最高は忠北の四六〇人で、江原の四五六人が之に亞ぎ、最低は慶南の四〇九人で全南の四二〇人が之に亞いでゐる。各道の有配偶者を前年末に比較すると増加したものは平北の一六人、忠南の一人で、京畿・忠北は増減がなく、他の各道は何れも減少してゐる。

總數	配 偶 數			人口千人に對する有配偶者數		
	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)
四、八六三、三三四	四、八一〇、五〇二	五二、八三二	四三五	四三六	△	一

京 畿 道	忠 清 北 道	忠 清 南 道	全 羅 北 道	全 羅 南 道	慶 尙 北 道	慶 尙 南 道	黃 海 道	平 安 南 道	平 安 北 道	江 原 道	咸 鏡 南 道	咸 鏡 北 道
五二九,五九七	二〇八,八八九	三三三,三六八	三三九,二三二	五一五,六一一	五三三,二六五	四五四,六九一	三七六,〇三四	三一九,九〇一	三七二,六六四	三五二,〇二三	三五二,三三四	一七七,八三六
五一五,九六六	二〇八,七七一	三三七,四四九	三三九,八〇六	五〇九,九六五	五五五,九〇八	四五五,一一五	三七二,八三八	三二七,三二一	三五四,九五九	三五〇,六一〇	三四七,五〇四	一七四,二九九
一三,六三二	一一七	四,九一九	六七五	五,六四六	三,六四三	四二四	三,一九六	二,五九〇	一七,七〇五	一,四〇三	四,八二〇	三,五三七
四三一	四六〇	四四二	四三七	四二〇	四三五	四〇九	四五二	四三五	四五四	四五六	四三一	四二三
四三一	四六〇	四四一	四四一	四三三	四三六	四一一	四五四	四四二	四三八	四三八	四三三	四二八
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

婚姻離婚及配偶表 (昭和十二年末)

婚 姻 離 婚 年 末 現 在 配 偶 數

總 數	內 地 人	朝 鮮 人	外 國 人	總 數	內 地 人	朝 鮮 人	外 國 人	總 數	內 地 人	朝 鮮 人	外 國 人
二六,九一七	二,三八三	二四,六二二	三三	五,一六三	四九	五,一一〇	三,四八三	一三二,五〇四	七,七六二	五,六七〇	五,六七〇
二,六二九	五三三	二,〇九五	二	四五〇	二	四四八	—	五九,五九七	三三,七六四	四九六,三〇〇	五〇三
五,一四九	三三	五,一四四	—	二二	—	二二	—	一,八八一	二〇六,九六四	四四	四四
七,八二四	一三七	七,六七七	—	二八五	—	二八五	—	五,五六二	三三六,七一九	八八	八八

全羅北道	八、二六〇	一〇七	八、一五三	—	二六九	—	二六七	—	三三九、一三一	七、〇七九	三三一、九三八	一二四
全羅南道	一〇、五三三	一三三	一〇、三九九	—	六三五	五	六〇〇	—	五一五、六一一	九、六二三	五〇五、九〇六	八二
慶尙北道	二三、五八八	二九	一三、四六九	—	五一五	五	五〇〇	—	五三三、二六五	一一、〇五九	五二一、一三六	七〇
慶尙南道	一一、二六一	二七〇	一〇、九九〇	—	六六七	一七	六五〇	—	四五四、六九一	二〇、七七一	四三三、八七〇	五〇
黃海道	一一、九五九	六九	一一、八八八	二	四八九	—	四八九	—	三七六、〇三四	四、七三〇	三七一、一三三	一八一
平安南道	八、七九三	一〇三	八、六九〇	一	三四九	三	三四六	—	三一九、九〇一	八、〇二二	三二一、五四一	三四八
平安北道	一一、三七三	七四	一一、二九二	六	五〇八	—	五〇六	—	三七二、六六四	五、〇六七	三六四、五三〇	三、〇六七
江原道	一一、〇五四	四六	一一、〇〇八	—	四〇五	一	四〇四	—	三五二、〇一三	三、五七六	三四八、四〇九	二八
咸鏡南道	一〇、二二三	三七七	九、八四三	三	三〇五	二	三〇二	—	三五二、三三四	一〇、八三三	三四〇、九九三	四九八
咸鏡北道	四、二九二	二九二	三、九九三	七	六三	二	六一	—	一七七、八三六	二〇、五六四	一六六、六七五	五九七

備考 一、居住者に付法令に依ると否とに拘はらず（内縁關係は有配偶とし妾は之を認めず）調査せり

二、男子を本位として調査せり但し入夫婚姻及婿養子縁組の場合は女子を本位とせり

人口動態

昭和十三年

出生・死

(昭和十三年～1月～9月)
～4月～6月

以下は出生・死の動態調査の結果
(昭和十三年～9月)

出生

5.67	13.98
7.93	30.80
8.62	43.96
7.13	16.45
3.95	14.54
4.19	20.40
3.70	8.65
8.22	33.38
8.50	48.17
7.93	18.51
6.64	22.23
6.92	31.78
6.34	12.28
4.73	29.76
5.07	45.36
4.40	14.13
10.29	34.41
10.56	45.90
10.02	22.58

資料

朝鮮人の出生及死亡（昭和十三年） （四月乃至六月）

國勢調査課

尙一月乃至六月即ち本年上半期に於ける累計は出生 四三九、一一六人、死亡 二二〇、二二三人で自然増加は 二二八、八九三人である。

	出 生		死 亡		自然増加
	男	女	男	女	
四 月	七四、〇七七	三八、三九四	三五、六八三	三三、六七三	一七、七五七
五 月	六二、四〇〇	三三、六三三	二九、七八八	三三、一五四	一七、九七五
六 月	四四、七六六	二四、二〇〇	二〇、五六六	三三、六一五	一七、五八六
計	一八二、二四三	九五、二二六	八六、〇二七	九八、四四二	五三、三八
一月乃至三月計	二五七、八七三	一三三、二七三	一四、七〇〇	※ 一一、七八一	六〇、〇一八
一月乃至六月累計	四三九、一一六	二三八、三八九	二二〇、七七	※ 二二、〇三三	一三、三三六

一月乃至三月計が前回供覧の計數と符合せざるは届出期間を経過して届出られたるものあるに因る。

※男女合して總數に符合せざるは總數中に男女不詳を一人含むに依る。

前年同期の内地に於ける内地人の出生は四四四、七一〇人同じく死亡は二八一、七五六人で自然増加は一六二、九五四人であつた。

今朝鮮に於ける出生及死亡竝に自然増加状態の大體の地位を明かにする爲に之を國勢調査人口と共に内地と比較して見ると次の通りである。

昭和十年國勢調査人口

内地 朝鮮 内地千に付朝鮮	四月乃至六月			自然増加
	出生	死亡		
内地	六九、二五四、一四八	四四四、七一〇	二八一、七五六	一六二、九五四
朝鮮	二二、八九九、〇三八	一八一、二四三	九八、四四二	八二、八〇一
内地千に付朝鮮	三三一	四〇八	三四九	五〇八

内地に於ける出生死亡及自然増加は昭和十二年四月乃至六月、同じく朝鮮は昭和十三年四月乃至六月である。

即ち朝鮮の人口は内地の三割三分一厘なるに比し出生は四割八厘死亡は三割四分九厘。自然増加五割八厘となつて何れも其の割合多く殊に出生の多いことは死亡の多いにも拘らず之を相殺して尙自然増加の大となつて現はれ朝鮮に於ける人口増加力の著しく大となることを示してゐる。

昭和十三年四月乃至六月に於ける朝鮮人の出生及死亡（現在地別）（其の一）

總數	出生		死亡		總數	自然増加	
	男	女	男	女		男	女
全	一八二、四三三	九五、二六	八六、〇二七	九八、四四二	五三、三二八	四五、二四	

京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	府總數	京城府	仁川府	開城府	大田府	群山府	全州府	本浦府
一八,二五五	六,九四五	一二,一六	八,〇五二	一六,四三二	一八,五三三	一六,二三	一四,八一五	一五,二三九	一七,六四〇	一四,五五六	一四,三八九	八,〇七〇	八,九一七	三,二二三	五〇五	四八八	一八七	一一八	一三九	一五六
九五〇七	三六七八	六,二九七	四,三四九	八,五三七	九,八二〇	八,五二八	七,七九六	七,九六九	九,三三六	七,六七二	七,六四三	四,一八四	四,六六八	一,六七〇	二五二	二五〇	九二	六六	六七	七七
八,七四八	三,二六七	五,八一九	三,七〇三	七,八九四	八,七〇二	七,六八五	七,〇一九	七,二七〇	八,四〇四	六,八八四	六,七四六	三,八八六	四,二四九	一,五四三	二五三	二三八	九五	五二	七二	七九
一〇,九八五	四,三九三	五,三六六	四,三九〇	一〇,五五四	九,一九七	六,五〇〇	七,四五〇	一一,一九三	九,五二〇	六,四〇五	四,三五二	六,一三七	二,二四六	三九三	二七四	二一五	一一七	一〇〇	一五七	一五七
五,八八四	二,四七三	二,九九一	二,四一八	四,四九三	五,六八九	四,九五七	三,六〇〇	三,九四三	五,九二八	三,五四五	二,三四〇	三,四六五	一,一二二	二二九	一一八	六五	六九	五七	八九	六八
五,一〇一	一,九二〇	二,三七五	一,九七二	三,六四四	四,八六五	四,二四〇	二,九〇〇	三,五〇七	五,二六五	四,四六三	二,八六〇	二,〇二二	二,七七二	一,〇二五	一七四	一五〇	四八	四三	六八	六八

揚									
羅	清	咸	元	新	鎮	平	馬	釜	大
津	津	興	山	義	南	壤	山	山	邱
府	府	府	府	州	浦	府	府	府	府
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府

同

上 (其の二)

四

月

全	忠	忠	京	全
羅	清	清	畿	鮮
北	南	北	道	道
道	道	道	道	道

出		生		死		亡	
總數	男	女	總數	男	女	男	女
七四、〇七七	三八、三九四	三五、六七三	三三、六八三	一七、七五七	一四、九一六		
六、八八八	三、五五四	三、三三四	三、四〇四	一、八四五	一、五五九		
三、一一三	一、六二〇	一、四九三	一、五四六	八六八	六七八		
四、九八三	二、五〇四	二、四七九	二、〇二七	一、二三八	八八九		
三、三二〇	一、七五二	一、五五八	一、五二八	八四三	六六六		

一四一	一三七	二五九	二四三	二五五	三四二	一三〇一	一六七	五九一	四〇〇	一七五
六八	一三五	一三三	二二九	二二三	一九二	六九二	九〇	三三一	二二五	九八
七三	一〇二	一二七	一二四	一二三	一五一	六〇九	七七	二八〇	一八五	七七
六五	二〇〇	一四三	一七二	一七九	一六七	八一九	一三三	四九七	三三三	二七
三六	一六	七二	一〇三	八五	八七	四九九	七一	二八四	二〇六	七〇
二九	八四	七一	六九	九四	八〇	三七〇	六二	二二三	二二七	四七

再

馬	鑒	大	光	木	全	群	大	開	仁	京	府	咸	咸	江	平	平	黃	慶	慶	全
山	山	邱	州	浦	州	山	田	城	川	城	總	鏡	鏡	原	安	安	海	尙	尙	羅
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	數	北	南	道	北	南	道	南	北	南
四六	二四〇	二四四	七二	七四	五七	四六	六二	一七一	一七九	一一〇五	三三二二	三、三二五	五、五九七	五、五四五	七、一六九	五、九三六	六、〇一四	六、五六八	八、四七八	七、二五一
二五	一二六	七二	四五	三六	二七	二六	二六	八三	一〇一	五八一	一、七三六	一、六八八	三、〇〇二	二、八一九	三、六九九	三、一二〇	三、一五四	三、四三七	四、三七二	三、六八三
二二	一二四	七二	二七	三八	三〇	二〇	三六	八八	七八	五四	一、五七六	一、五三七	二、五九五	二、七二六	三、四七〇	二、八二六	二、八六〇	三、一四一	四、一〇六	三、五六八
五〇	一五九	一〇一	四七	五三	三三	三一	五〇	八六	一一五	七〇三	一、九七〇	一、三二一	二、一〇六	二、八六〇	三、四三六	二、三三九	二、一六五	三、一七二	三、八四七	三、〇五二
二七	九二	六〇	二五	二八	一九	一八	二八	五六	六九	三八八	一、二一九	七〇三	一、二七三	一、五〇六	一、八〇九	一、一九〇	一、二〇九	一、七〇七	二、一〇三	一、六六四
一三	六八	四二	二三	二五	一四	一三	二二	三〇	四六	三二五	八五一	六〇八	九三三	一、三五四	一、六一七	一、〇四九	九五六	一、四六五	一、七四四	一、三八八

揚

羅	清	威	元	新	鎮	平
津	津	興	山	義	南	壤
府	府	府	府	州	浦	府

同

上 (其の三)

五二	一四三	一一〇	一〇五	九三	九八	五六
二七〇	八一	四八	五九	四六	五一	三三
二四一	六二	六二	四六	四七	四七	二三
二六八	五六	五六	五三	四七	四四	一八
一五八	二九	二七	三三	二五	三〇	八
一一〇	二七	二九	二〇	二三	一四	一〇

黃	慶	慶	全	全	忠	忠	京	全
海	尙	尙	羅	羅	清	清	畿	鮮
道	南	北	南	北	南	北	道	道

出		生		死		月	
總數	男	女	總數	男	女	男	女
六二四〇〇	三三、六三三	二九、七七八	三三、二五四	一七、九七五	一五、一七九		
六、三八一	三、二八六	三、〇九五	三、五四九	一、八八六	一、六六三		
二、三〇七	一、二一〇	一、〇九七	一、五六七	八七〇	六九七		
四、四一八	二、三二〇	二、一〇八	一、七二六	九七六	七五〇		
二、九四四	一、五八一	一、三六三	一、四八二	八一九	六六三		
五、九五九	三、一〇六	二、八五三	二、八九二	一、六三三	一、二五九		
六、〇二六	三、三三二	二、七九五	二、四九一	一、八五四	一、六三七		
五、七二二	二、九八三	二、七三九	三、〇八一	一、六六五	一、四一六		
五、二二六	二、六八六	二、五三〇	二、〇六七	一、一三五	九三二		

揚				再												咸	咸	江	平	平
元	新	鎮	平	馬	釜	大	光	木	全	群	大	開	仁	京	府	鏡	鏡	原	安	安
山	義	南	壤	山	山	邱	州	浦	州	山	田	城	川	城	總	北	南	道	北	南
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	數	道	道	道	道	道
六八	七八	一〇四	四三三	五一	一七九	一三〇	五七	四〇	四四	三二	七二	一六五	一六八	一〇八七	二九一九	二五六七	四九九三	四八一〇	五七四八	五三二九
三五	四七	六〇	二二二	二九	八九	六八	二七	二七	一九	一六	三七	九二	七七	五五七	一五二八	一三三〇	二五六九	二五七九	二九九八	二七五三
三三	三三	四四	二二一	三三	九〇	六二	三〇	二三	二五	一五	三五	七三	九一	五三〇	一四〇一	一二三七	二四二四	二二三二	二七五〇	二五六六
五二	四七	五三	二九一	四七	一六八	二三	三四	五四	三三	三九	三〇	七八	一三四	七八〇	二〇九六	一三九五	二〇九九	三三六二	三八七一	二六七二
二九	三三	三三	一六二	二五	九六	七八	二四	三四	一八	二三	一八	四二	七二	四一八	一、二五八	七四二	一、二六五	一、七四三	二、〇七〇	一、四二七
三三	二六	三三	二二九	三三	七二	四四	一〇	二〇	一五	二七	二二	三六	六二	三六二	九三八	六五三	九三四	一、五一九	一、八〇一	一、二五五

咸興府 九八
清津府 六九
羅津府 四六

同

上 (其の四)

六

月

出

生

死

亡

總數

男

女

總數

男

女

全 鮮 道 四四、七六六
京 畿 道 四、九八六
忠 清 北 道 一、五二五
忠 清 南 道 二、七二五
全 羅 北 道 一、七九八
全 羅 南 道 三、三二一
慶 尙 北 道 四、〇一八
慶 尙 南 道 三、九三三
黃 海 道 三、五八五
平 安 南 道 三、九八四
平 安 北 道 四、七三三
江 原 道 四、二〇一
咸 鏡 南 道 三、七九九

四四、七六六	二四、二〇〇	二〇、五六六	三三、六一五	一七、五八六	一五、〇二九
四、九八六	二、六六七	二、三二九	四、〇三二	二、一五三	一、八七九
一、五二五	八四八	六七七	一、二八〇	七三五	五四五
二、七二五	一、四八三	一、二二三	一、六二三	八七七	七三六
一、七九八	一、〇一六	七八二	一、三九〇	七五七	六三三
三、三二一	一、七四八	一、四七三	二、一九三	一、一九六	九九七
四、〇一八	二、二二七	一、八〇一	三、一二六	一、七三三	一、四八四
三、九三三	二、二一八	一、八一五	二、九四四	一、五八五	一、三五九
三、五八五	一、九五六	一、六二九	二、二六八	一、二五六	一、〇二二
三、九八四	二、〇九六	一、八八八	二、五三九	一、三三六	一一〇三
四、七三三	二、五三九	二、一八四	三、八九六	二、〇四九	一、八四七
四、二〇一	二、二七四	一、九二七	三、三九八	一、八〇八	一、五九〇
三、七九九	二、〇七二	一、七七七	二、二〇〇	一、二〇七	九九三

咸鏡北道	府總數	京城府	仁川府	開城府	大田府	群山府	全州府	木浦府	光州府	大邱府	釜山府	馬山府	平壤府	鎮南浦府	新義州府	元山府	咸興府	清津府	羅津府
再																			
二二七八	二六八六	一〇三二	一五八	一五二	五三	四一	三八	四二	四六	二六	一七二	七〇	三五八	九五	六七	七〇	六八	七〇	三九
一二六六	一四一四	五三三	七四	七五	二九	二四	二二	一四	二六	七五	九六	三六	二〇二	五〇	三八	三五	四一	三三	一四
一二三三	一二七二	四八九	八四	七七	二四	一七	一七	二八	二〇	五一	七六	三四	一五七	四五	二九	三五	二七	三七	二五
一六四六	二二七一	七六三	一四四	二〇	三五	四七	三四	五〇	三六	二一〇	一七〇	三六	二七〇	五八	六六	五八	三八	八八	二二
八九五	一二八八	四二五	七八	五八	一九	二九	二〇	二七	二二	六八	九七	一九	一三九	二七	三七	四一	三三	五二	二一
七五一	九八三	三四八	六六	五二	一六	一八	一四	三三	四五	四二	七三	一七	二二二	三一	三九	二五	三〇	三〇	一〇

同

上 (其の五)

一月乃至六月累計

出生死亡

總數 男 女 總數 男 女

全	鮮	四三九、二一六	三三八、三八九	二二〇、七七七	※	二二〇、二三三	一二三、三三六	九六、八八六
京	畿	四四、一一一	三三、七二四	二二、三八七		二三、〇二五	一二、三四九	一〇、六七六
忠	清	一七、四二八	九、一五五	八、二六三		九、七七六	五、四〇一	四、三七五
忠	清	二九、四九三	一五、三六五	一四、一二八		一二、三三七	六、八〇〇	五、五三七
全	羅	二二、一三六	一一、一五二	九、九八四		一〇、一〇九	五、五八〇	四、五二九
全	羅	四一、五一八	二二、三七六	二〇、一四二		一七、〇六四	九、三六七	七、六九七
慶	尙	四七、九九一	二五、一九五	二三、七九六		二三、九八三	一二、三六二	一〇、六二二
慶	尙	四一、九三三	二二、六四九	二〇、二八三		一九、六三六	一〇、四〇六	九、二三〇
黃	海	三五、七五八	一八、五二八	一七、二三〇		一五、〇〇一	八、一九三	六、八〇八
平	安	三四、三八〇	一七、七九九	一六、五八一		一六、三三九	八、七八九	七、五三〇
平	安	三九、一四〇	二〇、三四九	一八、七九一		二二、〇四五	一一、五七二	一〇、四七三
江	原	三三、二九八	一七、四四八	一五、八五〇	※	一九、五三二	一〇、四二四	九、一〇七
咸	鏡	三四、五〇一	一八、一〇五	一六、三九六		一三、九〇七	七、五六五	六、三四二
咸	鏡	一八、四四〇	九、五四四	八、八九六		八、四八九	四、五二八	三、九六一
府	總	二二、一八八	一一、〇七三	一〇、一一五		一二、六四三	六、九六九	五、六七四
京	城	七、七二七	四、〇二七	三、七〇〇		四、八三九	二、五八八	二、二五一

再										掲									
仁川府	一、二二一	六〇四	六〇七	七四九	四二一	三八	三六	二二七	三六	新義州府	六三九	三二六	三三三	三六六	一八八	一七八	一五八	一五七	一五七
開城府	一、〇二四	五三四	四九〇	四九三	二七六	二三八	二三八	二二七	二二七	元山府	五二九	二八八	二四一	三八八	二二二	二二二	一五八	一五八	一五八
大田府	四七二	二三八	二四四	二三九	一三八	二四一	二三五	一三三	一三三	咸興府	六〇八	三三九	二八九	二八九	一六七	一六七	一三二	一三二	一三二
群山府	三〇四	一六三	一四一	二二五	一三三	二〇六	二〇六	一一七	一一七	清津府	六四九	三七三	二七六	三六七	二二三	二二三	一五四	一五四	一五四
全州府	三五五	一六二	一九三	二〇六	一一七	二〇六	二〇六	一一七	一一七	羅津府	二八一	一三三	一四八	一四三	七二	七二	七一	七一	七一
木浦府	三九九	二〇七	一九二	二六〇	一四二	二六〇	二六〇	一四二	一四二										
光州府	四二六	二二三	一九三	一九九	二二〇	一九九	一九九	二二〇	二二〇										
大邱府	一、〇四九	五六七	四八二	六四六	三七六	三七六	三七六	二七〇	二七〇										
釜山府	一、六五四	八七三	七八一	一、〇七八	六〇三	六〇三	六〇三	四七五	四七五										
馬山府	三九二	二〇三	一八九	二六七	一五〇	一五〇	一五〇	一一七	一一七										
平壤府	二、七五二	一、四五一	一、三〇一	一、五七二	八七六	八七六	八七六	六九六	六九六										
鎮南浦府	七二七	三八二	三三五	三三七	一八〇	一八〇	一八〇	一五七	一五七										

※男女合して總數に符合せざるは總數中に男女不詳を一人含むに依る。

四月乃至六月計と曩に公表せる一月乃至三月計とを合計して一月乃至六月累計に符合せざるは届出期間を経過して届出られたるものあるに依る。

府は昭和十三年管現在とす、昭和十三年一月一日以降六月末日迄に府の區域の變動したるもの左の如し、平壤府に大同郡大同江、古平、龍山、林原及西川各面の一部を夫々編入（四月一日）

資料

朝鮮人の出生及死亡

(昭和十三年七月乃至九月)

國勢調査課

昭和十三年より新に實施せる朝鮮人口動態調査規則に基き調査したる昭和十三年七月乃至九月の朝鮮に於ける朝鮮人の出生及死亡の概數は次表の如く即ち出生は男八五、一六〇人、女七四、三一〇人計一五九、四七〇人、死亡は男五二、二六三人、女四四、二一六人計九六、四七九人で兩者の差増即ち人口の自然増加は六二、九九一人である。之を前期即ち四月乃至六月の三箇月間に於ける出生一八一、二四三人、死亡九八、四四二人自然増加八二、八〇一人に比較すると出生は二一、七七三人、死亡は一、九六三人、自然増加は一九、八一〇人を何れも減少した。

尙一月乃至九月迄に於ける累計は出生六〇〇、二九〇人、死亡三〇七、四九六人で自然増加は二九二、七九四人である。

31

七 月	出 生			死 亡			自然増加
	總 數	男	女	總 數	男	女	
	四八、九七〇	二六、四九九	二二、四七一	三二、五三四	一七、〇九七	一四、四三七	一七、四六六

八 月	五七、五〇七	三〇、七二二	二六、七九五	三三、一九二	一八、〇〇五	一五、一八七	二四、三二五
九 月	五三、〇一三	二八、〇三九	二四、九八四	三二、七五三	一七、一六一	一四、五九二	二二、二六〇
計	一五九、四七〇	八五、一六〇	七四、三三〇	九六、四七九	五三、二六三	四四、二六六	六二、九九一

一月乃至三月 計	二五七、八七三	一三三、一七三	一二四、七〇〇 ※	一二、七八一	六〇、〇一八	五一、七六三	二四六、〇九二
四月乃至六月 計	一八一、三四三	九六、二六六	八六、〇三七	九六、四四三	五三、三三八	四五、二四四	八三、八〇一
一月乃至九月累計	六〇〇、二九〇	三三四、五九一	二五五、六九六 ※	三〇七、四九六	一六六、〇六六	一四一、四二九	三三二、七九四

一、一月乃至三月計及四月乃至六月計が前回供覧の計數と符合せざるは届出期間經過して届出られたるものあるに因る。

二、男女合して總數に符合せざるは總數中男女不詳一人含むに因る。

前年同期の内地に於ける内地人の出生は四八五、四八三人同じく死亡は三二二、九〇四人で自然増加は一六二、五七九人であつた。

今朝鮮に於ける出生及死亡並に自然増加狀態の大體の地位を明かにする爲に之を國勢調査人口と共に内地と比較して見ると次の通りである。

昭和十年國勢調査人口		七 月 乃 至 九 月			自 然 増 加	
内地	地	出	生	死	増	加
六九、二五四、一四八		四八五、四八三		三三二、九〇四	一六二、五七九	
二二、八九九、〇三八	朝鮮	一五九、四七〇		九六、四七九	六二、九九一	
三三二	内地に於ける出生、死亡及自然増加は昭和十二年七月乃至九月、同じく朝鮮は昭和十三年七月乃至九月である。	三三八		二九八	三八七	

右の如く朝鮮の人口は内地の三割三分一厘なるに對し本期間の出生は三割二分八厘、死亡は二割九分八厘とな

り何れも其の割合僅少であるが殊に死亡が少い爲自然増加の割合は著しく大きくなつてゐる。

昭和十三年七月乃至九月に於ける朝鮮人出生及死亡（其の一）

道名	七月乃至九月計				七月			
	出生		死亡		出生		死亡	
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男
全 鮮	一五九、四七〇	八五、一六〇	七四、三三〇	九六、四七九	五三、二六三	四四、二一六	四八、九五〇	二六、四三九
京 畿 道	一九、五九四	一〇、三六五	九、二三九	一一、三六九	六、〇三三	五、三三六	五、九四一	三、一七一
忠 清 北 道	六、三三六	三、五一五	二、八二一	三、八七一	二、一一五	一、七五六	一、六九七	九六四
忠 清 南 道	一一、五八六	六、三三八	五、二三八	六、〇二二	三、二七四	二、七三八	三、三三八	一、七八九
全 羅 北 道	七、三三八	四、〇八四	三、三〇四	四、四九四	二、五三八	一、九六六	二、二六〇	一、二九〇
全 羅 南 道	一一、四四八	六、七五八	五、六九〇	七、六三七	四、二二六	三、四四二	三、八八二	二、一六〇
慶 尙 北 道	一五、六六五	八、六〇四	七、〇六一	一〇、九三八	五、九三三	五、〇二六	四、三三二	二、四三三
慶 尙 南 道	一六、〇一七	八、五八八	七、四四九	九、八九四	五、三三四	四、五六〇	四、九〇三	二、六五八
黃 海 道	一三、一二四	六、八三四	六、二九〇	七、四七〇	三、九〇八	三、五六二	四、〇九九	二、一五一
平 安 南 道	一三、四九五	七、〇三九	六、四五六	六、六六一	三、六三四	三、〇六七	四、三三七	二、二五六
平 安 北 道	一五、七八二	八、一一七	七、六六五	八、三六二	四、四五九	三、九〇三	五、〇六五	二、六二九
江 原 道	一一、五八七	六、一五一	五、四三六	七、七九七	四、三三八	三、四六九	三、七〇四	二、〇二一
咸 鏡 南 道	一〇、六〇九	五、六四九	四、九六〇	七、四七六	四、一一九	三、三五九	三、五三四	一、八八一
咸 鏡 北 道	五、六四九	三、一四八	二、八〇一	四、四六六	二、四〇三	二、〇六三	一、九三八	一、〇三四
總 計	一五九、四七〇	八五、一六〇	七四、三三〇	九六、四七九	五三、二六三	四四、二一六	四八、九五〇	二六、四三九
男	八五、一六〇	七四、三三〇	九六、四七九	五三、二六三	四四、二一六	四八、九五〇	二六、四三九	一四、四三七
女	七四、三三〇	九六、四七九	五三、二六三	四四、二一六	四八、九五〇	二六、四三九	一四、四三七	一、八三七

再										揭									
府	京	仁	開	大	群	全	本	光	大	益	馬	平	鎮	新	元	咸	清	羅	總
府	城	川	城	田	山	州	浦	州	邱	山	山	壤	南	義	山	興	津	津	數
八、五五〇	三、三八七	四、五四四	四、三六六	一、七三三	二、九	一、四一	一、四九	一、八四	一、七四	五、五四	一、四九	一、二九	二、六五	二、四一	二、〇三	三、三九	一、九七	八、七	
四、五五五	一、七四四	二、四七	二、三三	九一	七	八六	七	一〇一	一、八	二、八五	八五	六、四五	一、九	一、三	二、六	二、九	一、〇三	四、三	
三、九九五	一、六三	二、〇七	一、九三	八二	四八	五五	七二	八三	一、七六	二、六九	六四	五、七四	二、二六	一、〇八	七六	一、〇	九四	四、五	
六、五九七	二、三八七	四、〇三	三、〇三	一、三三	一、三八	九五	一、二四	一、三三	三、八	五、九二	一、〇三	八、八二	一、九八	一、九〇	一、八六	二、三三	二、一一	八、九	
三、五六三	一、二〇〇	二、三六	一、五三	七七	七五	五五	六九	六三	一、六	三、四五	五四	四、七四	二、二八	一、〇三	二、〇九	二、〇	一、〇	四、四	
三、〇三四	一、〇八七	一、七	一、五〇	五六	五三	四〇	四四	六〇	一、九	二、四七	四八	四、〇八	八〇	八八	七七	一、〇三	一、〇一	四、五	
二、六九二	一、〇三〇	一、五七	一、三一	五四	四四	四四	四八	五六	一、三九	一、九五	五〇	三、六	八二	七四	六一	七三	六二	二、七	
一、四一〇	五三九	八七	七八	二九	二四	二二	三三	三五	六四	九七	二四	一、九八	四三	七	三八	三九	三三	一、二	
一、二八二	四九一	七〇	五三	五五	二〇	三三	二五	二二	五	九八	二六	一、八八	四〇	三七	三三	三四	二九	一、五	
二、〇六四	七三六	一、三七	一、〇二	四七	四六	二七	八	四七	一、一〇	一、五九	三九	二、八二	六	五三	四七	四四	五九	二、五	
一、一四八	三八七	八三	五九	三三	三三	一七	二	三三	六六	九四	二七	一、四六	四二	五	三〇	二六	二八	一、七	
九、六	三、四九	五、四	四、三	一、四	三、三	一、〇	一、五	三、五	五、四	五、四	二	一、五六	二、四	二、六	一、七	一、八	三、一	八	

同上 (其一二)

道名

總數 男 女 總數 男 女 總數 男 女 總數 男 女

出生 死亡 出生 死亡 出生 死亡 出生 死亡

八月 九月

咸鏡北道	一、八七九	九九六	八八三	一、四八一	七九一	六九〇	二、一四三	一、二三八	一、〇二四	一、四九七	七九六	七〇一
咸鏡南道	三、四九三	一、八九七	一、五九六	三、四一〇	一、三〇五	一、一〇五	三、五八三	一、八七二	一、七一一	三、〇四三	一、六九三	一、三五〇
江原道	四、四九九	三、一四三	三、〇〇七	二、五五八	一、四三〇	一、一三八	三、七三四	一、九八八	一、七四六	三、七二〇	一、四七八	一、二二三
平安北道	五、五五二	二、八三九	二、七三三	二、七六三	一、四三八	一、三三四	五、一六五	三、六五九	二、五〇六	二、五二五	一、三六九	一、一四六
平安南道	四、七六六	二、五二九	二、二五七	二、〇七〇	一、一五九	九一	四、三三三	二、三五四	二、〇九八	二、四四一	一、二九八	一、一一三
黃海道	四、九六八	二、六三三	二、三四五	二、七四	一、四八九	一、二三三	四、〇五七	二、〇六〇	一、九九七	二、三三三	一、二七六	一、一五七
慶尙南道	五、八〇八	三、〇八〇	二、七二八	三、五七一	一、九三三	一、六八八	五、三〇六	二、八三〇	二、四七六	三、〇八一	一、六四二	一、四三九
慶尙北道	五、八七三	三、二六一	三、六一一	三、七九八	二、〇五三	一、七四五	五、四四一	二、九〇八	二、五三三	三、六八四	一、九八〇	一、六九四
全羅南道	四、六九四	二、五五六	二、一六八	二、七〇五	一、四八〇	一、三三五	三、八七三	二、〇七三	一、八〇〇	二、三七一	一、三三七	一、〇六四
全羅北道	三、七〇八	一、四七〇	一、二三八	一、五八〇	八六三	七七七	二、三四〇	一、三三四	一、〇二六	一、四一七	八七七	六〇〇
忠清南道	四、一九八	二、六八九	一、九〇九	二、三四三	一、二二三	一、〇三〇	四、一四〇	二、三五〇	一、八九〇	一、八〇五	九八三	八三三
忠清北道	三、四六六	一、三四四	一、〇七三	一、四四一	七七六	六五五	三、二二三	一、三〇七	一、〇〇六	一、二四三	六三三	五六九
京畿道	六、六八四	三、七二六	三、三六八	三、八四九	三、〇五五	一、七九四	六、六六九	三、四七八	三、一九一	三、六四四	一、九七九	一、七〇五
全鮮	五七、五〇七	二六、七二二	二六、一九九	三三、一九三	一八、〇〇五	一五、一八七	五三、〇二三	二八、〇九	二四、六八四	三、七五三	一七、一六一	一四、五九二

揭														再				
府總數	京城府	仁川府	開城府	大田府	蔚山府	全州府	本浦府	光州府	大邱府	釜山府	馬山府	平壤府	鎮南浦府	新義州府	元山府	咸興府	清津府	羅津府
二、九一	一、三三七	一四三	一四四	五七	四三	五三	五九	五九	一八	一九	四	四七	九六	九四	七五	六三	六八	三
一、六三四	六五三	八一	七八	三	二六	三	四	三	六	九七	二五	二四	四	四	八	三四	八	一七
一、三六七	五五五	六三	六	二五	一七	二〇	二五	二九	六	九四	一六	一八	五一	四〇	七	元	三〇	一六
二、二〇三	七五三	二九	一〇六	八	四	三一	四	四	一〇九	三八	三	二七	六	七六	六	五	八〇	四三
一、一七一	五九七	六	四七	一五	二	一七	二五	二四	五	一九	一三	一五七	四	四〇	三	三	四三	二〇
一、〇三三	五五五	六	五九	三	三	一四	一九	一九	三	八九	一九	二五	二五	三六	三〇	三	三七	二
二、八六七	一、一五〇	一五四	一五一	六二	三	四四	四	六九	二七	一六八	五八	四〇六	八七	七	六	九	六八	二七
一、五三一	五九三	七九	七七	三〇	二	三	二〇	三六	六	九一	三六	二〇三	五二	四二	五〇	四六	三	一三
一、三四六	五五七	七五	七四	三	二	一	三	三	四九	七七	三	二〇三	三	三	一六	四七	三	一四
二、三〇	七九九	一三七	九五	四八	三八	三七	三	三	一九	三三	三	三八	六四	六一	七六	一四	七	三
一、二四四	四一六	七五	四七	二九	二	二	二	一六	五七	一三	一四	一七一	三	三七	四六	六二	三九	七
一、〇六	三三	六三	四八	一九	二七	一六	一一	一六	六	九三	一七	一五七	三一	二四	三〇	五二	三三	一五

同

上 (其の三)

一月 乃 至 九月 月 累 計

道 名

總 數

男

女

總 數

男

女

出

生

死

亡

全	京	忠	忠	全	全	慶	慶	黃	平	平	江	咸	咸	府	京
鮮	畿	清	清	羅	羅	尙	尙	海	安	安	原	鏡	鏡	總	城
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	數	府
六〇〇,二九〇	六三,九〇六	二二,七八四	四一,一三五	二八,五七七	五四,一五一	六三,八五九	五八,二三三	四八,九五三	四七,九五八	五五,〇七八	四四,九七二	四五,二〇七	二四,四八七	三〇,〇五〇	一一,二一七
三二四,五九一	三三,二二六	一一,六九六	二二,七四四	一五,三三二	二六,二六一	三三,九三二	三〇,三七一	二五,四〇五	二四,八八六	二八,五五一	二三,六四六	二三,八一七	一二,七四六	一五,八三六	五,八七三
二八五,六九九	三〇,六九〇	一一,〇八八	一九,三九一	一三,二五六	二五,八九〇	二九,九二八	二七,八五二	二三,五四八	二三,〇七二	二六,五二七	二二,三三六	二二,三九〇	一一,七四一	一四,二二四	五,三三四
※											※				
三〇七,四九六	三四,四四七	一三,六八一	一八,三八二	一四,六四八	二四,七六四	三三,九八八	二九,六四〇	二三,五一七	二三,〇六七	三〇,五一四	二七,四〇九	二二,四二八	一一,三〇一	一九,三四六	七,一五四
一六六,〇六六	一八,四三三	七,五三二	一〇,〇九三	八,一三三	一三,六二〇	一八,三三五	一五,八〇五	一一,一二三	一二,四四八	一六,〇九五	一四,八〇五	一一,七〇八	六,九六〇	一〇,五九八	三,八〇九
一四一,四二九	一六,〇二五	六,一五〇	八,二八九	六,五一六	一一,一四四	一五,六六三	一三,八三五	一〇,三九五	一〇,六一九	一四,四一九	一二,六〇三	九,七二〇	六,〇五一	八,七四八	三,三四五

朝鮮人の出生及死亡(昭和十三年十月乃至十二月)

國勢調査課

朝鮮人口動態調査規則に基き調査したる昭和十三年十月乃至十二月の朝鮮に於ける朝鮮人出生及死亡の概数は別紙の如く即ち出生は男一〇〇、一五九人、女八九、六五八人、計一八九、八一五人、死亡は男四一、六五五人、女三三、九九二人、計七五、六四七人で兩者の差増即ち人口の自然増加は一一四、一六八人である。

之を前期即ち昭和十三年七月乃至九月の出生一五九、四七〇人、死亡九六、四七九人、自然増加六二、九九一人に比すると出生に於て三〇、三四五人を増加し死亡に於て二〇、八三二人を減少したる結果自然増加に於ては五一、一七七人を増加した。尙昭和十三年一月乃至十二月一箇年の累計は出生七九二、九九六人、死亡三八四、一九六人、自然増加四〇八、八〇〇人である。

	出 生		死 亡		自然増加
	男	女	男	女	
十 月	五三、九九四	二九、一〇八	二四、八八六	二三、六一	一三、〇〇六
十 一 月	五九、六三	三二、七三七	二七、九四六	二四、四三	一三、五〇六
十 二 月	七六、三八	三九、三四	三六、八二四	二七、五四	一〇、九四六
計	一八九、八二五	一〇〇、一五九	八九、六五六	七五、六四七	一一、四四二
十一月乃至十二月累計	七三、九六六	四二、五〇八	三七、四八八	二五、六四七	一、一四一
一月乃至十二月計と前回供覧の一月乃至九月の累計とを合計して一月乃至十二月累計に符合せざるは届出期間を経過して届出せられたるものあるに因る。					

再										掲									
府總數	京城府	仁川府	開城府	大田府	群山府	全州府	木浦府	光州府	大邱府	釜山府	馬山府	平壤府	鎮南浦府	新議州府	元山府	咸興府	清津府	羅津府	
九、八〇四	三、九五四	五、六七七	五、五四	一、七七一	二、九	一、五四	一、六八	三、三八	八、〇三	八、〇三	一、八六	一、一七〇	三、三三	二、七七	二、六四	三、〇四	三、三	八、三	
五、一〇八	一、七六五	二、八〇	二、七五	一、〇〇	六、六	八、八	九、四	一、二〇	四、二九	四、三五	九、三	五、九五	一、八三	一、三九	一、四〇	一、七〇	二、二	四、五	
四、六九六	一、六三九	二、八七	二、五九	七、七	六、三	六、六	七、四	一、〇八	三、八四	三、九五	九、三	五、七五	一、四〇	一、三八	一、二四	一、五四	二、二	三、八	
五、二〇九	一、八一三	二、九一九	二、三七	八、四	八、一	七、四	九、五	八、〇	四、八〇	四、五一	七、五	六、〇一	一、六一	一、二二	一、六七	一、七〇	一、七八	六、二	
二、八九七	九、〇	一、五八	一、〇九	五、七	五、五	四、三	五、六	四、七	二、五四	二、四六	四、五	三、二〇	八、九	六、二	二、一四	一、〇九	二、〇八	三、七	
二、三二二	八、三三	一、四一	二、一八	二、七	二、八	三、二	三、九	三、三	三、三六	三、〇五	三、〇	二、七一	七、二	五、〇	五、五	六、一	七、〇	二、四	
三、二八二	一、一〇七	二、〇三	一、七四	六、七	四、〇	四、八	五、三	七、八	二、五一	二、五〇	七、三	四、三八	一、二〇	九、五	九、九	一、〇七	七、三	二、八	
一、六八八	五、八三	九、五	九、二	四、〇	一、五	三、〇	三、四	三、九	一、二〇	二、三八	三、三	二、〇八	五、五	五、〇	五、〇	六、五	三、七	一、五	
一、五九四	五、五四	一、〇八	八、二	二、七	二、五	一、八	一、八	三、九	一、三一	一、三三	四、〇	二、三〇	五、五	四、五	四、九	四、三	三、六	一、三	
一、七九〇	五、九六	一、一二	七、八	二、八	三、四	三、二	三、〇	七、五	一、八八	一、七七	二、八	一、九九	五、八	三、九	六、二	五、五	六、〇	二、二	
九、八八	三、二	六、〇	三、九	一、九	一、九	九	一、八	三、三	七、四	九、六	一、六	二、〇七	三、六	二	四、六	六、八	三、四	一、三	
八、〇三	二、六五	五、三	三、九	九	一、五	二、三	二、三	一、三	八、四	八、一	二、三	九、三	二、三	一、八	一、五	二、七	二、六	八	

同

上

(其の二)

		十 月				十 二 月			
		出 生		死		出 生		死	
		總 數	男 女	總 數	男 女	總 數	男 女	總 數	男 女
全 鮮		五九,六三三	三二,七七七	二七,九四六	二四,四五二	一三,五〇六	一〇,九四六	七六,一三八	三九,三四四
京 畿 道		六,九〇〇	三,六四五	三,二八五	二,七八四	一,五〇四	一,二八〇	八,五三六	四,四三五
忠 清 北 道		二,三九五	一,二六五	一,一三〇	一,〇六七	五八四	四八三	二,九九〇	一,五四九
忠 清 南 道		四,〇七九	二,二三八	一,八四一	一,四七〇	八二二	六五八	五,五七六	二,九〇九
全 羅 北 道		二,八三六	一,五三三	一,三〇四	一,三五六	七四六	六〇〇	三,九三三	二,一三七
全 羅 南 道		四,二〇三	二,二四八	一,九五四	一,七八九	一,〇一九	七七〇	六,三一一	三,三二〇
慶 尙 北 道		六,〇〇四	三,二五三	二,七五一	二,八二四	一,五〇七	一,三三七	八,三八七	四,三五八
慶 尙 南 道		六,七四七	三,四九六	三,二五一	二,四四〇	一,三四四	一,〇九六	八,七二四	四,四〇八
黃 海 道		五,一三〇	二,六四〇	二,四八〇	一,七四三	九三六	八〇七	六,〇一四	三,〇三四
平 安 南 道		四,五四三	二,三六二	二,一八一	一,五六六	九二二	七四四	五,三二三	二,七四一
平 安 北 道		五,六五八	三,〇二五	二,六三三	二,三九四	一,三四二	一,〇五三	六,五六一	三,三四七
江 原 道		四,六〇二	二,五〇七	二,〇九五	二,一一九	一,一七一	九四八	六,二二〇	三,二五四
咸 鏡 南 道		四,三三六	二,三二一	二,〇五五	一,八五六	一,〇六〇	七九六	五,〇四九	二,五五八
咸 鏡 北 道		二,三三一	一,二二五	一,〇二六	九五四	五六九	三八五	二,五三四	一,二七四
府總數		三,一四八	一,六八四	一,四六四	一,六一七	九〇〇	七二七	三,三七四	一,七三六
京城府		一,〇八五	五六一	五三四	六二一	三三九	二九二	一,二〇二	六二一
仁川府		一八六	九〇	九六	八一	四一	四〇	一七八	九五
開城府		一七四	九五	七九	七一	三二	三九	一八六	八八
再									

全
鮮

揭

大田府 群山府 全州府 木浦府 光州府 大邱府 釜山府 馬山府 平壤府 鎮南浦府 新義州府 元山府 咸興府 清津府 羅津府

同 上 (其の三)

死 十二月 亡

總數

男

女

出 一月乃至十二月 生

總數

男

女

死 十二月 累計 亡

總數

男

女

二七、五四

一五、一四三

一三、四四一

七九二、九九六

四二六、五〇八

三七六、四八八

※三八四、一九六

二〇八、三七七

一七五、八六八

三〇

一五

一五

二〇

一一

九

二五

一五

一〇

八〇

四〇

四〇

四九

三一

一八

七〇

三四

三六

一〇一

四七

五四

六二

四二

三二

九六

五八

三八

七五

四五

三〇

四六

三九

二七

九〇

四五

四五

九三

四七

四六

三六

一八

一八

八九

四二

四七

九六

五三

四三

五〇

二六

二四

一七

七五

四二

三五四

一九五

一九九

一五〇

八七

六三

三八八

一九二

一九六

四九

三〇

一九

一八

二二

七

六五

三一

三四

二七五

一四六

一九

一三〇

六七

六三

二九五

一五一

一四四

二六七

一六一

一〇六

一六一

九七

六四

二八五

一三八

一四七

七四

四二

三三

一六

七

九

七六

四〇

三六

五三

二七

二六

四一

二五

一六

六三

三三

三〇

四七

二九

一八

三五

二〇

七

五三

三〇

二三

五三

二八

二五

三三

一六

七

五三

三〇

二三

四七

二九

一八

三五

二〇

七

五三

三〇

二三

五三

二九

一八

三五

二〇

七

五三

三〇

二三

五三

二九

一八

三五

二〇

七

五三

三〇

二三

五三

二九

一八

三五

二〇

七

五三

三〇

二三

京畿道	三、〇七〇	一、七一九	一、三五二	八五、七九〇	四四、七七七	四一、〇二三	四三、〇二三	二三、一三三	一九、八九〇
忠清北道	一、一六八	六二一	五五七	三一、一三四	一六、五八七	一四、五四七	一六、九七二	九、二八九	七、六八三
忠清南道	一、六六一	九〇一	七六〇	五四、七五一	二九、〇八三	二五、六六八	二三、〇三三	一二、六六三	一〇、三五九
全羅北道	一、五五一	七八〇	五七一	三七、九八三	二〇、五〇五	一七、四七八	一八、五六一	一〇、三三四	八、三二七
全羅南道	二、〇五七	一、一五一	九〇六	六八、八八四	三六、一九二	三一、六九二	三〇、四八三	一六、八五四	一三、六三九
慶尙北道	二、九三三	一、五七〇	一、三五三	八四、四九九	四四、九五二	三九、五四七	四二、七九三	二三、一〇四	一九、六八九
慶尙南道	二、六〇二	一、四一五	一、一八七	七九、八〇二	四一、六二一	三八、一八一	三七、三八八	二〇、〇〇四	一七、二八四
黃海道	二、二二〇	一、三三〇	九九〇	六四、五五二	三三、五〇五	三一、〇四七	二八、三九九	一五、二五八	一三、〇八一
平安南道	二、二九	一、一一七	一、〇二二	六二、八二二	三三、六〇四	三〇、二二七	二八、四六七	一五、三七八	一三、〇八九
平安北道	二、七六〇	一、五三三	一、二五七	七二、九三六	三七、八六三	三五、〇七三	三七、六九九	二〇、〇九一	一七、六〇八
江原道	二、五七七	一、四〇〇	一、一七七	五九、七八五	三一、五三九	二八、二四六	二四、二四八	一八、五四七	一五、七〇〇
咸鏡南道	一、九八四	一、一三八	八四六	五八、七〇九	三〇、八七九	二七、八三〇	二七、二六七	一五、〇〇七	一二、二六〇
咸鏡北道	一、〇五二	五七八	四七四	三一、三五〇	一六、四〇一	一四、九四九	一六、〇四五	八、六七六	七、三六九
府總數	一、八〇二	一、〇〇九	七九三	四〇、四三八	二一、二九七	一九、一四一	二四、七〇〇	一三、五八七	一一、一一三
京城府	六六六	三三〇	二七六	一四、八四〇	七、七七二	七、〇六八	九、〇〇九	四、八一四	四、一九五
仁川府	一〇六	五七	四九	二、二六一	一、一四八	一、一一三	一、四五八	八一	六四七
開城府	六八	三八	四〇	一、九九五	一、〇四八	九四七	一、〇二五	五三九	四八六
大田府	二九	一六	一三	八三七	四三三	四〇四	四三七	二七一	一八六
群山府	三三	一四	八	五五五	三〇八	二五七	四四〇	二六二	一七八
全州府	三〇	一八	一二	六六九	三五三	三一六	三八二	二二九	一六三
木浦府	二四	一三	一一	七二八	三八七	三四一	四七六	二七一	二〇五

掲

光州府	二九	一八	一一	八五三	四六四	三八九	四〇五	二三三	一七二
大邱府	一六二	八三	七八	二、三二二	一、二四一	一、〇八〇	一、四八〇	八〇九	六七二
釜山府	一四四	八三	六二	三、二一〇	一、七〇三	一、五二七	二、一六五	一、二二二	九四三
馬山府	三九	一八	一一	七八	三八八	三五〇	四五〇	二五二	一九八
平壤府	二五二	一三六	一六	五、二〇二	二、七三四	二、四六八	三、〇八八	一、七〇三	一、三八六
鎮南浦府	五三	二七	二六	一、三〇九	七〇七	六〇二	七〇三	三九三	三〇〇
新義州府	三七	二三	一四	一、一六九	六〇五	五六四	六七三	三五五	三八
元山府	六〇	三九	二二	一、〇三五	五六九	四五六	七二九	四四三	二八六
咸興府	五三	四〇	一三	一、一六二	六二八	五四三	六八九	三九六	二九三
清津府	六九	四三	二六	一、〇九四	六〇四	四九〇	七七四	四四〇	三三四
羅津府	二〇	一三	七	四六一	二二五	二二六	二九七	一五五	一四二

※ 男女合して線數に符合せざるは總數中に男女不詳一人を含むに因る。

十月乃至十二月計と曩に公表せる一月乃至九月累計と合計して一月乃至十二月累計に符合せざるは届出期間を経過して届出せられたるものあるに因る。

府は昭和十三年首現在とす。昭和十三年一月一日以降十二月末日迄に府の區域の變動したるもの左の如し、開城府に開豊郡、青郊、中西及嶺南各面一部を夫々編入（四月一日）大邱府に達成郡壽城面全部及城北、達西各面の一部を夫々編入（十月一日）平壤府に大同郡大同江、古平、龍山、西川、林原各面の一部を夫々編入（四月一日）鎮南浦府に龍岡郡大代面一部を編入（四月一日）

人口動態

昭和十四年

出生、死亡

昭和十四年 1月～3月

6.62	19.44
6.96	26.38
6.26	12.14
6.94	28.33
7.19	38.06
6.68	18.19
8.40	29.95
9.47	42.67
7.24	16.28
10.41	38.33
11.08	51.82
9.73	24.69
9.30	20.18
9.51	27.58
9.09	12.86
9.60	26.69
10.12	39.40
9.07	13.55
16.88	54.31

朝鮮人の出生及死亡

(昭和十四年一月乃至三月)

國勢調査課

羅南道	五六、七八〇・六	六〇、四一三・八一	六、五三三・八七九	五六、七八〇・六	六〇、四一三・八一	六、五三三・八七九
慶尙北道	三五、八五八・七	三四、三三二・〇〇〇	△七、四八四・〇一三	三五、八五八・七	三四、三三二・〇〇〇	△七、四八四・〇一三
慶尙南道	三一、五八六・八	三〇、二六六・二四六	△七、五〇〇・七九	三一、五八六・八	三〇、二六六・二四六	△七、五〇〇・七九
黃海道	一四、六五四・四	一一、七二八・四七一	九、六六・二	一四、六五四・四	一一、七二八・四七一	九、六六・二
平安南道	四、八三三・七	六、二六八・四一九	六、一七七・九七三	四、八三三・七	六、二六八・四一九	六、一七七・九七三
平安北道	一九〇・八	一二七、四八九	九八、五八八	一九〇・八	一二七、四八九	九八、五八八
江原道	五、一九五・四	三、八〇三・六〇九	七、八五・九二二	五、一九五・四	三、八〇三・六〇九	七、八五・九二二
咸鏡南道	三六・〇	三三、五三六	三一、九五四	三六・〇	三三、五三六	三一、九五四
咸鏡北道	—	—	—	—	—	—
合計	二二、五二・五	一八三、〇四八・五〇一	二、九六五・三〇三	二二、五二・五	一八三、〇四八・五〇一	二、九六五・三〇三

昭和十四年一月乃至三月の朝鮮に於ける朝鮮人の出生及死亡の概数は別紙の如く出生二六五、二二〇人、死亡一〇六、八六四人で兩者の差増即ち人口の自然増加は一五八、三五六人である。

之を前年同期即ち昭和十三年一月乃至三月と比較すると出生は八、九一二人を増加し死亡は四、一六五人を減少したので、差引自然増加に於ては一三、〇七七人の増加となつた。

尙出生並死亡の月別男女別男女の割合及一日平均出生及死亡は左の如くである。

總數	一 月	二 月	三 月	出 生				死 亡			
				總數	男	女	女百に 付男	總數	男	女	女百に 付男
總數	二五、三〇	一三七、一九三	一三八、〇二七	一〇七・一	二、九四六・八	二〇六、八六四	五七、六三三	四九、三四三	一一七・〇	一、一八七・三	均死亡
一 月	八九、四九	四七、〇三四	四三、四四五	二〇・八	二、八八五・八	三六、四九九	一九、六一〇	一六、八四九	二六・四	一、一七六・一	均死亡
二 月	八四、〇〇八	四三、一五七	四〇、八五一	一〇五・六	三、〇〇〇・三	三一、七八五	一七、一七〇	一四、六一五	二七・五	一、一三五・二	均死亡
三 月	九一、七五三	四七、〇二三	四四、七四一	一五・一	三、五九八・八	三八、六三〇	二〇、八四三	一七、七七八	二七・二	一、一四五・一	均死亡
總數を前年同期に比し(△減)	八、九二二	四、九二五	三、九六七	〇・五	九九・〇	四、一六五	一、九八九	二、一七六	△一・一	△四六・四	均死亡

昭和十四年一月乃至三月に於ける朝鮮人の出生及死亡(現在地別)(其の一)

全 鮮	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
京畿道	二五、三三〇	一三七、一九三	一三八、〇二七	一〇六、八六四	五七、六三三	四九、三四三	八九、四九九	四七、〇三四	四二、四四五	三六、四九九	一九、六一〇	一六、八四九
忠清北道	二六、五七〇	一三、六二七	一三、九四三	一一、五八一	六、二七〇	五、三一	九、三〇一	四、七四四	四、四五七	三、九三九	二、一二四	一、八〇五
忠清南道	一〇、八五三	五、六二一	五、二三三	四、七四五	二、五九九	二、二〇六	三、五〇三	一、八七五	一、六七七	一、六二五	八四五	七七〇
全羅北道	一八、八六八	九、八八七	八、九八一	六、二二八	三、三四七	二、八八一	六、一五一	三、三五五	二、八九六	二、一七九	一、一五九	一、〇二〇
全羅南道	一三、一九一	六、八八〇	六、三一	四、九六一	二、七六六	二、一九五	四、五五五	二、四三七	二、一八	一、七三八	九五六	七七二
慶尙北道	二四、三五五	一二、四四一	一一、九二四	八、七四三	四、七七三	三、九七〇	七、六八六	四、〇一九	三、六六七	二、八八一	一、五九二	一、三八九
慶尙南道	三二、四三〇	一六、三六〇	一五、〇六〇	一一、九三〇	六、五〇八	五、四二二	一〇、三三三	五、四八六	四、八三七	四、〇六七	三、三三七	一、八三〇
慶尙南道	二八、七九	一四、七三五	一四、〇六四	一一、八二八	六、二三九	五、五八九	一〇、一九二	五、二七一	四、九三〇	三、七〇五	一、九二四	一、七九一

道	二 月				三 月				前年同月			
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
黃海道	三〇,七二二	一〇,五四六	一〇,一七五	八,一七四	四,四二八	三,七五六	七,三八二	三,八〇三	三,四七八	三,〇四〇	一,六三七	一,四〇三
平安南道	一九,四四五	一〇,〇八〇	九,三六五	七,六四七	四,〇八九	三,五五八	六,七一	三,五〇九	三,三〇二	二,七四七	一,四七五	一,二七二
平安北道	三三,五四五	一一,七〇七	一〇,八三八	一〇,一六二	五,四四二	四,七三〇	七,五〇三	三,九一三	三,五九〇	三,四五八	一,八五九	一,五九九
江原道	一九,三三三	一〇,〇八一	九,三三三	九,一三五	四,八四〇	四,二八五	六,七六二	三,五四九	三,二二三	三,一四四	一,七〇三	一,四四一
咸鏡南道	一九,一九〇	一〇,〇七二	九,一一八	七,七四〇	四,二〇一	三,五三九	六,四九七	三,五〇四	二,九五三	二,六九八	一,四五〇	一,二四八
咸鏡北道	九,九五〇	五,一六六	四,七八四	四,〇一〇	二,一九〇	一,八二〇	三,一三六	一,六六九	一,四六七	一,二六八	六五九	六〇九

同 上 (其の二)

道	二 月				三 月				前年同月			
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
全 鮮	八四,〇〇八	四三,一五七	四〇,八五一	三,一七〇	一四,六二五	九,一七三	四七,〇二二	四四,七四二	三八,六三〇	三〇,八四三	一七,七八八	三五六,三〇八
京畿道	八,四一九	四,三六五	四,〇五四	三,四九四	一,九二二	一,五八二	八,九五〇	四,五八八	四,四三三	四,一五八	二,二三四	一,一九四
忠清北道	三,四三八	一,七六一	一,六六七	一,三八五	七四九	六三六	三,九三三	一,九八五	一,九三八	一,七四五	九四五	八〇〇
忠清南道	六,一〇四	三,三六	二,八七八	一,八八一	一,〇三八	八五三	六,六三	三,四〇六	三,〇〇七	二,一五八	一,一六〇	九八
全羅北道	四,三〇〇	二,三三九	二,〇七一	一,四五一	八三〇	六三一	四,三三六	二,二三四	二,一一二	一,七八二	九九〇	七九二
全羅南道	七,五九五	三,八七八	三,七一一	二,六一五	一,四〇七	一,三〇八	九,〇七四	四,五四四	四,五三〇	三,三四七	一,七七四	一,四七三
慶尙北道	九,八四〇	五,一一二	四,七二九	三,四八二	一,九〇五	一,五七七	一一,一五七	五,七五三	五,五〇四	四,三八一	二,三六六	二,〇二五
慶尙南道	九,三九九	四,八六	四,五八三	三,三九四	一,八三四	一,五六〇	九,一九九	四,六三八	四,五六二	四,七三九	二,四九二	二,三三八
黃海道	六,七六七	三,三三九	三,四〇八	二,五二七	一,三五〇	一,一六七	六,六七三	三,三八四	三,二八九	二,六二七	一,四三二	一,一八六
平安南道	五,九四九	三,〇三九	二,九一〇	二,一〇二	一,一五四	一,〇四七	六,七八五	三,五三三	三,二五三	二,六九九	一,四〇〇	一,一三九

前年同月

平安北道	六、九一九	三、五五一	三、三七八	三、一八三	一、七一六	一、四六七	八、一三三	四、四三三	三、八七〇	三、五二二	一、八六七	一、六五四	二、六五五	二〇、七七四
江原道	五、九〇〇	三、〇九〇	二、八九〇	二、七三三	一、四二七	一、三〇六	六、五八一	三、四四三	三、一三九	三、三四八	一、七二〇	一、五三八	一八、五五一	九、九三七
咸鏡南道	六、〇八八	三、〇八六	三、〇〇三	二、三三四	一、二〇九	一、〇三五	六、六四五	三、四八二	三、一六三	二、八〇八	一、五四三	一、二六六	一九、九七五	七、四三六
咸鏡北道	三、二二〇	一、六三六	一、五七四	一、三二五	六五九	五五六	三、六〇四	一、八六一	一、七四三	一、五三七	八七二	六五五	一〇、三六二	四、一〇三

再

掲 (其の下)

一月乃至三月計

一

月

府總數	出				死				出				死			
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數
府總數	一三、〇九八	六、八三二	六、二六六	六、五三二	三、六七八	二、八五三	四、八四二	二、五九九	二、二八三	三、三三二	一、三五六	九六五	一、三五六	九六五	一、三五六	九六五
京城府	四、三〇三	二、三三二	二、〇八一	二、三三五	一、三九八	一、〇三七	一、六三七	八三四	七九三	七八二	四二二	三六一	四二二	三六一	四二二	三六一
仁川府	六四八	三三〇	三三八	二八〇	一五三	一二八	二六	一〇一	一五	八七	五一	三六	一〇一	一五	三六	一〇一
開城府	五九四	三〇六	二八八	二八九	一六一	一二八	三〇	一〇八	一〇三	二〇九	六四	四四	二〇九	六四	四四	二〇九
大田府	二六五	一三六	一二九	九二	五五	三七	九一	四五	四六	三三	三〇	二二	三三	三〇	二二	三三
群山府	一九六	一〇六	九〇	一一〇	六三	四八	七四	四三	三一	三二	一八	一三	三二	一八	一三	三二
全州府	二二三	一二三	一一〇	九二	五五	三七	九四	五一	四三	三三	二〇	一四	三三	二〇	一四	三三
木浦府	二二〇	一一二	一〇九	一一五	七七	五八	八三	四三	三八	四四	三七	一七	四四	三七	一七	四四
光州府	二四六	一三七	一〇九	一〇三	六一	四一	八四	四四	四〇	三三	二二	一一	三三	二二	一一	三三
大邱府	一一三	五九六	五三六	五八六	三四〇	二四六	四〇五	二二三	一八二	二二〇	一三七	八三	二二〇	一三七	八三	二二〇
釜山府	一、〇二二	五三三	四八〇	六四五	三六四	二八一	三九〇	三〇一	一八九	一八五	一〇〇	八五	一八五	一〇〇	八五	一八五
馬山府	二六八	一四一	一二七	九六	五四	四二	一〇四	六〇	四四	二八	一五	一三	二八	一五	一三	二八

海州府	三〇	二五八	一五三	二四八	七六	七二	一〇五	五四	五一	六三	二九
平壤府	一、五九九	八四三	七五七	六三一	三三九	二九三	五八二	三三三	二六〇	三三九	一二七
鎮南浦府	四三〇	二四四	一八六	一九一	一三三	六	一五〇	八八	六三	七六	五一
新義州府	四〇四	三三四	一八〇	一六三	九〇	七三	一四七	八五	六二	五七	三〇
元山府	三三三	一七三	一六〇	一七八	一二三	五五	一三八	八〇	五九	五九	三九
咸興府	三五一	一八九	一六二	一七〇	一〇三	六	一四五	七三	七二	六六	四一
清津府	三六八	一九三	一九五	二〇八	二八	九〇	一五一	八〇	七二	七六	四四
羅津府	一七八	八〇	九八	八〇	三八	四三	四六	三三	二四	二二	一一
同 上 (其の二)											
府總數	三、五九	二、〇四三	一、九六	一、九七三	一、〇九八	八七五	四、二九七	二、三三九	二、〇六八	二、三三七	一、三三四
京城府	一、二五九	六五〇	六〇九	七二六	三三四	三三三	一、四一六	七三七	六七九	八三七	四八三
仁川府	一八四	一〇四	八〇	七三	三七	三六	二四八	二五	一三三	一〇〇	六四
開城府	一八七	一〇三	八四	八五	四四	四〇	一九七	九五	一〇二	九五	五二
大田府	七二	三七	三四	三三	二〇	一一	一〇三	五四	四九	二九	一五
群山府	六九	四〇	三九	三八	二六	二三	五三	三三	三〇	四一	一八
全州府	六二	三二	三〇	三三	二〇	一一	六八	三二	三七	二七	一五
木浦府	五	三	三	三	一七	一七	八二	四五	三七	五七	三三
總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
出生	二	生	死	月	亡	出生	三	生	死	月	亡
前年同期	出生	死亡	出生	死亡	出生	死亡	出生	死亡	出生	死亡	出生

光州府	七九	四〇	五九	三三	一七	一六	八三	五三	三〇	三七	二三	一四	二四八	一三三
大邱府	三六四	一九四	一七〇	一七三	九八	七五	三五三	一七九	一七四	二〇三	一二五	八八	六二六	三三八
釜山府	三五	一六	一五四	三九	一五四	九五	三〇七	一七〇	一三七	二二	一三〇	一〇一	一、〇三三	五四二
馬山府	七四	三九	五	三六	二〇	一六	九〇	四三	四八	三三	一九	一三	二二三	一二二
海州府	一〇三	五三	四九	三六	一九	一七	一〇三	五二	五二	四九	二八	二二	—	—
平壤府	五〇一	二五三	二四八	一六四	八三	八一	五六	二六七	二四九	二三八	一二九	一〇九	一、四二〇	七三四
鎮南浦府	二六	六一	五	四	二八	一七	一五四	九五	五九	七〇	四	二六	三七二	一八九
新義州府	一三五	七一	六四	四八	五九	一九	一三三	六八	五四	五八	三一	二七	三六二	一九一
元山府	一〇〇	四	五	五三	三三	二二	九四	四七	四七	六六	四三	二四	二七五	一五四
咸興府	九〇	五〇	四〇	五	三	二〇	一六	六	五〇	五一	二八	三三	三三九	一七九
清津府	二四	五七	五七	六	五	二九	一三三	五六	六七	六八	三九	二九	三九六	三三八
羅津府	六三	三三	四〇	三一	一一	二〇	六九	三五	三四	二八	一六	二二	一三三	六二

備考 府は昭和十四年首現在とす。